

もくじ

もくじ	1
はじめに	6
DynaBook でやりたいことを探そう！	12
Media Center を使うための準備	16
① テレビ番組を見る	16
② リモコンを準備する	20

1 章 本体の機能

23

1 各部の名前	24
① 前面図	24
② 背面図	26
③ 裏面図	27
2 システムインジケータ	29
3 モードパネルと各ボタン	30
① モードパネル	30
② ワンタッチボタン	32
③ オーディオ／アプリケーションボタン	33
④ 東芝コントロールで設定する	35
4 キーボード	40
① キーボード図	40
② キーシフトインジケータの切り替え	42
③ キーを使った便利な機能	43
5 タッチパッド	47
① タッチパッドを設定するには	47
② タッピング機能	48
③ タッチパッドを無効／有効にするには	49
④ その他の設定	50
6 ディスプレイ	52
① ディスプレイの設定	52
7 ハードディスクドライブ	58
① ハードディスクドライブに関する表示	58

8	サウンド機能	59
	① スピーカの音量を調整する	59
	② 音楽／音声の録音レベルを調整する	60
9	ドライブ	62
	① 使用できるメディアと対応するアプリケーション	63
	② 使用できる CD	64
	③ 使用できる DVD	65
	④ DVD-RAM を使うときは	67
10	SD メモリカード	72
	① SD メモリカードについて	72
	② SD メモリカードのセットと取り出し	73
	③ SD メモリカードを使う前に	74
11	セキュリティロック	78

2章 音楽と映像

79

1	音楽 CD を聴く	80
	① Windows を起動して音楽 CD を聴く	80
	② Windows を起動しないで音楽 CD を聴く	85
2	音楽ファイルを聴く	87
	① 音楽再生用アプリケーションを起動する	87
	② BeatJam でファイルを再生する	88
	③ Windows Media Player でファイルを再生する	91
3	オリジナル音楽 CD を作る	95
	① Drag'n Drop CD + DVD を使うために	95
	② Drag'n Drop CD + DVD を使う	97
	③ Drag'n Drop CD + DVD を終了する	99
4	オリジナル MD を作る	100
5	DVD-Video を観る	101
	① InterVideo WinDVD を起動する	102
	② InterVideo WinDVD を使う	104
6	デジタルカメラの写真を編集／整理する	108
	① デジカメ Walker を使う	108

7 オリジナルDVDを作る	111
① 映像データをパソコンに取り込む	111
② 映像データの編集について	112
③ 映像データをDVDに書き込む	113

3章 通信機能

117

1 LANへ接続する	118
① ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）	118
② ケーブルを使わないLAN接続（無線LAN）	120
③ ネットワーク設定に便利な機能	131
2 Bluetooth機能を使う	135
① Bluetoothとは	135
② Bluetooth機能を使って通信する	138
3 新着メールをモードパネルで確認する	146
① 新着メールチェックの設定をする	147
② 新着メールを確認する	153
③ 新着メールチェックを停止する	154
4 内蔵モデムについて	155
① 海外でインターネットに接続する	155

4章 周辺機器の接続

159

1 周辺機器について	160
① 周辺機器を使う前に	161
2 マルチスタイルベイ機器を差し替える	163
① マルチスタイルベイ機器について	163
② マルチスタイルベイ機器の差し替え	164
3 フロッピーディスクドライブを接続する	167
① フロッピーディスクドライブ	167
② フロッピーディスク	168
③ フロッピーディスクを使う前に	169

4	PC カードを接続する	173
	① PC カードを使う前に	173
	② PC カードを使う	174
5	USB 対応機器を接続する	176
6	テレビを接続する	178
7	外部ディスプレイを接続する	185
8	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	187
9	光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する	189
10	その他の機器を接続する	192
	① マイクロホン	192
	② ヘッドホン	193
	③ オーディオ機器	194
11	メモリを増設する	196

5章 バッテリ駆動

201

1	バッテリーについて	202
	① バッテリ充電量を確認する	203
	② バッテリを充電する	206
	③ バッテリパックを交換する	208
2	省電力の設定をする	210
	① 東芝省電力ユーティリティ	210
3	パソコンの使用を中断する／電源を切る	216
	① スタンバイ	216
	② 休止状態	218
	③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する	220

6章 アプリケーションについて

223

1	アプリケーションを追加（インストール）する	224
2	アプリケーションを削除（アンインストール）する	225

7章 システム環境の変更

227

- 1 システム環境の変更とは 228
- 2 東芝 HW セットアップを使う 229
 - ① 東芝 HW セットアップの起動と使用 229
- 3 パスワードセキュリティ 233
 - ① ユーザパスワード 234
 - ② ユーザパスワードの入力 236
 - ③ スーパーバイザパスワード 237

付録

239

- 1 本製品の仕様 240
 - 2 技術基準適合について 248
 - 3 無線 LAN について 260
 - 4 Bluetooth について 268
- 総合さくいん 274

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っているると便利な内容を示します。
 役立つ 操作集	知っているると役に立つ操作を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 … 「 」 他のマニュアルへの参照の場合 … 『 』 サイバーサポートへの参照の場合 … 〈 〉 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

*1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

*2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

*3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムはWindows XPです。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP

Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2004 operating system 日本語版を示します。

Media Center

Windows XP Media Center Edition を示します。

MS-IME Microsoft® IME 2003 / ナチュラル インプット 2003 を示します。

サイバーサポート

CyberSupport for TOSHIBA を示します。

ドライブ DVD マルチドライブを示します。

 詳細について「1 章 9 ドライブ」

SR-1 同梱モデル

スピーチレコグナイザー SR-1 が同梱されているモデルを示します。

 詳細について『スピーチレコグナイザー SR-1 取扱説明書』

記載について

- ・インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱のCD / DVD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Windows Media、Office ロゴ、Outlook は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ CyberSupport、BeatJam は、株式会社ジャストシステムの商標または登録商標です。
- ・ CyberSupport、BeatJam は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport、BeatJam にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・ CDDDB は Gracenote の登録商標です。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・ Fast Ethernet、Ethernet は富士ゼロックス社の商標または登録商標です。
- ・ Bluetooth は、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- ・ LaLaVoice、ConfigFree は（株）東芝の登録商標です。
- ・ The 翻訳、The 翻訳インターネットは、東芝ソリューション株式会社の商標です。
- ・ 駅前探検倶楽部は株式会社駅前探検倶楽部の登録商標です。
- ・ ekitanExpress Online の商標は出願中です。
- ・ Adobe、Adobe ロゴは Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
- ・ Drag'n Drop はイージーシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの登録商標です。
- ・ 駅すぱあととは株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- ・ プロアトラスは株式会社アルプス社および株式会社アルプス出版社の登録商標です。
- ・ Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdate は Symantec Corporation の登録商標です。
Norton Internet Security は Symantec Corporation の商標です。
©2003 Symantec Corporation, All Rights Reserved.
- ・ InterVideo、WinDVD、WinDVD Creator は InterVideo, Inc. の登録商標または商標です。
- ・ Liquid View は、Portrait Displays の登録商標です。
- ・ MagicGate、“メモリースティック”、、“OpenMG” および “OpenMG” ロゴ は、ソニー株式会社の商標です。
- ・ Sonic PrimeTime は、Sonic Solutions 社の商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

ドルビー商標について

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

Dolby、ドルビー及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使用されているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・ 周辺機器を接続して本製品を使用している場合
- ・ AC アダプタを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- ・ マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・ 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- ・ 複雑な造形に使用するソフト (例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- ・ 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000 メートル (3,280 フィート) 以上をお考えください。
- ・ 目安として、気温 5 ~ 35℃ (高所の場合 25℃) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイアル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ず読んでください。次の操作を行う则表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）は、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- ・ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』またはインターネット経由で登録できます。

 **参照** 詳細について『まずはこれから ユーザ登録をする』

『保証書』は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

DynaBookでやりたいことを探そう!



Welcome!

探しかた

- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」 ⇒ XXXXX
↳ アプリケーション名 ↳ 参照ページまたは参照マニュアル名



通信を楽しむ

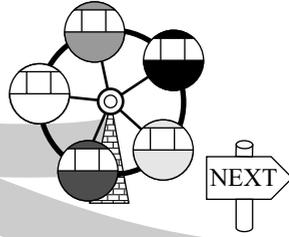
- ・ プロバイダと契約したい
「簡単インターネット」 ⇒ 『基本をマスター 2章』
- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」 ⇒ 『基本をマスター 2章』
- ・ ホームページを英語／日本語に翻訳したい
「The翻訳インターネット」 ⇒ 『サイバーサポート』
- ・ 海外でインターネットに接続したい
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」 ⇒ P.155
- ・ ネットワークの診断や切り替えをしたい
「ConfigFree」 ⇒ P.131
- ・ Bluetooth機能を使いたい
「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」 ⇒ P.135



メールを使う

- ・ メールとスケジュールをまとめて管理したい
「Microsoft Office Outlook」 ⇒ 『サイバーサポート』
- ・ メールをしたい
「Microsoft Office Outlook」「Outlook Express」
⇒ 『基本をマスター 3章』
- ・ 自動メールチェックしたい
「メール着信ユーティリティ」 ⇒ P.146
「ばらちゃん」 ⇒ 『サイバーサポート』





画像 / 映像を楽しむ

- デジタルカメラの写真を取り込んで編集したい
「デジカメWalker (Ulead iPhoto Express)」⇒P.108
- 映像を取り込んで編集し、DVDを作りたい
「WinDVD Creator 2 Platinum」⇒P.111
- DVDを楽しみたい
「InterVideo WinDVD」⇒P.101



Media Centerを使う

- テレビ番組 / 画像 / 映像 / 音楽を楽しみたい
「Media Center」⇒P.16
- テレビ番組をDVDに保存したい
「PrimeTime」⇒「Microsoft® Windows® XP
Media Center Edition 2004
ガイドブック」



音楽を楽しむ

- 音楽CDやファイルを再生、管理したい
「BeatJam」⇒P.80
- 音楽CDやファイル、ムービーを再生したい
「Windows Media Player」⇒P.80
- オリジナル音楽CDを作りたい
「Drag'n Drop CD+DVD」⇒P.95



文書/表を作る



- ・案内状や報告書を作りたい
「Microsoft Office Word」⇒《サイバーサポート》
- ・表やグラフを作りたい
「Microsoft Office Excel」⇒《サイバーサポート》



便利なソフト

- ・PDFファイルを見たい
「Adobe Reader」⇒《サイバーサポート》
- ・地図で場所を調べたい
「プロアトラスW2 for TOSHIBA」⇒《サイバーサポート》
- ・電車の経路や時刻表、運賃を調べたい
「駅すばあと」「ekitanExpress Online」⇒《サイバーサポート》
- ・年賀状や暑中見舞いを作りたい
「筆ぐるめ」⇒《サイバーサポート》
- ・パソコンを音声で操作したい
パソコンに文章を読み上げさせたい
「LaLaVoice」⇒《サイバーサポート》
- ・キャラクターで遊びたい
「ぱらちゃん」⇒《サイバーサポート》



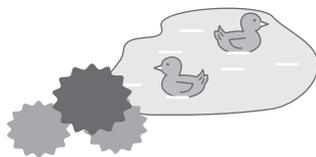
パソコンを守る

- ・ウイルスのチェックや駆除をしたい
「Norton Internet Security」⇒『困ったときは 2章』
- ・CD/DVDにバックアップを取りたい
「Drag'n Drop CD+DVD」⇒『困ったときは 2章』



パソコンの設定

- ・パソコンの状態をチェックしたい
パソコンの基本情報を知りたい
「東芝PC 診断ツール」⇒『困ったときは1章』
- ・ハードウェアの設定を変えたい
「東芝 HW セットアップ」⇒P.229
- ・モードパネルやボタンの設定を変えたい
「東芝コントロール」⇒P.35
- ・キー操作でアプリケーションを起動したい
「Fn-esse」⇒《サイバーサポート》
- ・バッテリー駆動のときの省電力設定をしたい
「東芝省電力ユーティリティ」⇒P.210
- ・アイコンやメニューを大きくしたい
「Liquid View」⇒《サイバーサポート》



【 テレビ視聴と録画について 】

- 本製品を利用して映像・音声を視聴される場合、MPEG 変換のために実時間より数秒程度再生が遅れます。厳密に実時間で見る必要がある場合は、本製品を使わず直接テレビでご視聴ください。
- バッテリ駆動で使用中にテレビ視聴や録画を行うと、バッテリーの消耗などによって画像がコマ落ちするおそれがあります。必ず AC アダプタを電源コンセントに接続して、使用してください。
また、本製品の省電力機能が実行されないようにしてください。

参照▶ 省電力機能について「5章 2 省電力の設定をする」

- 録画中や再生中にパソコン本体に振動や衝撃を加えると、映像が途切れたり、停止したりしてしまうことがあります。
- ビデオデッキでビデオテープを再生して本製品に入力する場合、古いテープなどノイズが多いテープを使用すると、コピープロテクト機能が働いて正常に動作しない場合があります。
- CATV 番組の受信には、使用する機器ごとに CATV 会社との受信契約が必要です。また、スクランブルのかかった番組（有料放送など）の視聴・録画にはホームターミナル（アダプタ）が必要になる場合があります。詳しくは、各 CATV 会社にお問い合わせください。

2 TVチューナについて

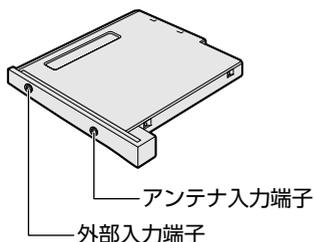
TVチューナは、マルチスタイルベイ機器の1つです。マルチスタイルベイ機器は、パソコン本体のマルチスタイルベイに取り付けて使用します。

購入時は、TVチューナがマルチスタイルベイに取り付けられていますので、そのまま使用することができます。

ウェイトセーバやその他のマルチスタイルベイ機器に差し替えた場合は、TVチューナに差し替え直してください。

参照▶ 詳細について「4章 2 マルチスタイルベイ機器を差し替える」

【 TV チューナ 】



【 本体に取り付けた状態 】



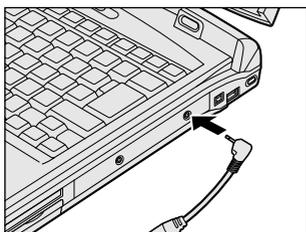
3 アンテナケーブルの接続

外部アンテナをアンテナケーブルで TV チューナに接続します。
市販のアンテナケーブル（同軸 75 Ω F 型（VHF/UHF 兼用））を使用してください。

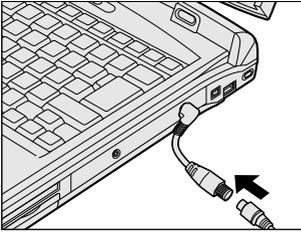
⚠ 注意

- 雷が鳴り出したら、アンテナ線には触れないでください。感電の原因となります。

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 同梱のアンテナ変換プラグを TV チューナのアンテナ入力端子に接続する



3 アンテナ変換プラグにアンテナケーブルを接続する

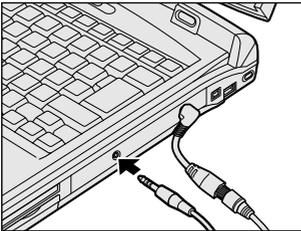


4 外部入力端子への接続

ビデオデッキなどをTVチューナに接続することができます。

接続には、同梱のビデオケーブルを使用してください。

1 ビデオケーブルをTVチューナの外部入力端子に接続する



TVチューナの取り扱いと手入れ

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5～35℃、湿度 20～80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本製品が熱くなることがあります。本製品の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。

2) リモコンを準備する

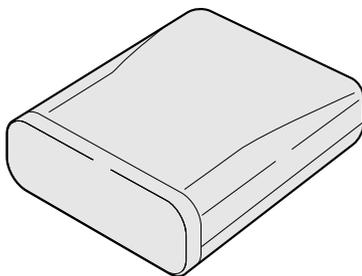
本製品は、同梱のリモコンを使って、離れた場所から「Media Center」を操作することができます。

リモコンの使いかたについては、『Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2004 ガイドブック』を確認してください。

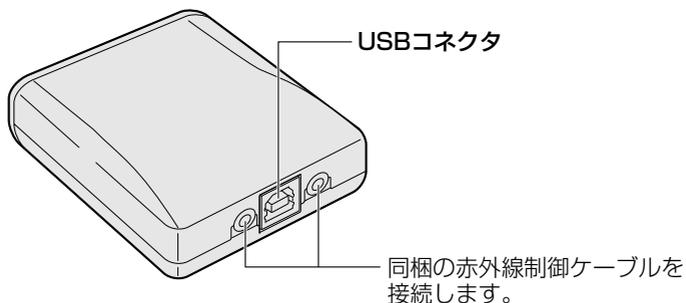
1 リモコンを使う前に

リモコンの信号は、同梱のリモコン受光ユニットで受信します。

【 前面 】

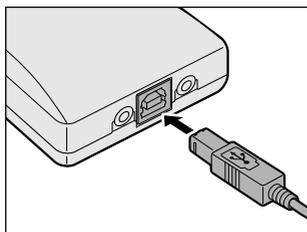


【 背面 】



リモコンを使う前に、リモコン受光ユニットをパソコン本体に接続してください。接続には、同梱のUSB ケーブル（リモコン受光ユニット接続用）を使用します。

1 USB ケーブルのプラグを、リモコン受光ユニットのUSB コネクタに接続する



2 USB ケーブルのプラグを、パソコン本体のUSB コネクタに接続する

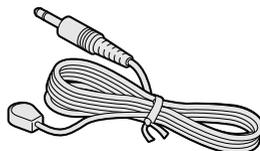
参照▶ 接続について「4章 5 USB 対応機器を接続する」

役立つ 操作集

赤外線制御ケーブルについて

CATV 番組を受信するホームターミナル（アダプタ）などをセットトップボックスといいます。同梱の赤外線制御ケーブルは、セットトップボックスを使用している場合に、同梱のリモコンでセットトップボックスを操作するために使用します。

詳しくは、『Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2004 ガイドブック』を確認してください。



1 章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

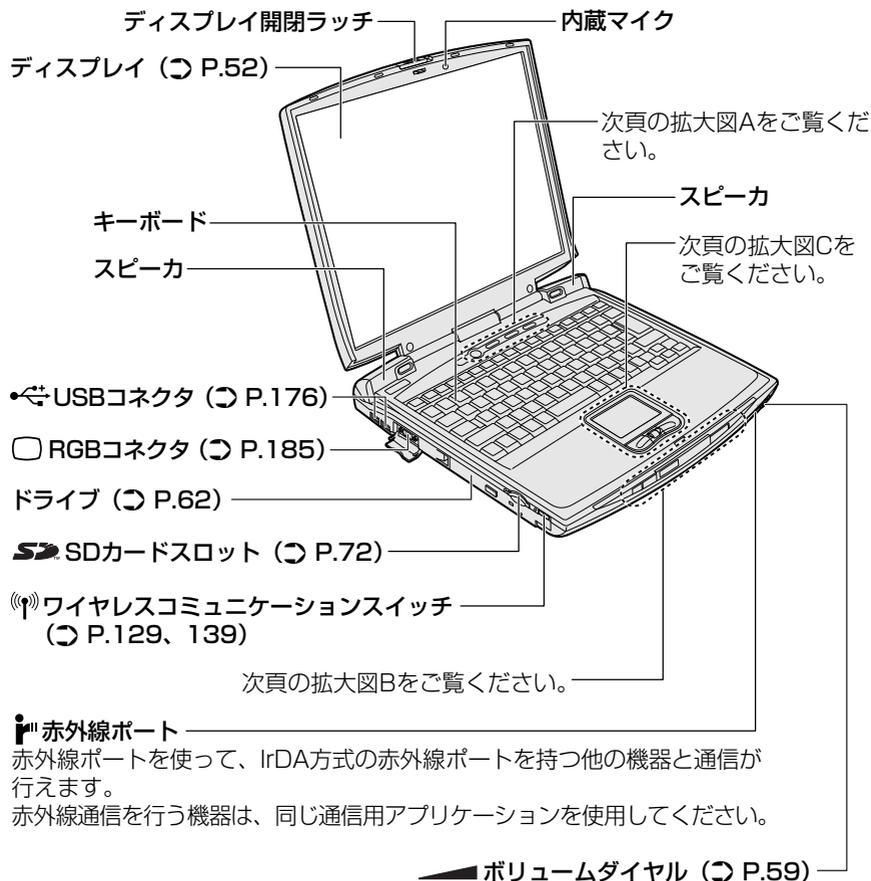
また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。各部の手入れについても確認してください。

1	各部の名前	24
2	システムインジケータ	29
3	モードパネルと各ボタン	30
4	キーボード	40
5	タッチパッド	47
6	ディスプレイ	52
7	ハードディスクドライブ	58
8	サウンド機能	59
9	ドライブ	62
10	SDメモ리카ード	72
11	セキュリティロック	78

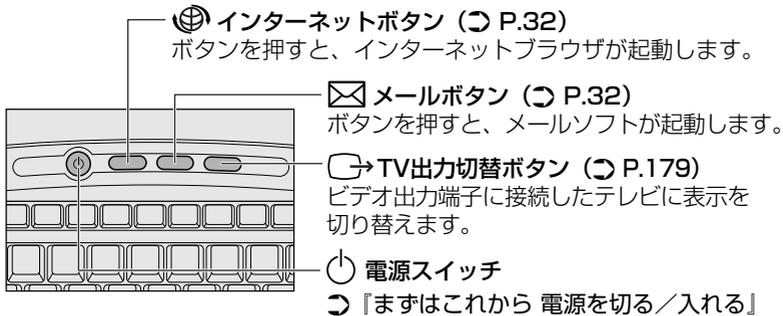
1 各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明は、各参照先を確認してください。

1 前面図

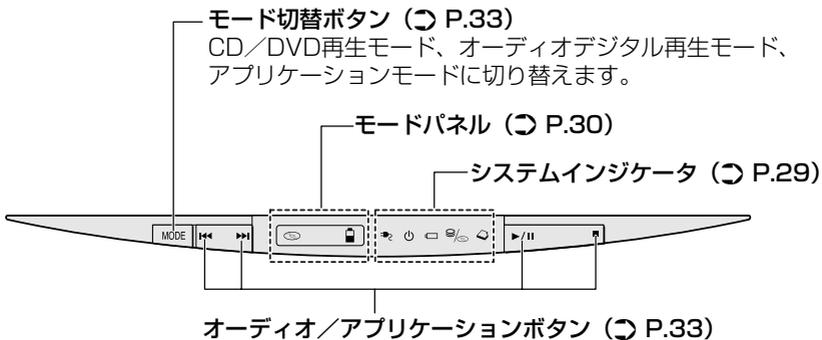


【拡大図 A】

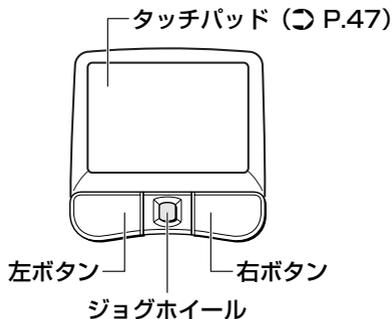


電源スイッチ、ワンタッチボタンは、モードパネルと同じように、青色に点灯します。(☞ P.30)

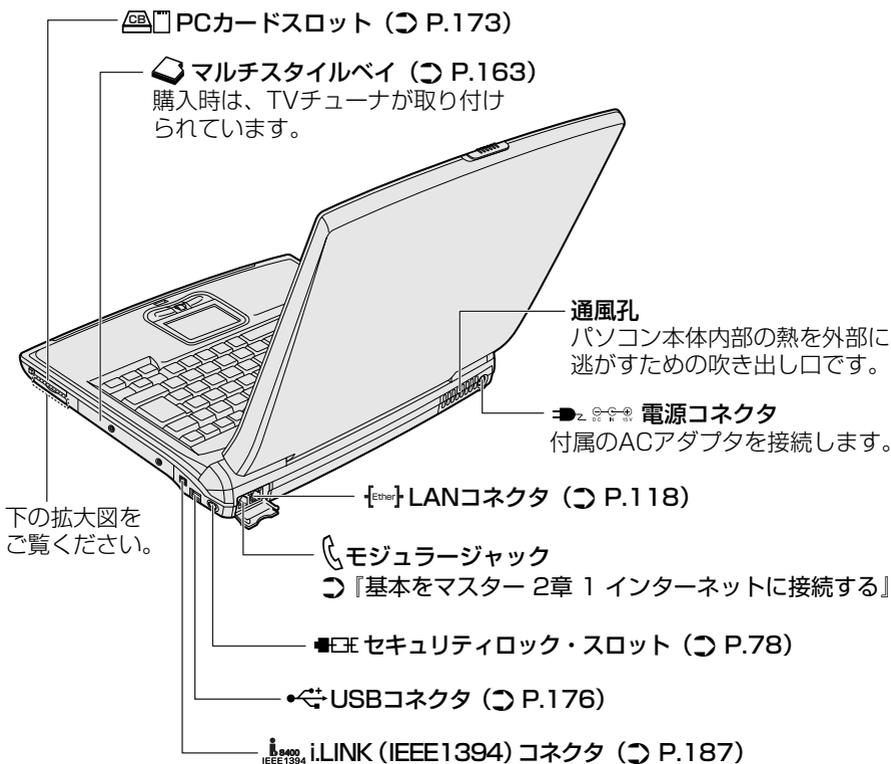
【拡大図 B】



【拡大図 C】

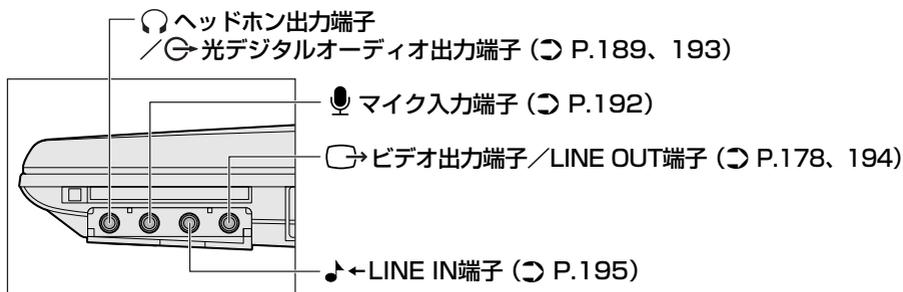


2 背面図

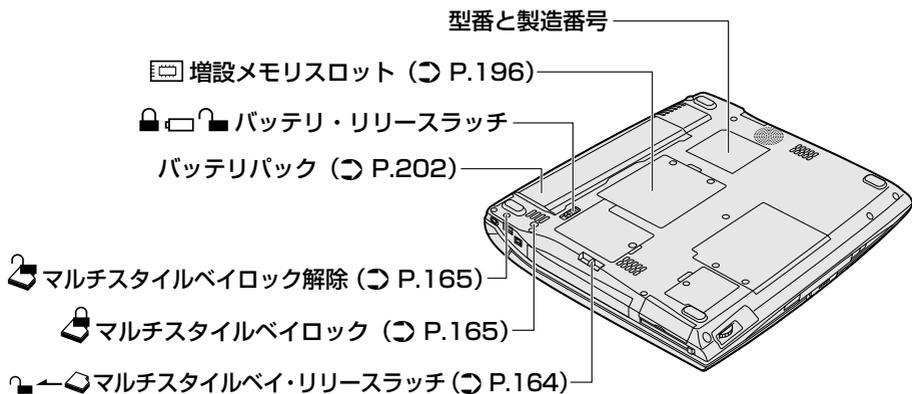


【拡大図】

コネクタカバーを開くと、次のコネクタがあります。



3 裏面図



【電源コードとACアダプタの仕様について】

電源コードの仕様

本製品に同梱されている電源コードは、日本国内（AC100V）専用*です。その他の国・地域で使用する場合は、当該国・地域の法令・安全規格に適合した電源コードを現地で購入のうえ、お使いください。

*日本の安全規格である、電気用品安全法に適合しています。

ACアダプタの仕様

本製品に同梱されているACアダプタは、海外でも使用できます。

ACアダプタの仕様は次のとおりです。

入力：AC100V～240V、1.2A～0.6A、50/60Hz

出力：15V、5A

⚠ 警告

- 必ず、本製品付属のACアダプタを使用してください。本製品付属以外のACアダプタを使用すると電圧や（+）（-）の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- パソコン本体にACアダプタを接続する場合、必ず『まずはこれから』に記載してある順番を守って接続してください。順番を守らないと、ACアダプタのDC出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、ACアダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

注意

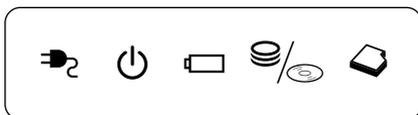
- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

パソコン本体 / 電源コードの取り扱いと手入れ

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5～35℃、湿度 20～80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所 / 非常に高温または低温になる場所 / 急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため） / 強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く） / ホコリの多い場所 / 振動の激しい場所 / 薬品の充満している場所 / 薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリを拭き取ってください。

2 システムインジケータ

システムインジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。



【システムインジケータ】

	DC IN LED	電源コードの接続 参照 ▶ 『まずはこれから』
	Power LED	電源の状態 参照 ▶ 『まずはこれから』
	Battery LED	バッテリーの状態 参照 ▶ P.203
	HDD/CD-ROM LED	内蔵のハードディスクドライブまたはドライブにアクセスしている 参照 ▶ P.58、62
	マルチスタイルベイ LED	マルチスタイルベイに取り付けられている機器（60GB ハードディスクユニット（別売り）など）にアクセスしている TV チューナを取り付けている場合は、点灯しません。 参照 ▶ P.163

3 モードパネルと各ボタン

モードパネルの表示と、ワンタッチボタンやオーディオ／アプリケーションボタンについて説明します。

1 モードパネル

モードパネルは、パソコンの状態をアイコンで表示したり、時計、新着メール数などを文字列で表示したりできます。



1 モードパネルの点灯

モードパネルは、次のときに、青色に点灯します。

- 電源スイッチを押したとき
 - ワンタッチボタンを押したとき
 - モード切替ボタン、オーディオ／アプリケーションボタンを操作したとき
- パソコン本体の電源が入っているときは、常に点灯する設定もできます。

参照▶ 詳細について「本節 ④ 東芝コントロールで設定する」

2 モードパネルに表示されるアイコン

モードパネルに表示されるアイコンの表示状況によって、パソコン本体がどのような動作をしているか知ることができます。

次のアイコンはパソコン本体の動作状況を表しています。

	CD/DVD 再生アイコン	CD/DVD 再生モード 参照 ▶ P.33、84、85、103
	オーディオデジタル再生アイコン	オーディオデジタル再生モード 参照 ▶ P.33、87
	アプリケーション起動アイコン	アプリケーションモード 参照 ▶ P.33
	オーディオ／アプリケーションボタンロック機能アイコン	オーディオ／アプリケーションボタンがロックされている 参照 ▶ P.34
	バッテリー残量アイコン	バッテリーの状態 参照 ▶ P.204

3 モードパネルに表示される文字列

モードパネルには、半角のカタカナと英数字の文字列が表示できます。表示される内容は次のとおりです。

モードパネルの表示	内容
時計	<p>パソコンが次の状態のときに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っているとき ・スタンバイ機能を実行しているとき ・休止状態のとき ・電源が切れているとき
新着メール数	<p>パソコンが次の状態のときに新着メール数が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っていて、メールアプリケーションを起動していないとき ・スタンバイ機能を実行しているとき ・休止状態のとき ・電源が切れているとき
登録した文字列	<p>アプリケーションを起動していないときに表示される文字列です。</p> <p>パソコンが次の状態のときに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っているとき ・スタンバイ機能を実行しているとき ・休止状態のとき ・電源が切れているとき <p>「東芝コントロール」であらかじめ半角 32 文字以内のカタカナと英数字の文字列を登録できます。</p>
メッセージ	<p>システムのメッセージやアプリケーションのメッセージが表示されます。例えば、電源を入れたときに、「Welcome」と表示されます。パソコンの電源が入っているときに表示されます。</p>

 文字列の登録について 「本節 ④ 東芝コントロールで設定する」

2 ワンタッチボタン

本製品には、ワンタッチボタンがあります。

TV出力切替ボタンは、ビデオ出力端子に接続したテレビに表示を切り替えることができます。

 参照 ▶ テレビへの表示について 「4章 6 テレビを接続する」

次の2つの各ボタンを押すと設定されているアプリケーションが起動します。

起動するアプリケーションは、「東芝コントロール」で自由に変更できます。購入時に各ボタンに設定されているアプリケーションは次のとおりです。

- インターネットボタン Internet Explorer
- メールボタン Microsoft Office Outlook

 参照 ▶ アプリケーションの設定について
「本節 ④ 東芝コントロールで設定する」

【パソコン本体の電源が入っていないとき】

- ① インターネットボタン、メールボタンを押す

電源が入り、Windowsが起動し、[開始するにはユーザー名をクリックしてください] 画面が表示されます。

- ② ログオンしたいユーザー名をクリックする

Windowsログオンパスワードを設定している場合は、パスワードを入力し、 ボタンをクリックしてください。

選択したユーザアカウントでログオンします。

その後、設定されているアプリケーションが起動します。

【スタンバイ状態／休止状態のとき】

インターネットボタン、メールボタンを押すと、スタンバイ状態／休止状態を実行する直前の状態が再現されてから、設定されているアプリケーションが起動します。

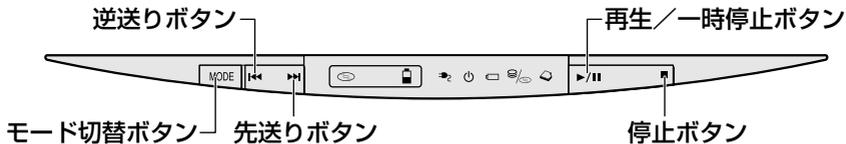
3 オーディオ／アプリケーションボタン

モード切替ボタンで、CD/DVD再生モード（）、オーディオデジタル再生モード（）、アプリケーションモード（）にしているときに、オーディオ／アプリケーションボタンで操作できます。

ただし、オーディオ／アプリケーションボタンで操作するアプリケーションとモードの状態（モードパネルのアイコン表示）が対応していないと操作できません。

お願い

- オーディオ／アプリケーションボタンで「Media Center」の操作はできません。
- 「Media Center」が動作しているときは、CD/DVD再生モード、オーディオデジタル再生モードでオーディオ／アプリケーションボタンを使用できません。その場合は、「Media Center」を終了してください。



モード切替ボタンを押すごとに、モードが切り替わります。モードの状態は、モードパネルにアイコンで表示されます。

- CD / DVD 再生モード（）
CD / DVD を再生できます。

参照 → 詳細について「2章 1 音楽 CD を聴く」「2章 5 DVD-Video を観る」

- オーディオデジタル再生モード（）
音楽ファイルを再生できます。

参照 → 詳細について「2章 2 音楽ファイルを聴く」

- アプリケーションモード（）
登録したアプリケーションを起動できます。

各モード時に操作するアプリケーションは、「東芝コントロール」で設定します。

参照 → 詳細について「本節 4 東芝コントロールで設定する」

各モード時に、オーディオ/アプリケーションボタンはそれぞれ次の機能を持っています。

ボタン	CD/DVD 再生モード ()	オーディオデジタル再生モード ()	アプリケーションモード ()
	逆送りボタン		アプリケーションボタン 1
	先送りボタン		アプリケーションボタン 2
	再生/一時停止ボタン		アプリケーションボタン 3
	停止ボタン		アプリケーションボタン 4

オーディオ/アプリケーションボタンロック機能

本製品を持ち運ぶ場合、誤ってオーディオ/アプリケーションボタンが押されると、アプリケーションが起動してしまう可能性があります。

そこで、オーディオ/アプリケーションボタンを一時的に機能しないようにする「オーディオ/アプリケーションボタンロック機能」があります。

なお、オーディオ/アプリケーションボタンロック機能はパソコンの電源が切れている場合のみ使用できます。

オーディオ/アプリケーションボタンロック機能を有効にするには、次のように操作します。

1 モード切替ボタンを 4 秒以上押す

オーディオ/アプリケーションボタンロック機能を解除する場合も、同様にモード切替ボタンを 4 秒以上押してください。

また、電源スイッチを押してパソコンの電源を入れると、オーディオ/アプリケーションボタンロック機能は解除されます。

オーディオ/アプリケーションボタンロック機能の使用中は、モードパネルにオーディオ/アプリケーションボタンロック機能アイコン () が表示されます。

4 東芝コントロールで設定する

「東芝コントロール」でモードパネルやボタンの設定ができます。設定できる内容は、次のとおりです。

- アプリケーションが起動されていないときに、モードパネルに表示される文字列
- 新着メールチェック機能を使用するときのモードパネルの表示
- インターネットボタン、メールボタンを使用して起動するアプリケーションの変更
- オーディオ／アプリケーションボタンで操作するアプリケーションの設定

1 起動方法

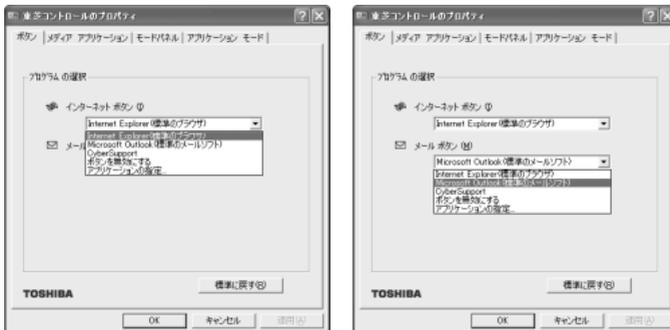
- 1 【コントロールパネル】を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝コントロール] をクリックする

2 【ボタン】タブ

インターネットボタン、メールボタンを押したときに起動するアプリケーションを変更できます。



- 1 変更するボタン名の下に  ボタンをクリックする
アプリケーションの一覧が表示されます。



- 2 アプリケーションを選択して、[OK] ボタンをクリックする

3 【メディアアプリケーション】タブ

CD/DVD 再生モード（👁️）、オーディオデジタル再生モード（🎵）のときに、オーディオ/アプリケーションボタンで操作するアプリケーションを設定します。



1 変更するモードの右の ▾ ボタンをクリックする

CD/DVD 再生モード（👁️）の場合は [CD オーディオコントロール] と [DVD ビデオコントロール]、オーディオデジタル再生モード（🎵）の場合は [オーディオ/ビデオコントロール] で設定します。

2 アプリケーションを選択して、[OK] ボタンをクリックする

4 【モードパネル】タブ

モードパネルの表示を設定できます。



1 【表示モード】で、モードパネルに表示したい内容を選択する

次の設定を選択できます。[オーナストリング表示]を選択する場合は、登録したい文字列を入力してください。

時計表示 (24H)	時計および曜日を表示します (24 時間、曜日)。
時計表示 (12H)	時計を表示します (12 時間、AM / PM)。
オーナストリング表示	登録した文字列を表示します。 表示できる文字列は半角のみ、32 文字以内のカタカナおよび英数字です。

2 【OK】 ボタンをクリックする

時計表示とオーナストリング表示では、オーナストリング表示が優先されます。

[バックライトを常時点灯する] をチェックすると、パソコン本体の電源が入っているときはモードパネルのバックライト、電源スイッチ、ワンタッチボタンが常に点灯します。

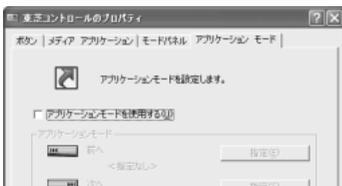
[新着メール情報を表示する] をチェックすると、新着メールチェックを行い、新着メールがある場合はモードパネルに新着メール数が表示されます。

[新着メール情報を表示する] をチェックして [設定] ボタンをクリックすると、[新着メールチェックのスケジュール設定] 画面が表示されます。

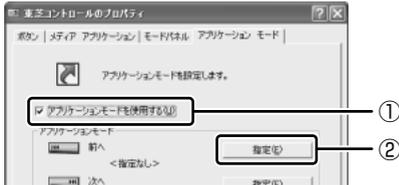
5 【アプリケーションモード】タブ

モード切替ボタンでアプリケーションモード () を使用するかどうかを設定します。また、アプリケーションモード () 時にオーディオ／アプリケーションボタンで起動するアプリケーションを設定できます。

ここでは、アプリケーションボタン 1 に「ペイント」を設定する例で変更方法を説明します。



- 1 [アプリケーションモードを使用する] をチェックし①、[アプリケーションモード] で設定を行うアプリケーションボタンの [指定] ボタンをクリックする②



[指定] 画面が表示されます。

- 2 [参照] ボタンをクリックする
[ファイルを開く] 画面が表示されます。

- 3 [アクセサリ] をダブルクリックする



[アクセサリ] フォルダの内容が表示されます。

- 4 [ペイント] をダブルクリックする



[指定] 画面に戻ります。

- 5 [アプリケーション名] にペイントが設定されていることを確認し、
[OK] ボタンをクリックする
[東芝コントロールのプロパティ] 画面に戻ります。
- 6 設定したアプリケーションボタンの下に「ペイント .lnk」と表示されていることを確認し①、[OK] ボタンをクリックする②



アプリケーションボタンにペイントが設定されます。

購入時の設定に戻す場合は、[東芝コントロールのプロパティ] 画面で [標準に戻す] ボタンをクリックしてください。

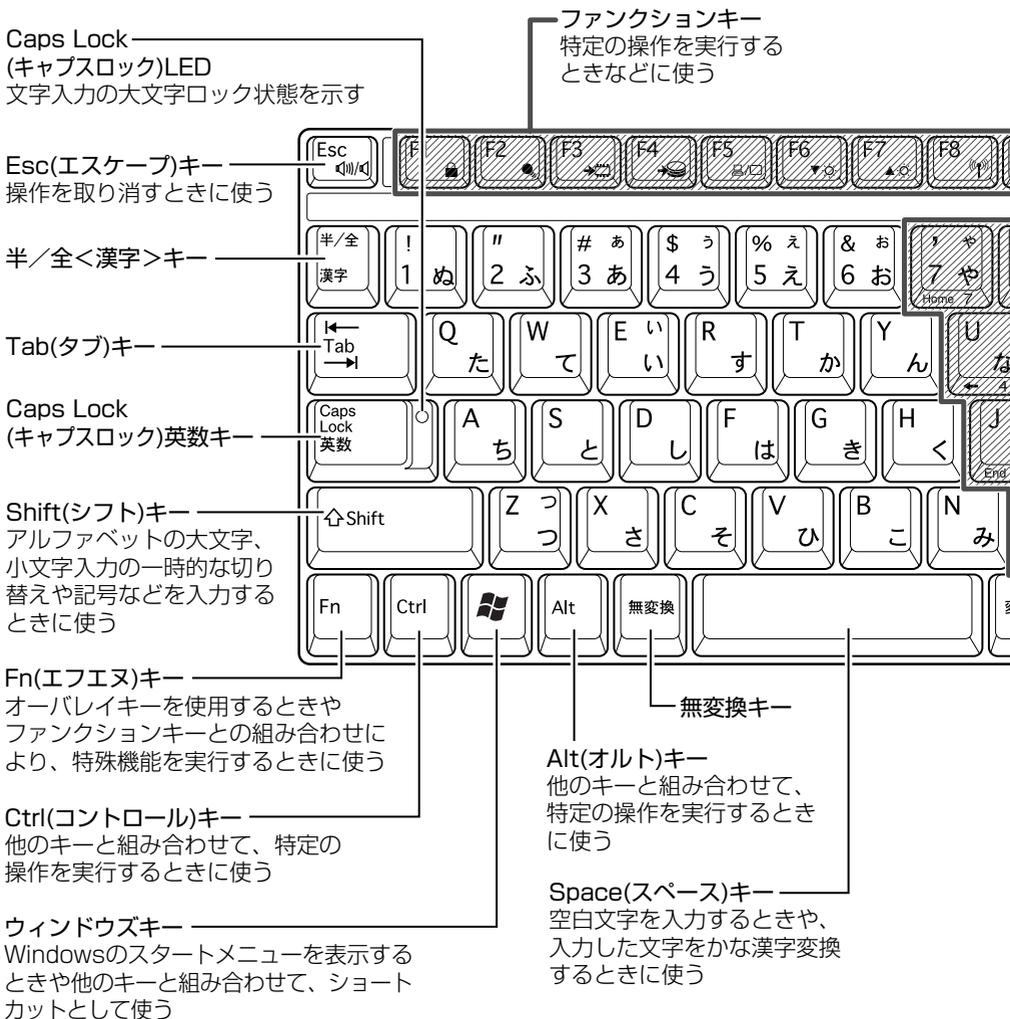
参照▶ 東芝コントロールの問い合わせ先

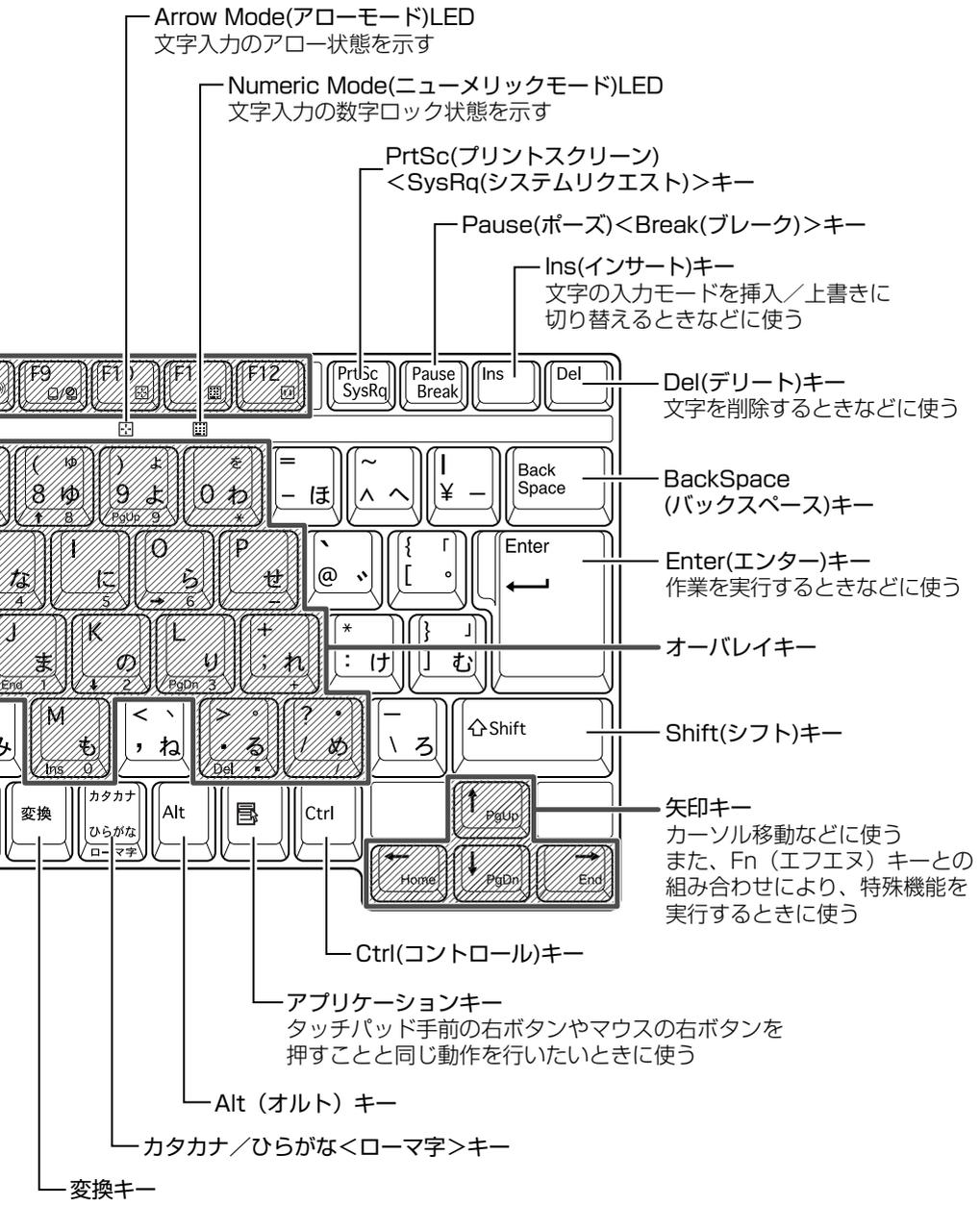
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

4 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図





2 キーシフトインジケータの切り替え

キーシフトインジケータは、どんな文字が入力できる状態かを示します。

各インジケータの役割と切り替え方法は、次の表のようになっています。それぞれの状態がオンになっているとき、LED が点灯します。その場合、他の2つは解除して消灯してください。

【キーシフトインジケータ】

LED	切り替えキー	文字入力の状態
Caps Lock LED	(Shift) + (Caps Lock 英数)	大文字ロック状態 文字キーで英字の大文字が入力できます。
Arrow Mode LED	(Fn) + (F10)	アロー状態 オーバーレイキーで、キーの前面左側に印刷されたカーソル制御ができます。
Numeric Mode LED	(Fn) + (F11)	数字ロック状態 オーバーレイキーで、キーの前面右側に印刷された数字などの文字が入力できます。

それぞれの文字入力状態を解除するには、切り替えキーをもう1度押します。

3 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせると、いろいろな操作が実行できます。

【Fnキーを使った特殊機能キー】

キー	内容
Fn + Esc 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度Fn + Escキーを押します。
Fn + F1 〈インスタントセキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 解除するには、次の操作を行ってください。 ① ShiftキーやCtrlキーを押す、またはタッチパッドを操作する ユーザ選択画面が表示されますので、ログオンするユーザ名をクリックしてください。 ② Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、Enterキーを押す パスワードによる保護を設定（[画面のプロパティ]の[スクリーンセーバー]タブで、[パスワードによる保護]または[再開時によろこそ画面に戻る]をチェック）しておくと、セキュリティを強化できます。
Fn + F2 〈省電力モードの設定〉	Fn + F2キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 Fnキーを押したまま、F2キーを押すたびに省電力モードが切り替わります。
Fn + F3 〈スタンバイ機能の実行〉	Fn + F3キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックするとスタンバイ機能が実行されます*1。
Fn + F4 〈休止状態の実行〉	Fn + F4キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックすると休止状態が実行されます*1。

* 1 表示される画面で [今後、このメッセージを表示しない] をチェックすると、次回以降メッセージ画面は表示されません。

キー	内容
(Fn)+(F5) 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 ▶ 詳細について「4章 6 テレビを接続する」
(Fn)+(F6) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を下げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F6)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F7) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を上げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F7)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F8) 〈無線通信機能の切り替え〉	ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドしている場合、(Fn)キーを押したまま、(F8)キーを押すたびに使用する無線通信機能を切り替えます。
(Fn)+(F9) 〈タッチパッドオン/オフ機能〉	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度(Fn)+(F9)キーを押します。 ▶ 詳細について 「本章 5-③ タッチパッドを無効/有効にするには」
(Fn)+(F10) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます(アロー状態)。アロー状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F10)キーを押します。
(Fn)+(F11) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます(数字ロック状態)。数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F11)キーを押します。アプリケーション(Microsoft Office Excelなど)によっては機能が異なる場合があります。
(Fn)+(F12) 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで、(↑)(↓)(←)(→)キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F12)キーを押します。

キー	内容
(Fn) + (Space) 〈内部液晶ディスプレイの解像度切り替え〉	(Fn) キーを押したまま、 (Space) キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの解像度を切り替えます。
(Fn) + (↑) 〈PgUp (ページアップ)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 (↑) キーを押すと、前のページに移動できます。
(Fn) + (↓) 〈PgDn (ページダウン)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 (↓) キーを押すと、次のページに移動できます。
(Fn) + (←) 〈Home (ホーム)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 (←) キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
(Fn) + (→) 〈End (エンド)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 (→) キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。

【**(Windows)**キーを使ったショートカットキー】

キー	操作
(Windows) + (R)	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
(Windows) + (M)	すべての画面を最小化する
(Shift) + (Windows) + (M)	(Windows) + (M) キーで最小化したすべての画面を元に戻す
(Windows) + (F1)	『ヘルプとサポート』を起動する
(Windows) + (E)	[マイコンピュータ] 画面を表示する
(Windows) + (F)	ファイルまたはフォルダを検索する
(Ctrl) + (Windows) + (F)	他のコンピュータを検索する
(Windows) + (Tab)	タスクバーのボタンを順番に切り替える
(Windows) + (Break)	[システムのプロパティ] 画面を表示する

【 特殊機能キー 】

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	(Ctrl) + (Alt) + (Del)	[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	(PrtSc)	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	(Alt) + (PrtSc)	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナーで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに点検を依頼してください。

5 タッチパッド

タッチパッドを使いやすく設定できます。

1) タッチパッドを設定するには

タッチパッドやポインタの設定は、[マウスのプロパティ] で行います。

1 [マウスのプロパティ] の起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。



- 3 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする
各機能の設定については、本節の以降の説明を参照してください。
[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

2 タッチパッドの設定方法

[マウスのプロパティ] では、タッチパッドやポインタなどの各種設定ができます。タッチパッドの設定をするには、次のように操作してください。

- 1 [デバイス設定] タブで [設定] ボタンをクリックする
[デバイス設定] 画面が表示されます。

2 画面左側に表示されているメニューから、設定したい項目をクリックする

画面右側に、選択した項目の設定内容と、その説明が表示されます。説明をよく読んで各項目を設定してください。

項目名の左に（+）が表示されている場合、項目名をダブルクリックすると、さらに細かい設定項目が表示されます。



2) タッピング機能

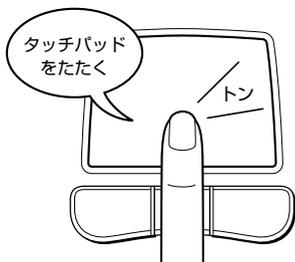
タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。

タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

1 タッピングの方法

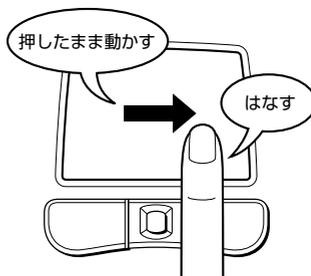
【クリック/ダブルクリック】

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



【ドラッグアンドドロップ】

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。



3) タッチパッドを無効／有効にするには

[タッチパッド ON/OFF] タブでは、タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。



【 タッチパッドの ON/OFF 】

[有効] をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、[無効] をチェックするとタッチパッドからの操作ができなくなります。

タッチパッドの無効／有効は、(Fn)+(F9)キーでも切り替えることができます。

(Fn)+(F9)キーでタッチパッドの操作を有効にした場合、タッチパッドの操作中にカーソルの動きが不安定になることがあります。そのような場合は、1度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

4 その他の設定

[マウスのプロパティ] ではタッチパッドだけではなく、ボタンなどの設定もできます。

1 ボタンの設定を変更する

[ボタン] タブで設定します。



ボタンの構成	右ボタンと左ボタンの役割を入れ換えます。
ダブルクリックの速度	スライダーバーを動かして、ダブルクリックで2度ボタンをたたくときの速度を調整します。
クリックロック	ボタンを押したままにしなくても、ドラッグできるようにします。

2 ジョグホイールの設定を変更する

[ホイール] タブで設定します。



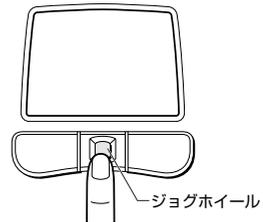
ジョグホイールを1目盛り動かした際に、どれだけ画面をスクロールさせるかを設定します。

1 度に次の行数スクロールする	設定した数字の行数分だけスクロールします。
1 画面ずつスクロールする	チェック (☑) すると、1 画面ずつスクロールします。

役立つ
操作集

オートスクロール

ジョグホイールを押すと、ポインタが  や  に変わります。スクロールしたい方向にポインタを少し動かすと、ポインタの形がスクロールしたい方向の矢印に変わり、自動的に画面がスクロールされます。もう1度ジョグホイールを押すと、通常の状態に戻ります。アプリケーションによっては対応していない場合もあります。



ポインタの形や速度を変える

[マウスのプロパティ] では、ポインタの形や速度などを変えることができます。
[ポインタ] タブでは形を、[ポインタオプション] タブでは速さとポインタを動かしたときの軌跡などを設定できます。



ヘルプの起動方法

- 1 [マウスのプロパティ] 画面を表示し、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする
説明文がポップアップで表示されます。

6 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイが内蔵されています。解像度は 1400 × 1050 ドットです。ドットは点の数を表します。外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

▶ 参照 → 外部ディスプレイの接続について
「4 章 7 外部ディスプレイを接続する」

表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られています。ごく一部に非点灯、常時点灯などの表示が存在することがありますが、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1) ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

内部液晶ディスプレイでは、設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

2048 × 1536 ドット	1,677 万色
1920 × 1440 ドット	
1600 × 1200 ドット	
1400 × 1050 ドット	
1280 × 1024 ドット	
1024 × 768 ドット	
800 × 600 ドット	

1600 × 1200 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

1,677 万色はディザリング表示です。
ディザリングとは、1 ピクセル (画像表示の単位) では表現できない色 (輝度) の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

2 デスクトップ表示を変える

デスクトップのデザインやスクリーンセーバなどを、[コントロールパネル] の [デスクトップの表示とテーマ] 画面で変更できます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする

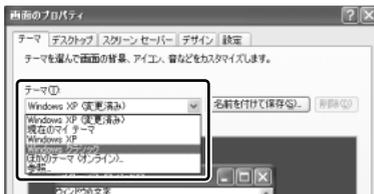
[デスクトップの表示とテーマ] 画面が表示されます。



デスクトップのテーマを変える

テーマを選んで画面の背景、アイコン、音などを変更できます。

- 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [テーマを変更する] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [テーマ] タブの [テーマ] で  ボタンをクリックし、目的のテーマを選択する



画面は、[Windows クラシック] を選択する場合の表示例です。

- 3 [OK] ボタンをクリックする

壁紙を変える

デスクトップの壁紙（背景）を、Windows に用意されているイラストや模様に変更することができます。ファイルの場所を指定すると、好きなイラストに変更できます。

1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [デスクトップの背景を変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [デスクトップ] タブの [背景] で、目的の画像を選択する



パソコンの画面の中にプレビューが表示されます。

画面は [草原] を選択する場合の表示例です。

- 指定できる画像ファイル
bmp、gif、jpeg、html ファイルなどが使用できます。
- 画像の位置を指定する
画像ファイルの種類によっては、デスクトップに対して、画像の表示位置を指定できます。
[表示位置] で [中央に表示]、[並べて表示]、[拡大して表示] から選択します。

3 [OK] ボタンをクリックする

スクリーンセーバを使う

好みのスクリーンセーバを選択し、スクリーンセーバを表示させるまでの時間を設定できます。

1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [スクリーンセーバーを選択する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。外部ディスプレイを接続した場合など、購入時の設定では見にくい場合は、次の手順で変更できます。

1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [画面解像度を変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [設定] タブの [画面の解像度] で、解像度を変更する



3 [OK] ボタンをクリックする

ウィンドウの色を変える

ウィンドウ、アクティブタイトルバー、メッセージボックスの配色を変更できます。

1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [画面] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [デザイン] タブの [配色] で、▼ ボタンをクリックし、配色を選択する



プレビューが表示されます。
画面は、「オリーブグリーン」を選択する場合の表示例です。

3 [OK] ボタンをクリックする

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐに拭き取ってください。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、消耗品となります。使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。有償にて交換いたします。

7 ハードディスクドライブ

内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。

マルチスタイルバイに60GB ハードディスクユニット（別売り）を取り付けたり、PC カードタイプ（TYPE II）のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

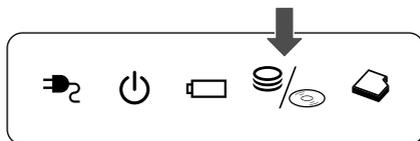
参照 → 60GB ハードディスクユニットについて
『60GB ハードディスクユニット取扱説明書』

お願い 操作にあたって

- HDD/CD-ROM  LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクやCD／DVDなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD／DVDなどに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気プレスレットなど強い磁気を発するものの近くで使用しないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

1 ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、HDD/CD-ROM  LED が点灯します。



60GB ハードディスクユニット、PC カードタイプや i.LINK（IEEE1394）対応などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、HDD/CD-ROM  LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

8 サウンド機能

本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

1) スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには右に、小さくしたいときには左に回します。



お願い

- 使用するアプリケーションによっては、マイクとスピーカとでハウリングを起こすことがあります。
- ハウリングとは、スピーカから出た音がマイクに入り再びスピーカに返されることで音が増幅し、発生する高く大きな音のことです。
- ハウリングを起こした場合は音量を調整してください。

2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調整したい場合、次の方法で調整できます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。



【音楽／音声を再生するとき】

ボリュームコントロールの各項目では次の音量が調整できます。

マスタ音量	全体の音量を調整する
WAVE	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD (BeatJam、Windows Media Player の場合)、DVD-Video など
CD オーディオ	音楽 CD (BeatJam、Windows Media Player 以外の場合)

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする

4 [表示するコントロール] を確認する

[マイク入力] がチェックされていることを確認します。

5 [OK] ボタンをクリックする

6 [録音コントロール] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする

[マイク入力]： マイクから録音するとき

7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する

同時に2つのデバイスを選択することはできません。

録音したい音楽／音声がボリュームコントロールの [WAVE] 対応の場合、録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

2 光デジタルオーディオ出力端子経由で録音するとき

光デジタルオーディオ出力端子経由で録音する場合は、あらかじめボリュームダイヤル、またはボリュームコントロールの [WAVE] など、各ソース用のコントロールで再生している音量を調節しておきます。

メモ

- 音量を最小にしたり、ミュート(消音)にすると、光データは出力されません。
- ボリュームダイヤルでは、本体のスピーカからの音量のみを調節できます。
- デジタル出力が「オフ」に設定されていると、光データは出力されません。
[コントロールパネル] → [関連項目] の [コントロールパネルのその他のオプション] → [ヤマハ AC-XG] をクリックし、[デジタル出力] タブで「デジタル出力」が「オフ」になっていないことを確認してください。



ボリュームコントロールについて
「本節 ① スピーカの音量を調整する」

9 ドライブ

本製品には、DVD マルチドライブが 1 台内蔵されています。DVD マルチドライブは DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、CD-RW、CD-R の読み出し／書き込み機能を搭載したドライブです。

『安心してお使いいただくために』に、CD / DVD を使用するとき守ってほしいことが記述されています。

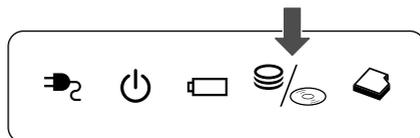
CD / DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力キューティリティ」で「DVD 再生」モードに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。

ドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、ドライブが動作しているときは、HDD/CD-ROM LED が点灯します。



1 使用できるメディアと対応するアプリケーション

本製品のドライブで使用できるメディアと、本製品に付属のアプリケーションで書き込みできるメディアは次のとおりです。

【本製品のドライブで使用できるメディア】

○：使用できる ×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM	DVD+R	DVD+RW
読み出し	○	○	○*1	○*1	○*1	×	×
書き込み回数	1回	繰り返し書換可能*2	1回	繰り返し書換可能*2	繰り返し書換可能*2	×	×

*1 使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

*2 実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

【アプリケーションとメディア】

「Drag'n Drop CD + DVD」「WinDVD Creator 2 Platinum」は本製品に付属のアプリケーションです。

○：使用できる ×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM*3
Drag'n Drop CD+DVD	○	○	○*2	○*2	×
WinDVD Creator 2 Platinum (DVD-Video*1)	×	×	○	○	○*4
WinDVD Creator 2 Platinum (DVD-VR*1)	×	×	×	×	○

*1 映像を書き込むときの記録形式です。表に記載されている形式でのみ書き込みできます。

DVD-Video 形式に準拠した映像は、他の機器との互換性に優れており、DVD-RW、DVD-R に対応した DVD プレーヤ、パソコン、ゲーム機など色々な環境で再生できます（一部の機器では再生できない場合があります）。

DVD-VR 形式に準拠した映像は、豊富な編集機能を使ってオリジナル DVD を作成することができます。再生や編集には、DVD-RAM 機能が搭載され、DVD-VR 形式に対応した DVD レコーダなどが必要になります（一部の機器では再生／編集できない場合があります）。

- * 2 DVD-Video、DVD-Audio の作成や音楽情報の書き込みはできません。また、DVD プレーヤなどで使用することはできません。
- * 3 パソコンで作成した文書データなどのファイルを DVD-RAM に書き込む場合は、[マイコンピュータ] で目的のファイルやフォルダをドライブにコピーしてください。

▶ **参照** ファイルやフォルダのコピー

『基本をマスター 1 章 5-② ファイルやフォルダをコピーする』

なお、新品の DVD-RAM は、使用前にフォーマットが必要です。

▶ **参照** フォーマット「本節 ④ DVD-RAM を使うときは」

- * 4 パソコンなど、DVD-RAM が読める環境でのみ再生可能となります。

2) 使用できる CD

読み出しできる CD は、次の種類です。

- 音楽用 CD
8cm または 12cm の音楽用 CD が聴けます。
- フォト CD
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。
- CD-ROM
使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのものが使用できます。
- CD エクストラ
記録領域は音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

書き込みできる CD は次の種類です。

- CD-R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。CD-R の書き込み速度は最大 16 倍速です。16 倍速で書き込むためには 16 倍速の書き込みに対応した CD-R メディアを使用してください。
- CD-RW
CD-RW の書き込み速度は使用するメディアによって異なります。マルチスピード CD-RW メディアの場合、最大 4 倍速が使用できます。High-Speed 対応メディアを使用した場合は最大 8 倍速です。なお、Ultra Speed CD-RW 対応メディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

お願い CD-RW、CD-Rについて

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカーの CD-RW、CD-R を使用することを推奨します。
CD-RW (マルチスピード、High-Speed)
：三菱化学 (株)、(株) リコー
CD-R : 太陽誘電 (株)、三菱化学 (株)、(株) リコー、日立マクセル (株)
これらのメーカー以外の CD-RW、CD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。
参照▶ エラーチェック《サイバーサポート》
- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。CD-RW、CD-R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

3 使用できる DVD

読み出しできる DVD は、次の種類です。

- DVD-ROM ● DVD-Video (映像再生用です。映画などが収録されています)
- DVD-R ● DVD-RW ● DVD-RAM

書き込みできる DVD は次の種類です。

- DVD-R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
DVD-R は、DVD-R for General Ver2.0 規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RW
DVD-RW は、DVD-RW Ver1.1 規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RAM
DVD-RAM は、DVD-RAM Ver2.0 または 2.1 規格に準拠したメディアを使用してください。

【 DVD-RAMの種類 】

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。

カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、1度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし*1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）*2	○

* 1 一部の家庭用DVDビデオレコーダでは再生できない場合があります。

* 2 2.6GB、5.2GBのディスクは書き込みできません。

お願い DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rについて

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rに書き込む際には、次のメーカーのDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rを使用することを推奨します。
DVD-RAM：松下電器産業（株）
DVD-RW：日本ビクター（株）、TDK（株）
DVD-R：松下電器産業（株）、太陽誘電（株）、パイオニア（株）
これらのメーカー以外のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- DVD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RWに書き込んだデータの一部を削除することはできません。書き込まれたデータの変更は、まずすべてのデータを消去し、改めて必要なデータだけを再書き込みする必要があります。
- DVD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、必ずしもメディアに記載された容量分のデータを書き込むことはできません。

- DVD-RW、DVD-R への書き込みでは、DVD の規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約 1GB に満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小 1GB のデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 → エラーチェック《サイバーサポート》

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

メモ

- 市販の DVD-RW、DVD-R には業務用メディア (for Authoring) と一般用メディア (for General) があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
一般用メディア (for General) を使用してください。
- 市販の DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R には「for Data」と「for Video」の 2 種類があります。映像を保存する場合や家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。

4 DVD-RAM を使うときは

ここでは、DVD-RAM に書き込みをする前に必要な操作について説明します。

1 フォーマットとは

新品の DVD-RAM は、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、DVD-RAM にデータの管理情報 (ファイルシステム) を記録し、DVD-RAM を使えるようにすることです。

フォーマットされていない DVD-RAM は、フォーマットしてから使用してください。

ここでは、ファイルシステムとフォーマット方法について簡単に説明します。詳細は PDF マニュアルを確認してください。

参照 → 「本項 2-PDF マニュアルの起動方法」

お願い

フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。

ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。

選択できるファイルシステムは「UDF2.0」「UDF1.5」「FAT32」です。

【UDF2.0】

DVD-VR形式に対応したファイルシステムです。

家庭用DVDビデオレコーダとの互換性があります。

【UDF1.5】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出しできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外のWindows XP / 2000^{*1}がインストールされたパソコン^{*2}でもデータを読み出すことができます。

家庭用DVDビデオレコーダとの互換性はありません。

*1 Windows 2000 ... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating System 日本語版

*2 DVD-RAMドライブが搭載されていないパソコンでDVD-RAMを読み出すためには、DVD-RAMの読み出しに対応したDVDドライブが搭載されている必要があります。

【FAT32】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出し／書き込みできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外のWindows XP / Me^{*1} / 98^{*2}がインストールされたパソコン^{*3}でもデータを読み出すことができます。

家庭用DVDビデオレコーダとの互換性はありません。

*1 Windows Me Microsoft® Windows® Millennium Edition operating System 日本語版

*2 Windows 98 Microsoft® Windows® 98 SECOND Edition operating System 日本語版

*3 DVD-RAMドライブが搭載されていないパソコンでDVD-RAMを読み出すためには、DVD-RAMの読み出しに対応したDVDドライブが搭載されている必要があります。

2 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。

1 フォーマットする DVD-RAM をセットする

参照▶ DVD-RAMのセット『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

3 [DVD-RAM ドライブ (D:)] をクリックする

[DVD-RAM ドライブ (D:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

4 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [フォーマット] をクリックする②

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



[DVDForm - D ドライブ] 画面が表示されます。

5 [ドライブ] と [フォーマット種別] を選択する

映像を書き込み、家庭用 DVD ビデオレコーダで再生するための DVD-RAM を作成する場合は、[ユニバーサルディスクフォーマット (UDF2.0)] を選択してください。

パソコンで使用するための DVD-RAM を作成する場合は、[ユニバーサルディスクフォーマット (UDF1.5)] を選択してください。

6 ボリュームラベル名を入力する

UDF 形式を選択した場合は、必ず入力してください。

7 [開始] ボタンをクリックする

物理フォーマットを行う場合は、[物理フォーマットを実行する] をチェックしてから、[開始] ボタンをクリックしてください。

物理フォーマットを行うと、DVD-RAM 上の全セクタを検査し、不良セクタの代替処理を行います（通常は行う必要はありません）。物理フォーマットを行う場合は、フォーマットに時間がかかります。

メッセージが表示されます。

8 メッセージの内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

9 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のDVD-RAMも続けてフォーマットする場合は、DVD-RAM を入れ替えて、手順5から実行します。

フォーマットを終了する場合は、[DVDForm - Dドライブ] 画面で [閉じる] ボタンをクリックしてください。

PDF マニュアルの起動方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [DVD-RAM] → [DVD-RAM ドライバー] → [DVD-RAM ディスクの使い方] をクリックする

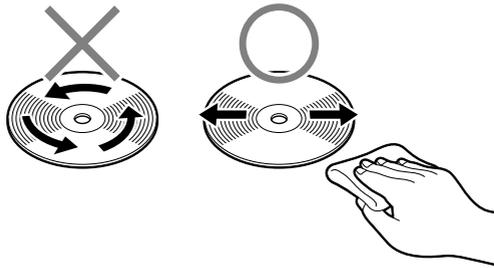
[Adobe Reader] が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

CD / DVD の取り扱いと手入れ

CD / DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD / DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVD を読み込むことができなくなります。
- CD / DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD / DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD / DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD / DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。

円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



10 SD メモリカード

SD メモリカードを SD カードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

1 SD メモリカードについて

SD メモリカードについて説明します。

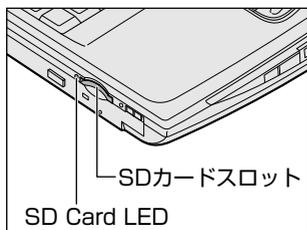
本製品の SD カードスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- すべての SD メモリカードの動作確認は行っていません。したがってすべての SD メモリカードの動作は保証できません。
- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

1 SD カードスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、SD メモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card LED が点灯します。



2 SD メモリカードのセットと取り出し

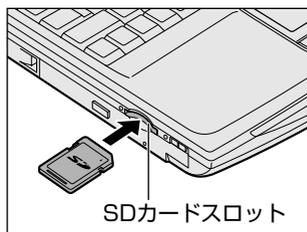
SD メモリカードをSD カードスロットに挿入することを「SD メモリカードをセットする」といいます。

お願い

- SD Card LED が点灯中は、電源を切ったり、SD メモリカードを取り出ししたり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやSD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- SD メモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SD メモリカードのデータが壊れるおそれがあります。

1 セット

1 SD メモリカードのラベルを貼られた面を上にして、SD カードスロットに挿入する



奥まで挿入します。

2 取り出し

1 SD メモリカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [TOSHIBA SD Memory Card Drive- ドライブ (E:) を安全に取り外します] (標準値) をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 SD メモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 SDメモ리카ードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

1 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする

[マイコンピュータ] 画面が表示されます。

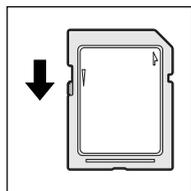
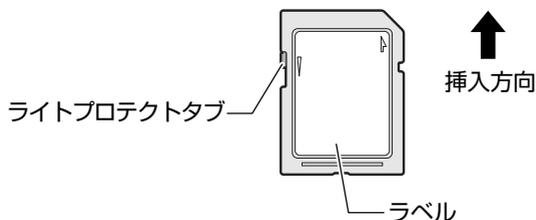
2 [リムーバブルディスク (E:)] (標準値) をダブルクリックする

[リムーバブルディスク (E:)] (標準値) 画面が開き、セットしたSDメモ리카ードの内容が表示されます。

3 SDメモ리카ードを使う前に

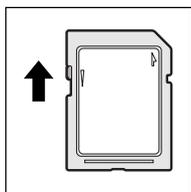
1 ライトプロテクトタブ

SDメモ리카ードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みも読み取りもできます。

2 SDメモリカードのフォーマット

フォーマットとは、SDメモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SDメモリカードを使えるようにすることです。

新品のSDメモリカードは、SDメモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、「東芝SDメモリカードフォーマット」またはSDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

SDメモリカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

お願い

- Windows 上（[マイコンピュータ] 画面）でSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

東芝SDメモリカードフォーマットを使ってフォーマットする

ここでは「東芝SDメモリカードフォーマット」を使用してフォーマットする方法を説明します。

お願い

「東芝SDメモリカードフォーマット」以外の、SDメモリカードを使用するアプリケーションはあらかじめ終了させてください。

1 SDメモリカードをセットする



参照 SDメモリカードのセットについて

「本節 ② SDメモリカードのセットと取り出し」

- 2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [SDメモリーカードフォーマット] をクリックする [東芝 SDメモリーカードフォーマット] 画面が表示されます。
- 3 [ドライブ] で、フォーマットしたいSDメモリーカードがセットされているドライブを確認し、必要に応じて [フォーマットオプション] でフォーマットの種類を設定する



- 簡易フォーマット
ファイルの削除のみを行い、すべての領域の初期化は行われません。
 - 完全フォーマット
SDメモリーカードのすべての領域を初期化します。簡易フォーマットに比べて、フォーマットに時間がかかります。
- 4 [スタート] ボタンをクリックする
メッセージが表示されます。
 - 5 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする
フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。
フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。
 - 6 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする
これで、フォーマットは完了です。
フォーマットを終了する場合は、[終了] ボタンをクリックしてください。

SD メモリカードの取り扱い

SD メモリカードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- SD メモリカードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
SD メモリカードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SD メモリカードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。
ごみや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電氣的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SD メモリカードに付属のケースに入れてください。
- SD メモリカードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

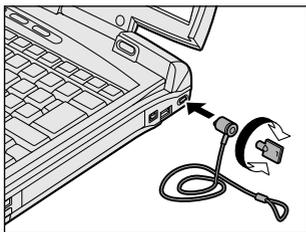
11 セキュリティロック

セキュリティロック・スロットに、チェーンなどを接続して、盗難を防止します。

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを、購入店に確認してください。

1 セキュリティロック用機器の取り付け

- 1 セキュリティロック・スロットに市販のセキュリティロック用の機器を接続する



2章

音楽と映像

音楽と映像を本製品で楽しむ方法について説明しています。

パソコンで音楽を聴く。それをCDに書き込んでオリジナルを作成する。写真やDVD-Videoの映像を観る。それを編集して個人コレクションを作るなど。パソコンの楽しみかたを紹介します。

1	音楽CDを聴く	80
2	音楽ファイルを聴く	87
3	オリジナル音楽CDを作る	95
4	オリジナルMDを作る	100
5	DVD-Videoを観る	101
6	デジタルカメラの写真を編集／整理する	108
7	オリジナルDVDを作る	111

1 音楽 CD を聴く

本製品では Windows を起動している状態でも、また Windows を起動していない状態でも音楽 CD を聴くことができます。

メモ

音楽 CD の再生中に、パソコン本体に振動・衝撃を与えると、音飛びすることがあります。

1 Windows を起動して音楽 CD を聴く

Windows を起動して音楽 CD を再生するためには、音楽 CD に対応したアプリケーションが必要です。

本製品には次のアプリケーションがインストールされています。

- ビートジャム BeatJam
- ウィンドウズ メディア プレーヤ Windows Media Player

1 起動方法

1 Windows が起動している状態で、音楽 CD をセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示されます。

参照▶ CD のセットについて『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

[Audio CD (D:)] 画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] で (D:) ドライブを右クリックし、表示されたメニューから [自動再生] をクリックしてください。

2 使用するアプリケーションを選択し、[OK] ボタンをクリックする

使用するアプリケーションが「BeatJam」の場合は、[オーディオ CD の再生 BeatJam 使用]、「Windows Media Player」の場合は、[オーディオ CD を再生します Windows Media Player 使用] を選択します。
選択したアプリケーションが起動します。

「BeatJam」を起動したいのに [Audio CD (D:)] 画面に [オーディオ CD の再生 BeatJam 使用] が表示されない場合は、[閉じる] ボタン (X) をクリックして画面を終了し、[スタート] → [すべてのプログラム] → [JUSTSYSTEM アプリケーション] → [BeatJam] → [BeatJam] をクリックして起動してください。

次回から [Audio CD (D:)] 画面に [オーディオ CD の再生 BeatJam 使用] が表示されるように、「BeatJam」で設定できます。

参照▶ 設定方法『困ったときは 3 章 Q BeatJam が起動できない』

BeatJam を初めて起動したとき

初めて「BeatJam」を起動したときは、[使用許諾契約の確認] 画面が表示されます。契約内容を読んで、[同意する] ボタンをクリックしてください。[同意する] ボタンをクリックしないと、「BeatJam」を使用できません。

Windows Media Player を初めて起動したとき

初めて起動したときは、[Windows Media Player 9 シリーズへようこそ] 画面が表示されます。画面の指示に従ってプライバシーオプションとインストールオプションを設定してください。

インストールオプションの設定では、[ファイルの種類] タブで [DVD ビデオ] のチェックをはずしてください。

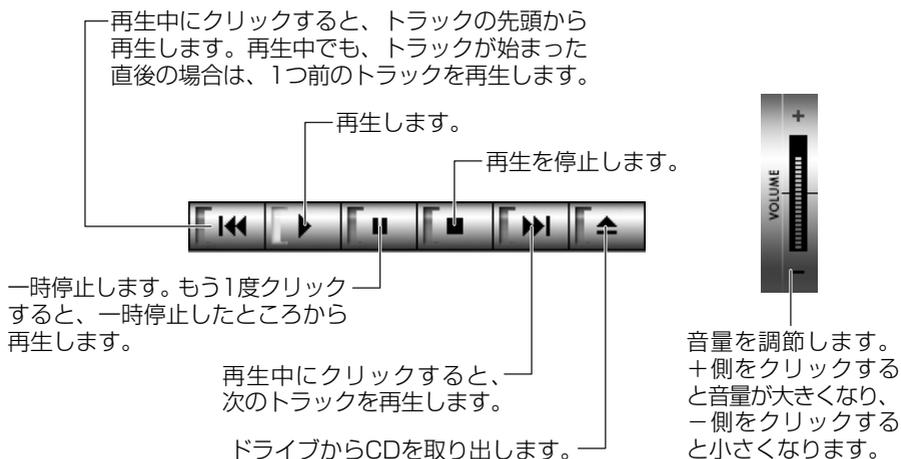


参照 → DVD-Video の再生について「本章 5 DVD-Video を観る」

2 操作画面

アプリケーションごとの各操作ボタンの役割は次のとおりです。

BeatJam を起動した場合



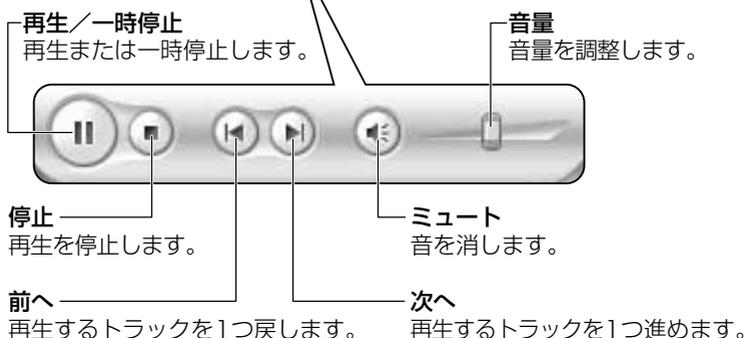
【ヘルプの起動方法】

- 1 「BeatJam」を起動後、メニューバーから【ヘルプ】→【BeatJamの使い方】をクリックする

▶ 参照 「BeatJam」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

Windows Media Player を起動した場合

Windows Media Player の画面の上の方にポインタをあわせるとタイトルバーやメニューバーが表示されます。



【ヘルプの起動方法】

- 1 「Windows Media Player」を起動後、メニューバーから【ヘルプ】→【トピックの検索】をクリックする

参照 ▶ 「Windows Media Player」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 オーディオ／アプリケーションボタンで起動する

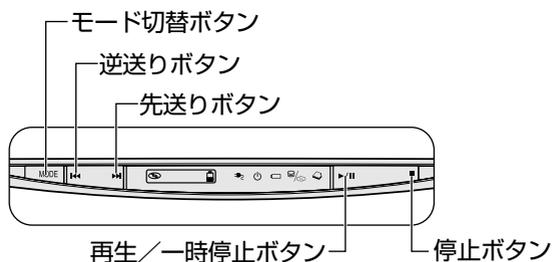
オーディオ／アプリケーションボタンを使ってアプリケーションを起動することができます。

1 モードパネルに CD / DVD 再生アイコン () が表示されていることを確認する

CD / DVD 再生アイコンが表示されていない場合は、表示されるまで、モード切替ボタンを何度か押してください。



2 再生／一時停止ボタンを押す



逆送りボタン	「BeatJam」の場合： 再生中にクリックすると、トラックの先頭から再生します。再生中でも、トラックが始まった直後の場合は、1つ前のトラックを再生します。 「Windows Media Player」の場合： 1つ前のトラックに戻って再生されます。
先送りボタン	再生するトラックを1つ進めます。
再生／一時停止ボタン	再生または一時停止します。
停止ボタン	再生を停止します。

標準では「BeatJam」が起動します。

オーディオ／アプリケーションボタンで、再生や停止などの操作ができます。

2 Windows を起動しないで音楽 CD を聴く

オーディオ／アプリケーションボタンを使うと、Windows を起動しないで音楽 CD を再生できます。

1 操作方法

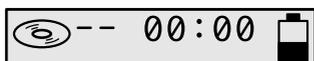
1 モードパネルに CD / DVD 再生アイコン()が表示されていることを確認する

CD / DVD 再生アイコンが表示されていない場合は、表示されるまで、モード切替ボタンを押してください。



2 停止ボタンを押す

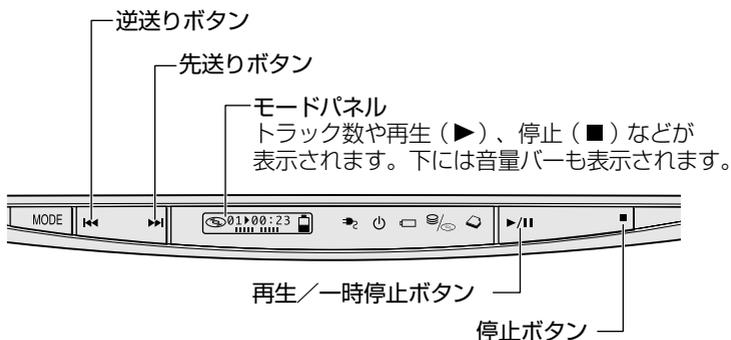
ドライブの電源が入り、モードパネルに次のように表示されます。Power LED は点灯しません。しばらくしてディスクトレイが出てきます。



ドライブの電源を入れてから2分以上操作がない場合は、自動的にドライブの電源がOFFになり、モードパネルにはCD / DVD 再生アイコンのみ表示されている状態になります。その場合は、もう1度停止ボタンを押して電源を入れ直してください。

3 音楽 CD をセットする

4 オーディオ／アプリケーションボタンで操作する



逆送りボタン	再生が始まって2秒未満に押すと、1つ前のトラックに戻って再生されます。 2秒以上たってから押すと、現在再生しているトラックの先頭から再生されます。
先送りボタン	再生するトラックを1つ進めます。
再生／一時停止ボタン	再生または一時停止します。
停止ボタン	再生中は、再生を停止します。 停止中は、ディスクトレイが出てきます。

5 終了する場合は、音楽CDを取り出す

停止ボタンを押して再生を停止した後、もう1度停止ボタンを押すと、ディスクトレイが出てきます。

持ち運ぶときは、モード切替ボタンを4秒以上押してロック状態 (🔒) にしてください。オーディオ／アプリケーションボタンで操作できなくなります (ロック状態)。

もう1度4秒以上押すか、電源を入れると、ロック状態が解除されます。

2 音楽ファイルを聴く

本製品では次のような音楽ファイルを再生できます。

- WAVE形式(.wav)
- WMA形式(.wma)
- MP3形式(.mp3) など

メモ

「BeatJam」はMP3ファイルの再生は可能ですが、MP3形式のデータを作成することはできません。また、「BeatJam」を使用してOpenMG形式の音楽ファイルをメモリースティックにチェックアウトするには、メモリースティックメディアおよびメモリースティックスロットがMagicGate対応している必要があります。なお、オプションの「ブリッジメディアスロット」のメモリースティックスロットは、MagicGate対応していません。

1 音楽再生用アプリケーションを起動する

オーディオ／アプリケーションボタンでアプリケーションを起動できます。

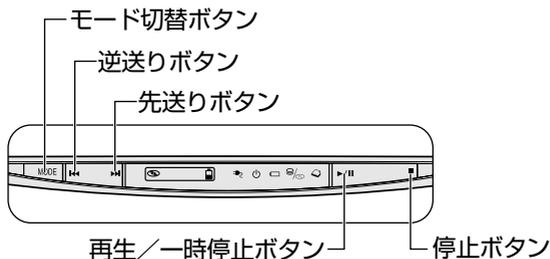
1 起動方法

1 モード切替ボタンを押す

モードパネルにオーディオデジタル再生アイコン（♪）が表示されるまで、モード切替ボタンを何度か押してください。



2 再生／一時停止ボタンを押す



標準では「BeatJam」が起動します。

▶ 参照 BeatJamの操作について「本章 1-①-2 操作画面」

2 BeatJam でファイルを再生する

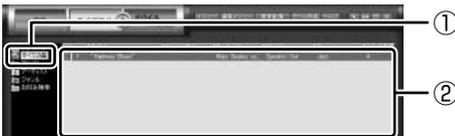
1 音楽ファイルを直接再生する

次のようにファイルを再生します。

- 1 [ライブラリ] ボタン () をクリックする
[ライブラリ] 画面が表示されます。



- 2 画面左にある一覧で [すべての曲] をクリックし①、[マイコンピュータ] など再生したい音楽ファイルを「BeatJam」のメイン画面にドラッグアンドドロップする②



音楽ファイルはアルバム名やアーティスト名によって、自動的にカテゴリに分類されて追加されます。

プレイリストが作成されている場合、プレイリストにドラッグアンドドロップするとそのプレイリストにも追加されます。

▶ **参照** プレイリストについて「本項 2 プレイリストを作成する」

3 画面左でカテゴリやグループを選択し①、表示された一覧から再生したいファイルを選択する②



このとき画面左の「すべての曲」をクリックすると、カテゴリやグループに分けず、すべてのファイルが表示されます。

4 [再生] ボタン () をクリックする

選択したトラックが再生されます。

選択したトラックのあとは、一覧に表示されている順に再生されます。

2 プレイリストを作成する

音楽ファイルを好きな順序に並べてプレイリストを作成すると、複数の音楽ファイルを聴きたい順番で再生することができます。

1 ライブラリにファイルを追加する

ライブラリにファイルを追加して、プレイリスト作成の準備をします。

●音楽 CD のトラックをコピーする場合

① [CD] ボタン () をクリックする

[CD] 画面が表示されます。

②音楽 CD をドライブにセットする

自動的に再生が始まったときは、[停止] ボタン () をクリックして停止してください。

[Audio CD]画面が表示されたときは、[キャンセル] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

③一覧で、録音したいトラックの左側にあるボックスをチェック () する 一覧の左下にある をクリックすると、一覧表示されているすべてのトラックが録音されます。 をクリックすると、一覧表示されているすべてのトラックが録音されません。

④ [曲のビットレート] () で、どのビットレートで録音するかを選択する

ビットレート数が大きいほど、良い音質で録音されます。

⑤ [録音] ボタン () をクリックする

[CDの録音] 画面が表示され、録音が始まります。

⑥録音が終わったら、[閉じる] ボタンをクリックする

曲情報を取り込む

音楽 CD の情報を Gracenote CDDb から取り込むことができます。Gracenote CDDb については、BeatJam のヘルプを確認してください。Gracenote CDDb は、ユーザ登録しないと使用できません。Gracenote CDDb で曲の情報を取り込めないときは、[Artist] にアーティスト名や、[Genre] にジャンル名を入力します。ジャンル名はメニューから選択することもできます。

● ファイルを追加する場合

「本項 1 音楽ファイルを直接再生する」の手順 1、2 を参照して、音楽ファイルをライブラリに追加してください。

2 [ライブラリ] ボタン () をクリックする

3 [編集メニュー] ボタン () をクリックして、表示されるメニューから [プレイリストの新規作成] をクリックする

[プレイリストの一覧] に「New Playlist」という新しいプレイリストが作られます。



4 新しいプレイリストの名前を入力し、(Enter) キーを押す プレイリスト名が確定されます。

5 追加したいファイルが含まれているグループを、画面左の一覧にある [すべての曲] ~ [お好み検索] から選択する

6 一覧から、プレイリストへ追加するファイルを選択する



(Ctrl) キーを押したままファイルをクリックすると、順番が離れている複数の曲を選べます。(Shift) キーを押したままファイルをクリックすると、順番が続いている複数の曲を選べます。

- 7 選択したファイルをドラッグし、画面左の一覧にある、追加したいプレイリストの上でドロップする
プレイリストに曲が追加されます。

3 プレイリストから再生する

- 1 [ライブラリ] ボタン () をクリックする
- 2 画面左の一覧にある [プレイリスト] の中から、聴きたいプレイリストをクリックする
- 3 [再生] ボタン () をクリックする
一覧に表示されている順に再生されます。

3 Windows Media Player でファイルを再生する

まず、再生する音楽ファイルを用意してください。音楽ファイルは、インターネットからダウンロードしたりアプリケーションを使って自分で作ることもできます。

各音楽ファイルは「1トラック」として扱われます。

音楽ファイルには、曲名やアーティスト名などの情報が記録されていることがあります。これらの情報がある場合は、画面上に表示されます。

1 音楽ファイルを直接再生する

再生リストを作成していない場合は、次のように操作してください。

- 1 「Windows Media Player」のメニューバーから [ファイル] → [開く] をクリックする
- 2 聴きたい曲のファイルを選択し①、[開く] ボタンをクリックする②



再生が開始されます。

▶ 参照 Windows Media Player の操作について「本章 1-①-2 操作画面」

2 再生リストを作成する

ファイルを好きな順序に並べた再生リストを作成すると、複数の音楽ファイル（CD、ラジオ局、およびビデオからの複数のトラックなど）をグループ化して、指定した順序で再生することができます。

1 メディアライブラリにファイルを追加する

●音楽CDのトラックをコピーする場合

①音楽CDをセットする

[Audio CD]画面が表示されたときは、[キャンセル] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

②[CDから録音] ボタンをクリックする

③コピーするトラックをチェックする

④[音楽の録音] ボタンをクリックする

⑤[録音オプション (1 / 2)] 画面でオプションを選択する

⑥[CDから録音される音楽が、...] の項目を読み、チェックする

⑦[次へ] ボタンをクリックする

⑧[録音オプション (2 / 2)] 画面でオプションを選択する

⑨[完了] ボタンをクリックする

●ファイルを追加する場合

①メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [ファイルまたは再生リストを追加] をクリックする

②[ファイルを開く] 画面でファイルを選択する

●インターネット上の音楽ファイルなどのマルチメディアを追加する場合

①メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [URLを追加] をクリックする

②[開く] 画面で URL またはパスを指定する

2 [メディアライブラリ] ボタンをクリックする



メディアライブラリを初めて使うときに限り、メッセージが表示されます。
[いいえ] ボタンをクリックしてください。

3 [すべての音楽] をクリックする



メディアライブラリに追加されているファイルが表示されます。

4 [再生リスト] ボタンをクリックし①、表示されたメニューから [新しい再生リスト] をクリックする②

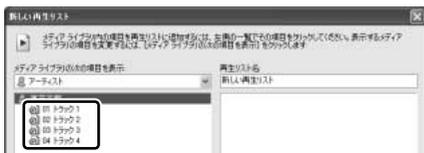


5 [メディア ライブラリの次の項目を表示] で再生リストに追加したいファイルのカテゴリを選択し①、表示されたカテゴリから目的の項目を選択する②



ファイルの一覧が表示されます。

6 再生リストに追加するファイルをクリックする



クリックしたファイルが、[再生リスト名] の下に表示されます。

7 [再生リスト名] に再生リストの名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②



ここでは例として再生リスト名を「新規リスト」とします。

ファイルが再生リストに追加されます。
新しい再生リストが作成されました。

3 再生リストから再生する

1 [メディアライブラリ] 画面で、目的の再生リストをクリックする



リストの内容が右画面に表示されます。

2 [再生] ボタン (▶) をクリックする

再生が開始されます。

3 オリジナル音楽CDを作る

ドラッグアンドドロップ シーディープラスディーブイディー

「Drag'n Drop CD + DVD」は、CD-RW、CD-R にデータを書き込むことができるアプリケーションです。

ここでは、オリジナルの音楽CDを作成する手順について説明します。

データのバックアップを作成する手順については、『困ったときは 2 章 2 バックアップをとる』を参照してください。

1 Drag'n Drop CD + DVD を使うために

お願い CD-RW、CD-R に書き込む前に

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、「Drag'n Drop CD + DVD」を使用してください。

本製品に付属の「Drag'n Drop CD + DVD」以外のCD-RW、CD-R ライティングソフトウェアは動作保証していません。Windows標準のライティング機能や市販のライティングソフトウェアは、使用しないでください。

CD-RW、CD-Rに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。

参照 → CD-RW、CD-Rについて 「1 章 9-② 使用できるCD」

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタを電源コンセントに接続してください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

参照 → 詳細について

「5 章 2 省電力の設定をする」

「5 章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る」

- ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・ スクリーンセーバ
 - ・ ウイルスチェックソフト
 - ・ ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・ モデムなどの通信アプリケーション などソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。
- SD メモリカード、フロッピーディスク、PC カードタイプのハードディスクドライブ、USB 接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- 「Drag'n Drop CD + DVD」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
- 本製品に付属している「Drag'n Drop CD + DVD」を使用して DVD-Video、DVD-Audio を作成することはできません。
- 「Drag'n Drop CD + DVD」の [Music BOX] () を使用して、DVD-RW、DVD-R に音楽情報を書き込むことはできません。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- 「Drag'n Drop CD + DVD」は DVD-RAM メディアへの書き込みをサポートしていません。
- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザを切り替えるなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
マルチスタイルベイ機器、PC カード、USB 対応機器、外部ディスプレイ、i.LINK 対応機器、光デジタル対応機器、SD メモリカード、テレビ
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- オーディオ／アプリケーションボタンを使用して音楽／音声の再生を行わないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

2 Drag'n Drop CD + DVD を使う

「Drag'n Drop CD + DVD」は、自動的に起動しデスクトップ上にアイコンが表示されます。

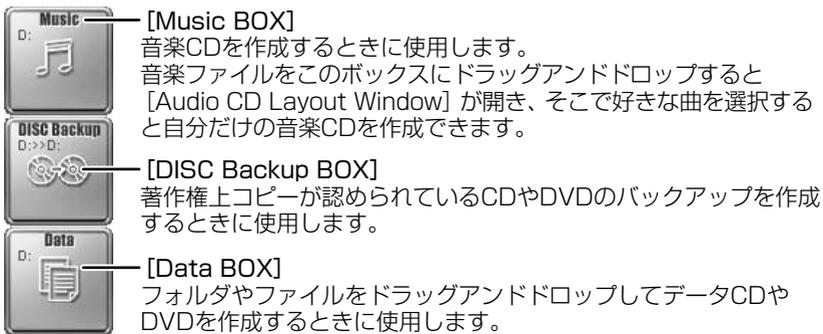
「Drag'n Drop CD + DVD」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD + DVD] → [Drag'n Drop CD + DVD] をクリックする
デスクトップ上に、アイコンが表示されます。

2 Drag'n Drop CD + DVD の基本操作

デスクトップに表示されるアイコンは、次のような役割をもっています。



参照 ▶ 詳細について『困ったときは 2章 2 バックアップをとる』

CDに保存されているWMA方式またはWAVE方式の音楽ファイルを使用して音楽CDを作成する場合は、CDから直接 [Music BOX] にドラッグできません。1度ハードディスクに保存してから音楽CDを作成してください。

3 音楽CDを作成する

1 音楽CDをドライブにセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示された場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

3 [Audio CD (D:)] アイコン () を、[Music BOX] にドラッグアンドドロップする

[Audio CD Layout Window] 画面が表示され、[音楽CDトラック情報] には曲情報が表示されています。

4 [ブランク CD サイズ] を指定する

5 書き込みたいトラックを選択する

トラックは複数選択できます。

[再生] ボタン () をクリックすると試し聴きできます。



6 [選択トラックをリストに追加] ボタン () をクリックする

デジタル抽出が開始されます。デジタル抽出が完了するまで、しばらくかかります。進行状況は、[デジタル抽出状況] のバーで確認できます。[ベストアルバムトラック情報] に抽出した曲が表示されます。



曲順を入れ替えたい場合は、トラックを選択して移動したい位置へドラッグアンドドロップします。

不要なトラックは  ボタンで削除できます。

他の音楽CDからも取り込みたい場合は、ここで音楽CDを入れ替え、手順5、6を繰り返します。

7 音楽CDを取り出し、未使用のCD-Rをセットする

8 **【書き込み】ボタン** () をクリックする

CDへの書き込みが開始されます。書き込みが終了すると、ドライブのディスクトレイが自動的に開きます。

ヘルプの起動方法

「Drag'n Drop CD + DVD」の詳しい情報は、ヘルプを確認してください。

1 **【スタート】** → **【すべてのプログラム】** → **【Drag'n Drop CD + DVD】** → **【Drag'n Drop CD + DVD Help】** をクリックする

「Drag'n Drop CD + DVD」のヘルプが表示されます。

 「Drag'n Drop CD + DVD」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 Drag'n Drop CD + DVD を終了する

「Drag'n Drop CD + DVD」を終了するときは、次の手順で行います。

1 **通知領域の【Drag'n Drop CD + DVD】アイコン** () を右クリックし、表示されたメニューから **【終了】** をクリックする
デスクトップに表示されていたアイコンが消えます。

4 オリジナル MD を作る

光デジタルオーディオ出力端子に MD レコーダを接続すると、音楽 CD から MD レコーダへの録音ができます。

お願い

録音中はWindowsのボリュームコントロールの設定を変更しないでください。パソコンの再生音量を変更すると、MDレコーダでの録音レベルも変更されてしまいます。録音中のパソコン本体からの再生音を消したい場合は、あらかじめボリュームダイヤルを動かなくなるまで手前に回し、音量をゼロにしておいてください。

参照 ▶ ボリュームコントロールについて
「1 章 8-① スピーカの音量を調整する」

1 録音方法

1 音楽 CD をセットする

2 光デジタルオーディオ出力端子と MD レコーダを接続する

参照 ▶ 光デジタルオーディオ出力端子について
「4 章 9 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する」

3 音楽再生用アプリケーションで再生リストを作成する

参照 ▶ 再生リストの作成
「本章 2-② BeatJam でファイルを再生する」
「本章 2-③ Windows Media Player でファイルを再生する」

4 MD レコーダの録音ボタンを押す

5 音楽再生用アプリケーションで再生リストを再生する

録音が始まります。

5 DVD-Video を観る

本製品は、ドライブに DVD-Video をセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD-Video 再生ソフトウェアとして、インタービデオ ウィンディーファイダー「InterVideo WinDVD」が用意されています。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video の再生には、「Media Center」を推奨します。
ただし、表示が乱れたり、再生できない場合などには、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Video を再生してください。
- ▶ 「Media Center」について『Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2004 ガイドブック』
- DVD-Video の再生に、「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。
このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、再生してください。
- DVD-Video 再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3 の再生はサポートしていません。
- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力キューティリティ」で「DVD 再生」モードに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- DVD-Video を再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。
再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。
- CRT やテレビなどの外部ディスプレイに表示する場合は、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、マルチモニタ（内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）の設定では、外部ディスプレイに表示するための設定が必要な場合があります。

▶ 参照 表示装置の切り替え「4章 6-2 テレビに表示する」

▶ 参照 外部ディスプレイに動画を表示する
「4章 6-3 動画をテレビまたは外部ディスプレイに表示する」

「InterVideo WinDVD」のその他の注意については、「Readme」に記載しています。「Readme」の起動は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [readme1st.txt] をクリックしてください。

1 InterVideo WinDVD を起動する

「InterVideo WinDVD」は Windows からでも、Windows が起動していない状態（電源が入っていないなど）でも起動することができます。

1 Windowsから起動する

1 DVD-Video をセットする

アプリケーションを選択する画面が表示されます。

参照 DVD のセットについて『基本をマスター 1 章 1-3 CD / DVD』
アプリケーションを選択する画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] で (D:) ドライブをダブルクリックしてください。
「InterVideo WinDVD」が起動します。

2 [DVD ムービーの再生 InterVideo WinDVD 使用] を選択し①、 [OK] ボタンをクリックする②



「InterVideo WinDVD」が起動します。

メモ

[スタート] メニューから「InterVideo WinDVD」を起動するには、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [InterVideo WinDVD] をクリックしてください。

2 オーディオ／アプリケーションボタンから起動する

Windows が起動していないときに、オーディオ／アプリケーションボタンで「InterVideo WinDVD」を起動できます。

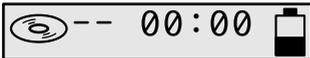
1 モードパネルに CD / DVD 再生アイコン()が表示されていることを確認する

CD / DVD 再生アイコンが表示されていない場合は、表示されるまで、モード切替ボタンを何度か押してください。



2 停止ボタンを押す

ドライブの電源が入り、モードパネルが次のように表示されます。Power LED は点灯しません。しばらくしてディスクトレイが出てきます。



3 DVD-Video をセットする

ディスクトレイを閉じて、しばらくすると Windows が起動し、「開始するにはユーザー名をクリックしてください」画面が表示されます。Windows が起動するまで、数秒かかる場合があります。

4 ログオンしたいユーザー名をクリックする

Windows ログオンパスワードを設定している場合は、パスワードを入力し、 ボタンをクリックしてください。選択したユーザアカウントでログオンします。その後、「InterVideo WinDVD」が起動します。

2) InterVideo WinDVD を使う

「InterVideo WinDVD」を起動するとメインウィンドウと WinDVD コントロールパネルが表示されます。

再生する DVD-Video によっては、表示が一部異なる場合があります。
また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

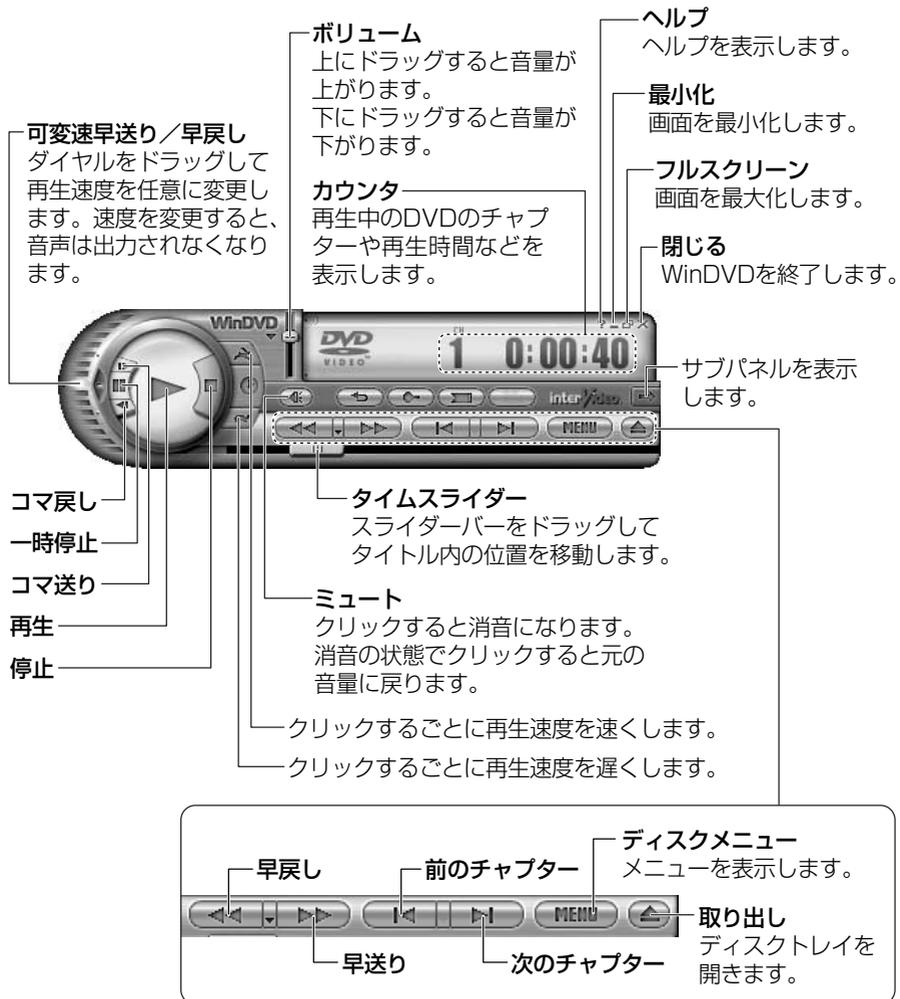
メインウィンドウ
ビデオを表示します。



WinDVDコントロールパネル
DVDの再生は、このパネルのボタンで操作します。
再生の操作でおもに使用するボタンについては、
「本項 1 WinDVDコントロールパネル」を参照して
ください。

1 WinDVDコントロールパネル

DVD再生のときは、おもに次のボタンを使用します。
各ボタンの詳細については、ヘルプを確認してください。



2 サブパネル

サブパネルで、再生する DVD に応じてオーディオ、ビデオ、その他の付加機能を調節することができます。

【サブパネルの表示と切り替え】

- 1 WinDVD コントロールパネルの [サブパネル] ボタンをクリックする



- 2 表示されたメニューから調節する機能を選択し、クリックする

【サブパネルの非表示】

表示しているサブパネルを閉じる場合は、次のように操作してください。

- 1 [サブパネルを閉じる] ボタンをクリックする



3 基本設定の変更

「InterVideo WinDVD」を使用するときの全体的な設定は [セットアップ] 画面で行います。この設定は、再生するすべてのディスクに適用されます。

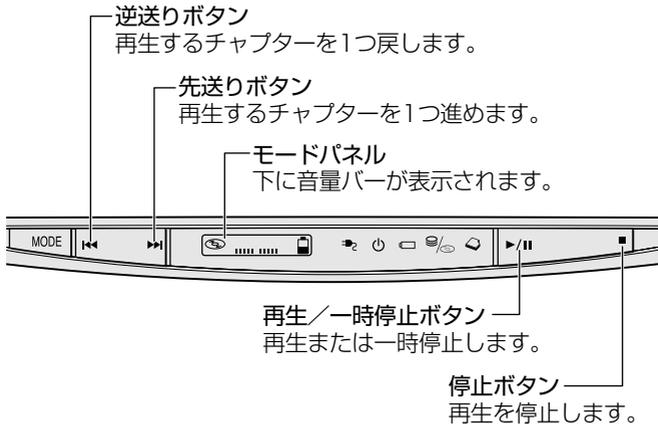
- 1 サブパネルの [セットアップ] ボタンをクリックする



[セットアップ] 画面が表示されます。
各タブで設定を行ってください。

4 オーディオ／アプリケーションボタンで操作する

DVD-Video の基本操作は、オーディオ／アプリケーションボタンを使うこともできます。



5 テレビまたは外部ディスプレイに表示する

パソコン本体にテレビまたは外部ディスプレイを接続して、DVD-Video の再生画面を表示させることができます。

「InterVideo WinDVD」を起動する前に、表示装置を切り替えてください。

また、内部液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイに同時に表示させる場合は、次の設定が必要です。

- 表示装置を同時表示に切り替える
- テレビまたは外部ディスプレイに動画を表示する設定をする

参照 → 詳細について 「4章 6 テレビを接続する」
「4章 7 外部ディスプレイを接続する」

ヘルプの起動方法

- 1 WinDVD コントロールパネルの [ヘルプ] ボタン () をクリックする

参照 → 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

6 デジタルカメラの写真を編集/整理する

本製品には、画像を編集できるアプリケーション「^{ウォーカー}デジカメ Walker (^{ユーリード アイフォト}Ulead iPhoto ^{エクスプレス}Express)」が用意されています。

1 デジカメ Walker を使う

「デジカメ Walker」を使うと、写真などの画像を簡単に編集できます。編集した画像を使ってカードや Web ページを作成したり、アルバムを作って画像を管理することもできます。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Ulead iPhoto Express] をクリックする

ショートカットバー
よく使う操作をボタンから行うことができます。

モードを選択します。
管理、編集、テンプレートから選択できます。

コマンドパネル
モードによってコマンドが変わります。
作業領域で行う作業を選択します。

オプションパネル
コマンドによって表示が切り替わります。詳しい設定ができます。

作業領域
イメージやプロジェクトを見たり編集したりする場所です。

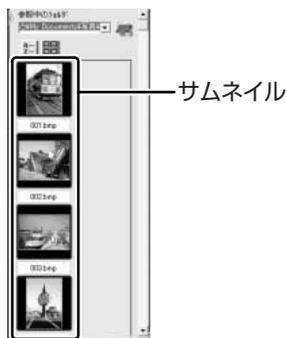
サムネイルストリップ
開いているイメージやプロジェクトのサムネイル (一覧表示画像) が表示されます。

2 写真を編集する

ここでは、デジタルカメラで撮った写真をパソコンにファイルとして取り込んだ状態で、編集を加える場合について説明します。

デジタルカメラからパソコンへの取り込みかたは、接続するデジタルカメラによって異なります。詳しくは、『デジタルカメラに付属の説明書』を確認してください。

- 1 **【編集】モード** () でコマンドパネルから **【フォト取り出し】** → **【マイコンピュータ】** をクリックする
オプションパネルに **【参照中のフォルダ】** が表示されます。
- 2  をクリックし、表示されたメニューから **編集する写真のあるフォルダ** をクリックする
オプションパネルにサムネイルが表示されます。
- 3 **編集する画像のサムネイル** をクリックし、**【開く】** ボタンをクリックする



作業領域に画像が表示されます。

- 4 コマンドパネルから **【編集】** のメニューをクリックし、**画像を加工する**

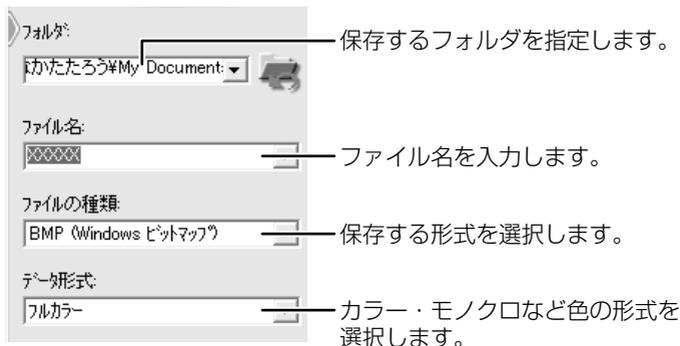
次のメニューから、画像にさまざまな効果を加えることができます。

調整	画像の切り抜き、サイズや明るさ／色の調整などを行います。
選択範囲	用途や形、色に基づいて範囲を選択します。
テキスト	画像に文字を書き込みます。文字にもいろいろな効果を選べます。
ペイント	筆で絵に色をつけるように、画像にさまざまな効果を加えます。
装飾	縁取りやイラスト、影の追加などが行えます。

3 加工した画像を保存する

1 コマンドパネルから [共有] → [保存] をクリックする

オプションパネルに、保存についての項目が表示されます。



2 [保存] ボタンをクリックする

ヘルプの起動方法

- 1 「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [Ulead iPhoto Express のヘルプ] をクリックする

PDF マニュアルの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Screenbook] をクリックする

▶ 「デジカメ Walker」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

7 オリジナル DVD を作る

ウィンディーバイディー クリエーター
「WinDVD Creator 2 Platinum」プラチナム を使ってデジタルビデオカメラで撮影した映像を本製品に取り込み、編集できます。また、編集した映像データを DVD に書き込むこともできます。

「WinDVD Creator 2 Platinum」は、本製品にはインストールされていません。インストールしてから使用してください。

参照 → 「WinDVD Creator 2 Platinum」のインストールについて
『WinDVD Creator 2 Platinum ユーザーズ・マニュアル』

お願い WinDVD Creator 2 Platinum の使用にあたって

- 「InterVideo WinDVD」などの映像を再生するアプリケーションが動作していると、編集中のプレビューが正しく表示されない場合があります。編集中は他のアプリケーションを終了してください。
- 編集中のプレビューは内部液晶ディスプレイにのみ表示されます。外部ディスプレイには表示されません。
- 著作権保護された映像が保存されている DVD-RW、DVD-R の映像の編集は行えません。
- 著作権保護されているコンテンツは再生できません。
- 「WinDVD Creator 2 Platinum」の動作中は、画面の解像度・色数の変更は行わないでください。

1 映像データをパソコンに取り込む

デジタルビデオカメラを接続し、映像データをパソコンに取り込みます。

1 i.LINK (IEEE 1394) ケーブルをパソコン本体に接続する

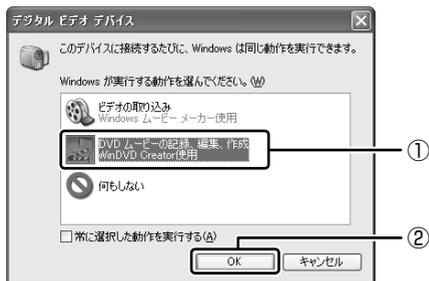
参照 → i.LINK ケーブルの接続
[4章 8 i.LINK (IEEE 1394) 対応機器を接続する]

2 ケーブルのもう一方のプラグをデジタルビデオカメラに接続する

3 デジタルビデオカメラの電源を入れる

[デジタル ビデオ デバイス] 画面が表示されます。

4 [DVDムービーの記録、編集、作成 WinDVD Creator 使用] を選択し①、[OK] ボタンをクリックする②



「WinDVD Creator 2 Platinum」が起動します。

「WinDVD Creator 2 Platinum」が起動しない場合やデジタルビデオカメラを接続しない場合などは、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD Creator] → [InterVideo WinDVD Creator] をクリックして起動してください。

「WinDVD Creator 2 Platinum」の使い方については、同梱の『WinDVD Creator 2 Platinum ユーザーズ・マニュアル』をご覧ください。

ヘルプの起動方法

1 メニューバーの [ヘルプ] → [ヘルプ] をクリックする

参照 → 「WinDVD Creator 2 Platinum」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2) 映像データの編集について

映像データを「WinDVD Creator 2 Platinum」で編集することができます。編集の方法については、同梱の『WinDVD Creator 2 Platinum ユーザーズ・マニュアル』をご覧ください。「WinDVD Creator 2 Platinum」は、本製品にはインストールされていません。あらかじめインストールしてください。

参照 → インストールについて
『WinDVD Creator 2 Platinum ユーザーズ・マニュアル』

お願い 編集した映像データについて

- 編集した映像データを本製品で再生する場合は、「Media Center」の使用を推奨します。

ただし、表示が乱れたり、再生できない場合などには、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Videoを再生してください。

参照 → 「Media Center」について『Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2004 ガイドブック』

- 編集した映像データを本製品で再生する場合、「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。

このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、再生してください。

編集した映像データは、デジタルビデオ機器に出力することができます。

3 映像データをDVDに書き込む

映像データをDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rに書き込むことができます。

書き込み方法については、同梱の『WinDVD Creator 2 Platinum ユーザーズ・マニュアル』をご覧ください。

「WinDVD Creator 2 Platinum」は、本製品にはインストールされていません。あらかじめインストールしてください。

参照 → インストールについて
『WinDVD Creator 2 Platinum ユーザーズ・マニュアル』

お願い

映像データをDVDに書き込む前に

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rに書き込みを行う際には、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。なお、再生する機器に応じて、その機器の取扱説明書でも推奨されているメディアを使用してください。

参照 → DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rについて
「1章9-③ 使用できるDVD」

守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 本製品に付属のアプリケーション以外の映像データライティングソフトウェアは動作保証していません。
- バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを使用してパソコンを電源に接続して使用してください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

 詳細について 「5 章 2 省電力の設定をする」

「5 章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る」

- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。

- ・ スクリーンセーバ
- ・ ウイルスチェックソフト
- ・ ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
- ・ モデムなどの通信アプリケーション など

ソフトウェアによっては動作の不安定やデータの破損の原因となるので、使用しないことを推奨します。

書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
マルチスタイルベイ機器、PC カード、USB 対応機器、外部ディスプレイ、i.LINK 対応機器、光デジタル対応機器、SD メモリカード、テレビ
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- オーディオ／アプリケーションボタンを使用して音楽／音声の再生を行わないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
- 書き込み済みの DVD-RW に書き込みを行う場合は、「Drag'n Drop CD + DVD」などで消去する必要があります。
消去方法については、「Drag'n Drop CD + DVD」のヘルプを確認してください。

 「Drag'n Drop CD + DVD」のヘルプ

「本章 3-② Drag'n Drop CD + DVD を使う」

「WinDVD Creator 2 Platinum」の「ムービー作成」について

- DVD-RW、DVD-RにVRフォーマットでの書き込みはできません。
- 書き込みが可能なDVD-RW、DVD-Rへ最大約2時間の映像データをDVDビデオフォーマットで記録できます。
- DVD-AudioやVideo CD、miniDVDを作成することはできません。
- DVD-RAMにDVDビデオフォーマットで記録できますが、作成されたメディアはパソコンなどDVD-RAMが読める環境でのみ再生可能となります。
- DVD-RW、DVD-Rへ書き込みを行うには、ビデオの長さ1時間当たりハードディスクに2GB以上の空き容量が必要です。あらかじめハードディスクの空き容量を確認してください。
- DVD-RW、DVD-Rに映像データを書き込む場合、映像データの大きさや編集のしかたによってはデータの変換に数時間かかることがあります。

作成したDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rについて

- 作成したDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rは、一部の家庭用DVDビデオレコーダやパソコンでは再生できない場合があります。
- 作成したDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rを本製品で再生する場合は、「Media Center」の使用を推奨します。
ただし、表示が乱れたり、再生できない場合などには、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Videoを再生してください。

 参照 「Media Center」について『Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2004 ガイドブック』

- 作成したDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rを本製品で再生する場合、「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。
このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、再生してください。

「WinDVD Creator 2 Platinum」の「ディスクマネージャー」について

- DVD-RAMへ書き込むには、あらかじめフォーマットツールでUDF2.0形式のフォーマットをしておく必要があります。

 参照 DVD-RAMのフォーマット「1章9-4 DVD-RAMを使うときは」

- 扱えるプレイリストは1個だけです。
- DVD-RAMレコーダでプログラムなどに設定したサムネイル画像と異なるサムネイル画像が表示されることがあります。

3章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、自動的にメールチェックするときや海外でインターネットに接続するときに必要な設定について紹介します。

-
- 1 LANへ接続する 118
 - 2 Bluetooth 機能を使う 135
 - 3 新着メールをモードパネルで確認する 146
 - 4 内蔵モデムについて 155

1 LANへ接続する

1 ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）

本製品には、ブロードバンド対応のLAN機能が内蔵されています。

LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

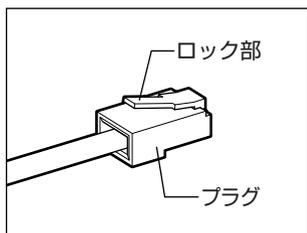
また、本製品のLAN機能は、Fast Ethernet（100BASE-TX）、Ethernet（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet／Ethernetを自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

LANインタフェースを100BASE-TX規格（100Mbps）で使用するときには、必ずカテゴリ5（CAT5）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。

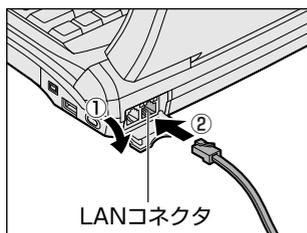
10BASE-T規格（10Mbps）で使用するときには、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、数字が高いほど品質が高くなります。



LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらかはさずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

- 1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 2 背面のコネクタカバーを開き①、LANケーブルのプラグをLANコネクタに差し込む②



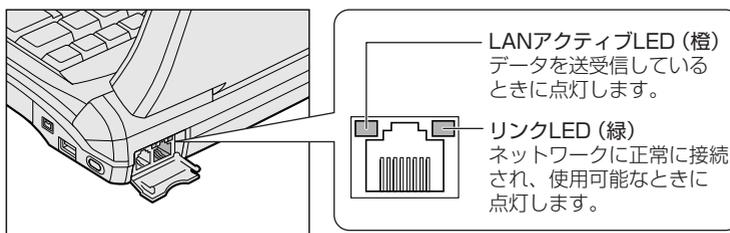
ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、《サイバーサポート》を確認してください。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LANコネクタの脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

お願い

ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行ってください。

1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする

2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

2 ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）

無線 LAN とは、パソコンに LAN ケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスの LAN 機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータを LAN システムに接続できます。

本製品に内蔵される無線 LAN モジュールは、IEEE802.11a および IEEE802.11b に準拠しています。

無線 LAN アクセスポイント（別売り）を使用することによって、複数のパソコンからワイヤレスでブロードバンド環境を実現できます。

1 無線 LAN の概要

本製品では、次の機能をサポートしています。

- 転送レート自動選択機能
以下の転送レートから選択可能です。
54、48、36、24、18、12、9、6Mbps（802.11a の場合）
11、5.5、2、1Mbps（802.11b の場合）
- 周波数チャネル選択（5GHz 帯、2.4GHz 帯）
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- IEEE802.11 規格で規定されている RC4 暗号化アルゴリズムに基づいたデータ暗号化（WEP）

【無線LANの種類】

無線LANは、IEEE802.11aまたはIEEE802.11bに準拠する無線ネットワークです。無線LANは802.11aの場合に最大54Mbps、802.11bの場合に最大11Mbpsの転送レートをサポートしています。

- IEEE802.11aでは「直交周波数分割多重方式」(Orthogonal Frequency Division Multiplexing, OFDM)、IEEE802.11bでは「直接拡散方式」(Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS)を採用し、IEEE802.11に準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。
Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11に準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。

【無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意】

(お客様の権利(プライバシー保護)に関する重要な事項です！)

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
メールの内容
などの通信内容を盗み見られる可能性があります。
- 不正に侵入される
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)
特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)
傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)
コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)
などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線 LAN 機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線 LAN カードや無線 LAN アクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線 LAN 機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルにしたがって行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

無線 LAN 内蔵ノートパソコンのセキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、東芝 PC ダイアル（巻末参照）までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

【 暗号化 】

WEP（暗号化）機能を使用しないと、無線 LAN 経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。

そのため WEP 機能を設定されることを強くおすすめいたします。

 **参照**▶ WEP 機能の設定「本項 4-WEP 機能を設定する」

お願い 無線 LAN を使用するにあたって

- 無線 LAN の無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で使用してください。無線通信のレンジを最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
- 無線 LAN は無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 3-5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
- 本製品の無線 LAN を使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

2 無線LANネットワークの種類

無線LANネットワークには、次のような機能があります。

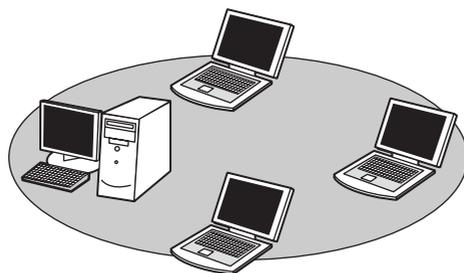
- 無線LANステーション同士を直接ワイヤレス接続する
 ▶ 「本項 2-ピア・ツー・ピアワークグループ」
- 無線LANアクセスポイント経由で、インターネットやその他の無線LANステーションに接続する

▶ 「本項 2-インフラストラクチャネットワーク」

ピア・ツー・ピアワークグループ

無線LANアクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office（SOHO）など）で一時的なネットワークを構築する方法です。ピア・ツー・ピアワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。パソコンなどのデバイス同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような「ファイルとプリンタの共有」などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。



ピア・ツー・ピアワークグループでネットワークを構築するには、設定が必要です。

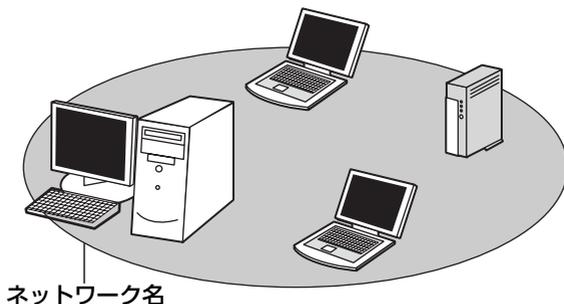
▶ ピア・ツー・ピアワークグループの設定について 「本項 3 基本設定」

インフラストラクチャネットワーク

無線 LAN アクセスポイントを使用してネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線 LAN 機器でアクセスできる方法です。ネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

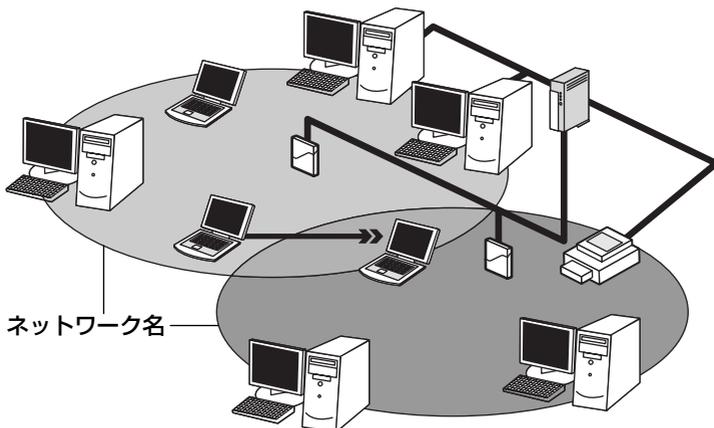
【スタンドアロンネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントのみで構築したネットワークです。



【インフラストラクチャネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込むネットワーク形態です。



どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。

参照 → ネットワーク接続のための設定について 「本項 3 基本設定」

3 基本設定

無線LAN ネットワークに接続するには、接続するネットワークに応じた設定が必要です。

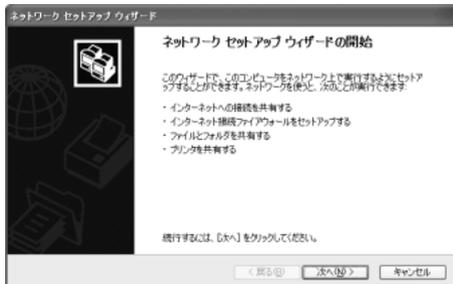
Windows XPは、標準で無線LAN ネットワークに対応しています。

ネットワーク設定の方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

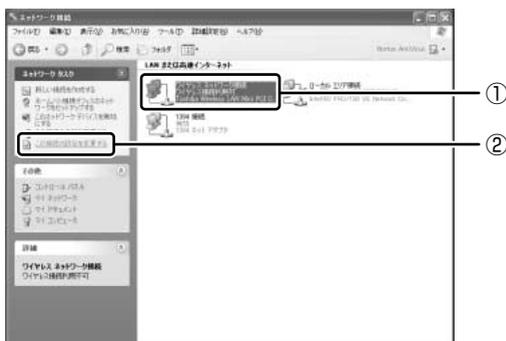


4 詳細設定

無線 LAN は、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面で行います。

プロパティ画面の表示

- 1 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- 2 [ネットワークタスク] の [ネットワーク接続を表示する] をクリックする
[ネットワーク接続] 画面が表示されます。
- 3 [ワイヤレスネットワーク接続] を選択し①、[ネットワークタスク] の [この接続の設定を変更する] をクリックする②



[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面が表示されます。



設定を変更したあと、[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

WEP 機能を設定する

WEP (Wired Equivalent Privacy) とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEP での暗号化には 128 ビットと 64 ビットの 2 種類があり、プロパティ画面で設定できます。

1 [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面を開く

参照▶「本項 4- プロパティ画面の表示」

2 [ワイヤレスネットワーク] タブの [利用できるネットワーク] でネットワーク名をクリックし①、[構成] ボタンをクリックする②



[ワイヤレスネットワークのプロパティ] 画面が表示されます。

3 [データの暗号化 (WEP 有効)] をチェックする



4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- ネットワークキーが自動的に提供される場合
[キーは自動的に提供される]がチェックされていることを確認する
- ネットワークキーが自動的に提供されない場合
 - ① [キーは自動的に提供される] のチェックをはずす
 - ② [ネットワークキー] と [ネットワークキーの確認入力] にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

セキュリティレベル	文字の種類と文字数	
	半角英数文字	16 進数
高 (128 ビット)	13 文字	26 文字
低 (64 ビット)	5 文字	10 文字

ネットワークキーは「**** (アスタリスク)」で表示されます。

5 [OK] ボタンをクリックする

手順 4 で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう 1 度手順 4 からやり直してください。

5 無線LANを使う

⚠ 警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

お願い

Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

ここでは、ネットワークに接続している他のパソコンの確認について説明します。

1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (📶) LEDがオレンジ色に点灯します。

無線LAN機能が起動します。

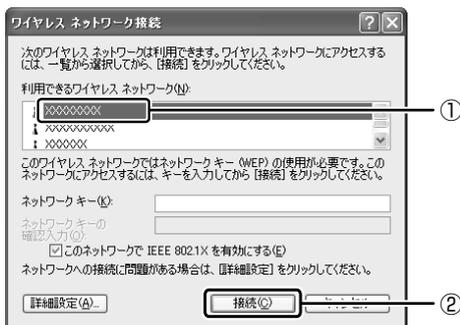
無線LAN機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。

利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

2 通知領域の【ワイヤレスネットワーク接続】アイコン (📶) を右クリックし、表示されたメニューから【利用できるワイヤレスネットワークの表示】をクリックする

[ワイヤレスネットワーク接続] 画面が表示されます。

3 [利用できるワイヤレスネットワーク] の使いたいネットワークを選択し①、[接続] ボタンをクリックする②



接続できると、通知領域に [ワイヤレスネットワーク接続 に接続しました] とメッセージが表示されます。

4 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする

5 [ネットワークタスク] の [ワークグループのコンピュータを表示する] をクリックする

無線 LAN でつながれた、他のパソコンなどのデバイスが表示されます。

役立つ 操作集

通信状態を確認する

[ワイヤレスネットワーク接続] アイコンをクリックすると [ワイヤレスネットワーク接続の状態] 画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

ヘルプの起動

無線 LAN の詳しい情報は『ヘルプとサポート』を参照してください。
《サイバーサポート》でも検索できます。

➡ 参照 サイバーサポートの使いかた
『困ったときは 1 章 1-① サイバーサポート』

3 ネットワーク設定に便利な機能

本製品に用意されている「^{コンフィグフリー}ConfigFree」を使うと、ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示することができます。さらに、ネットワークの設定やネットワークデバイスの切り替えをより簡単に行うことができます。例えば、自宅とオフィスのネットワーク設定を登録しておけば、プロファイルを選択するだけで、設定を切り替えることができます。

無線LANアクセスポイントのSSID名により自動でプロファイルを切り替える機能を使えば、自宅とオフィス間のネットワーク設定を、自動で切り替えることが可能です。

また、LANケーブルが抜かれたときに、自動で無線LANに切り替える機能も用意されています。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

「ConfigFree」の起動方法

「ConfigFree」は、Windowsを起動すると通知領域にアイコン（）が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree] をクリックする

通知領域にアイコン（）が表示され、[ConfigFree（ネットワーク診断）] 画面が表示されます。

「ConfigFree」を起動したときは、「ConfigFree」の説明画面が表示されます。以降必要のない場合は、[次回から表示しない] をチェックし、[閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

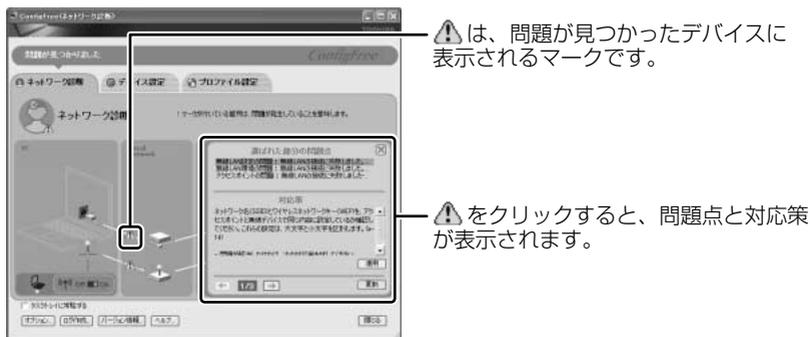
Bluetoothと同時使用する際の[注意] 画面が表示された場合は、内容をご確認の上、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

1 ネットワークの診断を行う

「ConfigFree」では、ネットワークの状態を診断し、問題があればその原因と対応策を表示します。

- 1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () をクリックし、表示されたメニューから [ネットワーク診断] をクリックする
[ConfigFree (ネットワーク診断)] 画面が表示されます。

【[ConfigFree (ネットワーク診断)] 画面】



また、画面上でネットワークデバイスのイラストにポインタを合わせると、それぞれのデバイスの説明や IP アドレスなどの情報が表示されます。

2 デバイスを切り替える

「ConfigFree」では、次のように操作をして、デバイスを簡単に切り替えることができます。

- 1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () をクリックし、有効／無効にしたいデバイス名にポインタを合わせ①、有効／無効をクリックする②



デバイスの切り替えが行われます。

【その他のデバイス設定】

[ConfigFree] アイコン () → [デバイス] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (デバイス設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

- 自動切り替え (ケーブル切断)
[ネットワークケーブル切断時に無線 LAN へ切り替えます] をチェックすると、有線 LAN ケーブルが抜けたとき、自動的に無線 LAN が有効になります。
- ネットワークとダイヤルアップ接続
[ネットワーク接続] ボタンをクリックすると [ネットワーク接続] 画面が表示され、ネットワーク接続とダイヤルアップ接続の設定が行えます。

3 ネットワーク設定を切り替える

「ConfigFree」では、ネットワーク設定をプロファイルで管理しているため、プロファイルを選択するだけで、以前登録したネットワーク設定内容に切り替えることができます。

 参照 ▶ プロファイルの登録「本項 3- その他のプロファイル設定」

1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () をクリックする

メニューが表示されます。

[プロファイル] の下に表示されている項目が、登録済みのプロファイルです。左側にチェックがついている項目が、現在選択されているプロファイルです。

2 使用したいプロファイルをクリックする

ネットワーク設定の切り替えが行われます。

【その他のプロファイル設定】

[ConfigFree] アイコン () → [プロファイル] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (プロファイル設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

- プロファイルの追加
[追加] ボタンをクリックすると、プロファイル作成の説明画面が表示されるので、内容を確認したら、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じてください。
[プロファイルの追加] 画面が表示されます。登録したいプロファイルの内容を設定してください。プロファイルが追加されます。

- **プロファイルの削除**

プロファイルリストから削除したいプロファイル名を選択し、[削除] ボタンをクリックしてください。

- **自動切り替え (SSID)**

[自動切り替え] ボタンをクリックすると、自動切り替えについての説明画面が表示されるので、内容を確認したら、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

[自動切り替え] 画面が表示されます。[自動切り替え (SSID)] タブで [自動切り替え (SSID)] をチェックしてください。

接続した無線 LAN ネットワーク (SSID) の設定が登録済みのプロファイルとして検知された場合、自動的にプロファイルが切り替わります。

この他にも、無線 LAN 機能を内蔵したプロジェクタ (TOSHIBA 液晶プロジェクタ : TLP-T720J / TLP-T721J。2003 年 9 月現在) との通信設定を簡単に行えるクイックコネクト機能などがあります。

[ConfigFree] の詳細については、ヘルプを確認してください。

終了方法

- 1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [終了] をクリックする

[ConfigFree] の詳細については、ヘルプまたはファーストユーザーズガイドを確認してください。

ヘルプの起動方法

- 1 「ConfigFree」を起動して、表示された画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする

[ConfigFree ヘルプ] 画面が表示されます。

ファーストユーザーズガイドの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree ファーストユーザーズガイド] をクリックする

2 Bluetooth 機能を使う

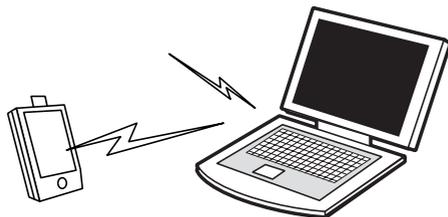
1 Bluetooth とは

ブルートゥース

Bluetooth とは、無線通信方法の 1 つです。Bluetooth 対応機器同士で電波を使ってデータや音声をやりとりできます。複雑なネットワーク設定やケーブル接続が不要なので、近い距離で手軽に通信できます。たとえば、SD カードタイプの Bluetooth 通信カードを装着した PDA とデータをやり取りしたり、Bluetooth 対応のマウスを利用したりします。

- PDA やマウスと…

(使用例)



また、Bluetooth 対応機器同士でネットワークを組むこともできます。その場合、ネットワークの中心となる Bluetooth 対応機器 1 台（マスタデバイス）と、それに応答する Bluetooth 対応機器 7 台（スレーブデバイス）で最大で 8 台の構成になります。2 つ以上のネットワークに同時に参加することもできます。

お願い

- 本製品は、すべての Bluetooth 対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべての Bluetooth 対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品の Bluetooth 機能を使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

メモ

- Bluetooth のバージョンによっては本製品と通信できない Bluetooth 対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1 の Bluetooth 対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

【通信距離と速度】

本製品は、見通し約 10 m の範囲で通信できます。赤外線通信のように、コネクタを向き合わせる必要はありません。データ通信速度は最大約 720kbps です。通信距離、通信速度は、周囲の電波環境、障害物設置環境、アプリケーションソフトウェア、OS などにより異なります。また、周囲の電波環境などにより通信が切断される場合があります。

【セキュリティ】

Bluetooth 機能を使って通信を行うときに使用する 2.4GHz 帯は、日本をはじめ世界各国／地域で特別な認可なしに使用できる周波数帯域です。そのため、不特定の Bluetooth 対応機器から接続されたり、同じ周波数帯域を使用する他の機器（電子レンジなど）の電波の干渉を受ける可能性があります。

Bluetooth 対応機器には、それぞれ固有の ID が割り振られ、接続時には ID の交換を行ったり、通信中は、使用周波数をランダムに切り替えるなど、他の機器からの干渉を軽減する仕様になっているので高いセキュリティ機能があります。また、本製品にインストールされている「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」の「Bluetooth Service Center」で、初めて通信を開始するときに「Bluetooth パスキー」が必要になる設定もできます。Bluetooth パスキーについては、「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」のヘルプ『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』を参照してください。

 参照 『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』の起動方法
「本節 ②-3-ヘルプの起動」

【Bluetooth 標準規格】

Bluetooth は様々な機器同士で無線通信できることを目標にした無線技術です。そのため、各国／地域・各メーカーの Bluetooth 対応機器でスムーズに通信できるように Bluetooth SIG (Special Interest Group) が無線通信の方式など相互接続に必要な仕様の標準規格を定めています。また、各メーカーは Bluetooth 対応機器の発売にあたり、その Bluetooth 対応機器が Bluetooth 標準規格に適合しているか、認証を受けることを義務付けられています。Bluetooth SIG によって認証された Bluetooth 対応機器には、Bluetooth ロゴが添付されます。この規格に従えば、今後はゲーム機や家電など、さまざまな機器がワイヤレスで接続、コントロールできるようになると言われています。

【 サポートしているプロファイル一覧 】

本製品でサポートしている Bluetooth プロファイルは次のとおりです。

- ダイアルアップネットワークングプロファイル (DUN)
ダイアルアップで接続するプロファイルです。
- FAX プロファイル (FAX)
ファックスを転送するプロファイルです。
- LAN アクセスプロファイル (LAP)
アクセスポイントに接続するプロファイルです。
- シリアルポートプロファイル (SPP)
シリアルポートを使って接続するプロファイルです。
- ヒューマンインタフェースデバイスプロファイル (HID)
マウスやキーボードを接続するプロファイルです。
- ハードコピーケーブルリプレースメントプロファイル (HCRP)
印刷を行うプロファイルです。
- ファイル転送プロファイル (FTP)
ファイルを転送するプロファイルです。
- オブジェクトプッシュプロファイル (OPP)
vCard などのフォーマットのファイルを交換するプロファイルです。
- ジェネリックアクセスプロファイル (GAP)
Bluetooth の環境設定を変更するプロファイルです。
- サービスディスカバリーアプリケーションプロファイル (SDAP)
SDP を制御するアプリケーションに関するプロファイルです。
- サービスディスカバリープロトコル (SDP)
サービスを探すプロトコルです。
- アドバンストオーディオディストリビューションプロファイル (A2DP)
高品質のオーディオを転送するプロファイルです。
- オーディオ/ビデオリモートコントロールプロファイル (AVRCP)
オーディオ・ビデオのリモコンに関するプロファイルです。
- ジェネリックオーディオ/ビデオディストリビューションプロファイル (GAVDP)
オーディオ・ビデオコンテンツを転送するプロファイルです。

Bluetooth を利用して Pocket PC と ActiveSync を行うことが可能です。シリアルポートを利用する場合には、通常は COM7 ポートを指定することができます。

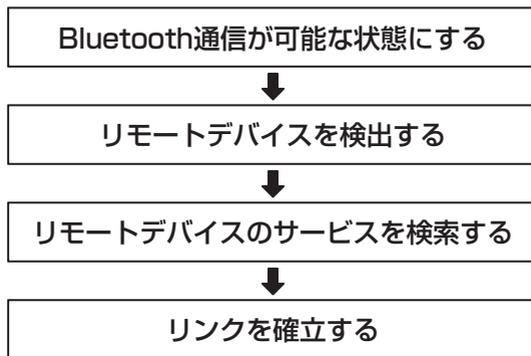
2 Bluetooth 機能を使って通信する

本製品には、他の Bluetooth 対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」がプレインストールされています。

- Bluetooth 設定
- Bluetooth Manager
- Bluetooth Information Exchanger
- Bluetooth Service Center (Bluetooth サービスセンター)
- Bluetooth Local COM

これらの中心となるのは、「Bluetooth 設定」と「Bluetooth Manager」です。ここでは「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」の基本的な使いかたを紹介します。

通信するまでの流れは、次のとおりです。



通信相手となる他の Bluetooth 対応機器を「リモートデバイス」と呼びます。

1 Bluetooth通信が可能な状態にする

警告

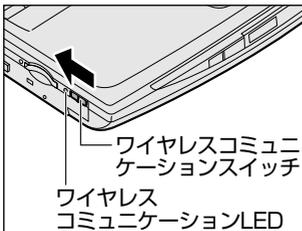
- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

お願い

Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

Bluetooth機能の起動方法

1 本体左側面にあるワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (無線LAN) LED がオレンジ色に点灯します。

2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [Bluetooth] → [Bluetooth Manager] をクリックする

「Bluetooth Manager」が起動し、通知領域に「Bluetooth Manager」アイコン（）が表示されます。以降、通知領域に常駐し、次回 Windows を起動したときには自動的にアイコンが表示されます。

はじめて起動したときは、「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が何度か表示されます。画面に従って操作してください。

途中、「Windows XP との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していません」というメッセージが表示されますが、Bluetooth 対応機器のドライバに関してはデジタル署名を必要としないので、「続行」ボタンをクリックして次の画面に進んでください。



「Bluetooth Manager」アイコン（）はサービスの状態によって表示が異なります。詳細については、ヘルプを確認してください。

無線 LAN（Wireless LAN）と同時を使用する際の「注意」画面が表示された場合は、「OK」ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

Bluetooth の電源が入っていない場合には、「Bluetooth Manager」アイコン（）を右クリックして表示されたメニューから、「パワー ON」を選択して電源を入れてください。

デバイス名の設定

自分のマシンに名前をつけます。他の機器で検出されたときに、ここで設定した名前が表示されます。一度設定した名前を使用するときは、この操作は必要ありません。

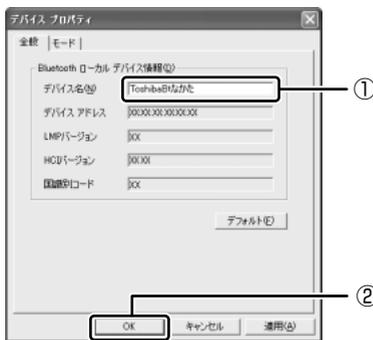
1 通知領域の「Bluetooth Manager」アイコン（）を右クリックする

2 表示されたメニューから [デバイスプロパティ] をクリックする



[デバイスプロパティ] 画面が表示されます。

3 [デバイス名] に名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②



ここでは、名前を「ToshibaBluetooth」と入力しています。

デバイス名が設定されます。

Bluetooth 設定の起動

「Bluetooth 設定」は、他の Bluetooth 対応機器との通信を管理するユーティリティです。

- 1 Bluetooth 通信が可能な状態にする
- 2 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () をダブルクリックする

「Bluetooth 設定」が起動します。

はじめて起動するとき、または、通信を行うことができる他の Bluetooth 対応機器が登録されていないときは、[新しい接続の追加ウィザード] 画面が表示されます。

参照 → [新しい接続の追加ウィザード] 画面
「本項 2 リモートデバイスを登録する」

2 リモートデバイスを登録する

「Bluetooth 設定」に、通信を行いたい Bluetooth 対応機器を登録します。
「Bluetooth 設定」の「新しい接続の追加ウィザード」で、新しい接続の検出を行うと、その時点で通信可能な他の Bluetooth 対応機器がわかります。また、その Bluetooth 対応機器が、どのようなサービス（Bluetooth での通信の種類）を実行できるのかを調べます。
通信相手となる他の Bluetooth 対応機器を「リモートデバイス」と呼びます。

1 「Bluetooth 設定」を起動する

2 [新しい接続] ボタン () をクリックする

[新しい接続の追加ウィザード] 画面が表示されます。
画面に従って操作してください。



「Bluetooth 設定」画面

「新しい接続の追加ウィザード」が完了すると、[Bluetooth 設定] 画面が表示されます。

検出されたリモートデバイスの接続アイコンが、接続用アイコンウィンドウに表示されます。



リモートデバイスが登録され、通信を行う準備ができました。

3 Bluetooth通信を接続／切断する

「Bluetooth 設定」に登録されたリモートデバイスは、Bluetooth プロファイルの種類によって、自動的に接続／切断されるものと、手動で接続／切断する必要があるものがあります。

詳しくは、『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』を確認してください。

Bluetooth プロファイル	接続／切断方法
ダイヤルアップネットワーキング プロファイル (DUN)	COM 自動接続機能設定を有効にしている場合は、関連するアプリケーションを使用するときに、必要に応じて自動的にリモートデバイスに接続／切断されます。
FAX プロファイル (FAX)	
LAN アクセスプロファイル (LAP)	
シリアルポートプロファイル (SPP)	
ヒューマンインタフェースデバイス プロファイル (HID)	マウスを動かすなどの操作により、自動的に接続されます。ただし、パソコン側で一時的に切断した後の接続、リモートデバイスを他のパソコンと接続して、記憶されていたアドレスが更新された場合などは、手動で接続する必要があります。
ハードコピーケーブルリプレースメント プロファイル (HCRP)	手動接続／切断を行う必要はありません。アプリケーションから印刷を行うことで、自動的に印刷ができます。
ファイル転送プロファイル (FTP)	手動接続／切断を行う必要はありません。エクスプローラの右クリックメニューなどからファイル転送ができます。
オブジェクトプッシュ プロファイル (OPP)	手動接続／切断を行う必要はありません。エクスプローラの右クリックメニューなどから名刺交換ができます。
アドバンストオーディオディストリ ビューションプロファイル (A2DP)	スピーチレコグナイザー SR-1*の電源を入れ、左シャトルプッシュスイッチの中央部分 [PLAY/PAUSE] ボタンを押すか、またはパソコンから手動接続してください。詳細は、スピーチレコグナイザー SR-1 の取扱説明書を参照してください。

* SR-1 同梱モデルに同梱。

Bluetooth プロファイル	接続／切断方法
ジェネリックオーディオ／ビデオ ディストリビューションプロファイル (GAVDP)	スピーチレコグナイザー SR-1*の電源を入れ、左シャトルブッシュスイッチの中央部分 [PLAY/PAUSE] ボタンを押すか、またはパソコンから手動接続してください。詳細は、スピーチレコグナイザー SR-1 の取扱説明書を参照してください。
オーディオ／ビデオリモートコントロールプロファイル (AVRCP)	GAVDP で接続／切断すると、自動的に接続／切断されます。

* SR-1 同梱モデルに同梱。

ジェネリックアクセスプロファイル (GAP)、サービスディスカバリーアプリケーションプロファイル (SDAP)、サービスディスカバリープロトコル (SDP) は、基本プロファイルです。

▶ 参照 COM 自動接続機能設定
『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』

ここでは、手動による Bluetooth 接続／切断を行う方法を説明します。

接続方法

手動で Bluetooth 通信を接続するには、次の操作を行ってください。

- 1 接続するリモートデバイスのアイコンを右クリックし①、表示されたメニューから [接続] をクリックする②

接続が確立すると、選択したリモートデバイスのアイコンが接続状態に変わります。



切断方法

手動で Bluetooth 通信をやめるには、次の操作を行ってください。

- 1 接続しているリモートデバイスのアイコンを右クリックし①、表示されたメニューから **【切断】** をクリックする②



確認のメッセージが表示されます。

- 2 **【はい】 ボタン**をクリックする

接続が切断されると、選択したリモートデバイスのアイコンが切断状態に変わります。

ヘルプの起動

【クイックスタートガイド】

『クイックスタートガイド』では、Bluetooth の基本的な使用方法について説明しています。

- 1 **【スタート】** → **【すべてのプログラム】** → **【TOSHIBA】** → **【Bluetooth】** → **【クイックスタートガイド】** をクリックする

【Bluetooth Toshiba Utility User's Guide】

『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』では、「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」について説明しています。

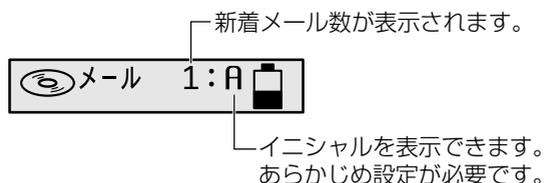
- 1 **【Bluetooth Manager】** を起動する
- 2 通知領域の **【Bluetooth Manager】** アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから **【ヘルプ】** をクリックする

参照 → 「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 新着メールをモードパネルで確認する

「メール着信ユーティリティ」で設定すると、メールソフトを起動しなくても、設定した日時に自動的に Windows を起動して新着メールが届いているかどうかチェックできます。これを新着メールチェック機能といいます。

新着メールが届いていると、モードパネルに新着メール数が表示されます。



新着メールチェック機能を使用するには、あらかじめ設定が必要です。

新着メールチェックを行うには、電話料金およびプロバイダへの接続料金がかかります。

【新着メールチェック機能を使用できる状態】

新着メールチェック機能を使用するときは、必ず AC アダプタを使用し、本製品と電話回線をモジュラーケーブルで接続してください。

新着メールチェック機能はパソコンが次の状態のときに使用できます。

- 電源が入っているとき
- スタンバイ機能を実行しているとき
- 休止状態のとき

スタンバイ機能を実行中や休止状態にしているときは、設定した時間にパソコンが自動的に起動し、新着メールをチェックします。

新着メールチェック機能は、メールソフトの設定が完了している場合に使用できます。メールソフトの設定については、契約しているプロバイダからの資料を確認してください。

お願い

「メール着信ユーティリティ」の新着メールチェック機能と、「ぱらちゃん」のメール着信機能は同時に使用しないでください。

▶ 参照 「ぱらちゃん」について《サイバーサポート》

1 新着メールチェックの設定をする

新着メールチェック機能を使用するために必要な、各種設定について説明します。

1 Windowsログオンパスワードを設定する

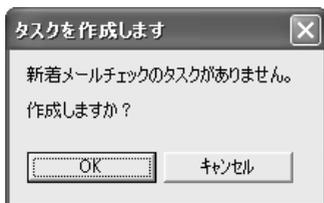
新着メールチェック機能を設定するには、Windows のログオンパスワードの入力が必要です。あらかじめ Windows のログオンパスワードを設定しておいてください。

参照 → Windows のログオンパスワードについて
『基本をマスター 4 章 1 Windows ログオンパスワード』

2 [メール]アイコンを通知領域に表示する(新着メールチェック機能を開始する)

新着メールチェック機能は、「メール着信ユーティリティ」で設定します。「メール着信ユーティリティ」は次の手順で起動します。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [新着メールチェックのスケジュール設定] をクリックする



この操作を初めて行った場合、「タスクを作成します」画面が表示されます。

次の手順を行ってください。

- ① 表示される内容を確認して、[OK] ボタンをクリックする
[アカウント パスワードを設定してください] 画面が表示されます。
- ② [パスワード] と [パスワード確認入力] の 2 カ所に、Windows のログオンパスワードを入力する
Windows のログオンパスワードを設定していない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックして、「メール着信ユーティリティ」を終了してください。Windows のログオンパスワードを設定したうえで、もう 1 度「メール着信ユーティリティ」を起動してください。
- ③ [OK] ボタンをクリックする
[新着メールチェックのスケジュール設定] 画面が表示されます。

- 3 [基本設定] タブで [実行する (指定された時刻に新着メールのチェックを行う)] をチェックする ()
- 4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする
- 5 [基本設定] タブで [コンピュータ起動時に常駐する] をチェックする ()

チェックしておくとパソコン起動時に自動的に [メール] アイコン () が通知領域に表示され、新着メールチェック機能が開始できるので便利です。

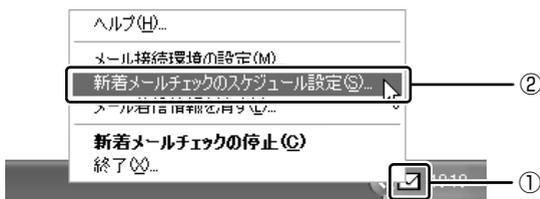
6 [OK] ボタンをクリックする

通知領域に [メール] アイコン () が表示されます。
続けて新着メールチェックのスケジュールを設定してください。

3 新着メールチェックのスケジュールを設定する

新着メールチェックを開始する日や時間を設定します。

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし①、表示されたメニューから [新着メールチェックのスケジュール設定] をクリックする②

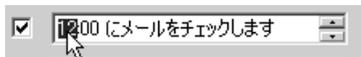


- 2 [基本設定] タブで [スケジュール] を設定する



- ① [開始日] でチェックを開始する日を設定する
 ボタンを押すとカレンダーが表示されますので、開始したい日をクリックしてください。

- ② [継続日数] でチェックを続ける期間を設定する
最大 30 日まで設定できます。
- ③ 何時に新着メールチェックを行うか設定する
1 日に最大 3 回まで設定できます。チェックしたい回数だけチェック
ボックスをチェックします ()。
時間を設定するには、設定したい [時間] [分] にポインタをあわせてク
リックします。数字が反転表示しますので、ボタンで設定します。



3 [詳細設定] タブで [タスクの実行時にスリープを解除する] と [レ ジューム後ハイバネーションする] をチェックする

スタンバイ機能を実行中、または休止状態のときに新着メールチェック機能
を使用するときにチェックします。

[レジューム後ハイバネーションする] をチェックすると、新着メール
チェック後に、自動的に休止状態になります。

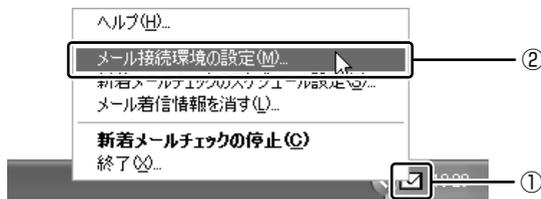
4 [OK] ボタンをクリックする

4 新着メールチェックの接続環境を設定する

初めて新着メールチェック機能を使用するときは、メールソフトの接続環境の設
定が必要です。

新着メールチェック機能は新着メール数だけを確認できます。メールの内容を確認
することはできません。メールの内容を確認するには、使用しているメールソフト
で送受信を行う必要があります。

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし①、表示さ
れたメニューから [メール接続環境の設定] をクリックする②



- 2 [接続] タブで [POP3] をチェックし①、[設定] ボタンをクリックする②



- 3 必要な項目を入力する



プロバイダから指定されている [サーバ名] [ユーザ名] [パスワード] を入力してください。

- 4 [OK] ボタンをクリックする
5 [設定] 画面で [OK] ボタンをクリックする

5 モードパネルの設定

新着メールがあったときに、モードパネルに新着メール数が表示されるように設定します。

【新着モードパネルの設定メール数を表示する】

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝コントロール] をクリックする

3 [モードパネル] タブの [表示モード] で、[新着メール情報を表示する] をチェックする ()



4 [OK] ボタンをクリックする

新着メールチェックが実行され、新着メールがあると、モードパネルに [メール XX] と表示されます。



【新着メール数とイニシャルを表示する】

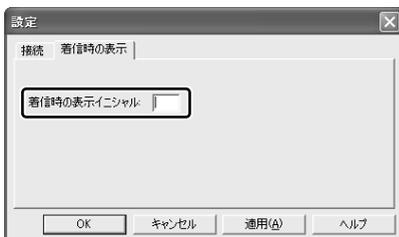
モードパネルに新着メール数を表示するときに、イニシャルとしてお好きなアルファベット (大文字、小文字) 半角 1 文字を追加して [メール XX : X] と表示させることができます。



新着メール数を表示する設定を行ったうえで設定してください。

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [メール接続環境の設定] をクリックする
- 2 [着信時の表示] タブの [着信時の表示イニシャル] に、設定したいアルファベットを 1 文字入力する

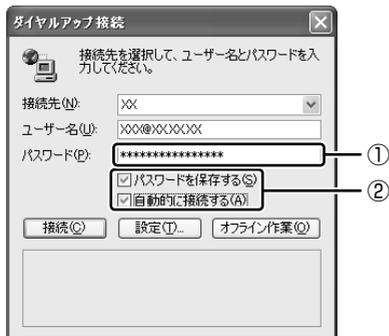
設定できる文字は、アルファベットの大文字 (A ~ Z) または小文字 (a ~ z) のうち 1 文字です。半角で入力してください。



3 [OK] ボタンをクリックする

6 インターネットへの接続の設定

- 1 ACアダプタとモジュラーケーブルを接続する
- 2 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 3 [ インターネットオプション] をクリックする
[インターネットのプロパティ] 画面が表示されます。
- 4 [接続] タブで [通常の接続でダイヤルする] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
- 5 Internet Explorer を起動する
 - 参照 ▶ Internet Explorer の起動方法
『基本をマスター 2章 2- ① Internet Explorer の起動』
 - 参照 ▶ インターネット接続について
『基本をマスター 2章 1 インターネットに接続する』
- 6 [ダイヤルアップ接続] 画面で、[パスワード] にパスワードを入力し①、[パスワードを保存する] と [自動的に接続する] をチェックする② ()



7 [接続] ボタンをクリックする

1 度インターネットに接続して、設定を保存します。[キャンセル] ボタンや [閉じる] ボタン () をクリックすると設定は保存されません。インターネットに接続されると、[ダイヤルアップ接続] 画面が消えます。

- 8 インターネットへ接続を続ける必要がない場合、Internet Explorer の [閉じる] ボタン () をクリックする
- 9 [今すぐ切断する] をクリックする
インターネットへの接続が終了します。

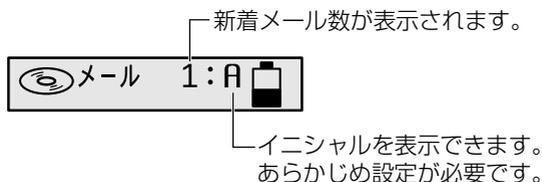
7 パソコンを起動せずに新着メールチェックをする

パソコンが起動していないときに、新着メールチェック機能を使うには、スタンバイを実行するか、休止状態にしてください。

 参照 → スタンバイの実行、休止状態について
[5章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る]

2 新着メールを確認する

設定したスケジュールに従って、新着メールチェックが行われます。
新着メールがあると、モードパネルに新着メール件数が表示されます。



1 メール着信情報を消す

メールソフトを起動してメールの内容を確認した場合、新着メールをすべて既読にしてもモードパネルの新着メール件数の表示は消えません。この場合、次の方法で表示を消してください。

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されるメニューから [メール着信情報を消す] をクリックする
モードパネルの新着メール件数の表示が消えます。

3 新着メールチェックを停止する

1 新着メールチェック機能を一時停止する

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されるメニューから [新着メールチェックの停止] をクリックする
アイコンが () に変わり、新着メールチェック機能を一時的に停止します。

2 新着メールチェック機能を再開する

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されるメニューから [新着メールチェックの開始] をクリックする
- 2 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする
アイコンが () に変わり、設定したスケジュールに従って新着メールチェックを再開します。

3 新着メールチェック機能を終了する

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されるメニューから [終了] をクリックする
- 2 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする
アイコンの表示が消えます。
この操作を行ったあと、再び新着メールチェック機能を使用したいときは、「本節 ①-2 [メール] アイコンを通知領域に表示する (新着メールチェック機能を開始する)」を確認してください。

4 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90 に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90 以外の場合は、最大 33.6kbps で接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
 - 分岐アダプタとは
1つの電話回線に電話とパソコンなど複数の機器を接続できるように、モジュラージャックのコネクタを複数に分ける機器。
 - 回線切換器とは
1つの電話回線に複数の機器を接続できるように、モジュラージャックのコネクタを複数に分け、自動的に接続を切り替える機器。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003年10月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

1 設定方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [Modem Region Select] をクリックする

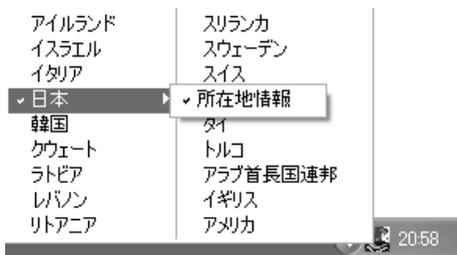
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () が通知領域に表示されます。



- 2 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



- 3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。

新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

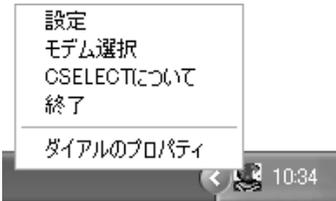
[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。

選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

- 1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】

COMポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイヤルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器について、その取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

-
- 1 周辺機器について 160
 - 2 マルチスタイルベイ機器を差し替える 163
 - 3 フロッピーディスクドライブを接続する 167
 - 4 PC カードを接続する 173
 - 5 USB 対応機器を接続する 176
 - 6 テレビを接続する 178
 - 7 外部ディスプレイを接続する 185
 - 8 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する 187
 - 9 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する 189
 - 10 その他の機器を接続する 192
 - 11 メモリを増設する 196

1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- マウス
 - PC カード
 - ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
 - スキャナ
 - デジタルカメラ
 - モデム（本製品では内蔵）
 - プリンタ
 - フロッピーディスクドライブ（本製品では同梱）
 - 増設メモリ
- * 増設の際は、メモリ購入前に「本章 11 メモリを増設する」をご覧ください。
- TV チューナ（本製品では取り付け済み）

 **参照** 周辺機器の接続場所について「1 章 1 各部の名前」

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。

インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサクションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサクションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

【 自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合 】

[ハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

[ハードウェアの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

2 マルチスタイルベイ機器を差し替える

1 マルチスタイルベイ機器について

購入時は、マルチスタイルベイに、TV チューナが取り付けられています。マルチスタイルベイは、次の機器のいずれか 1 つに差し替えることができます。

- TV チューナ（標準で取り付けられています）
テレビアンテナやビデオデッキと接続し、テレビ番組をパソコン画面に表示したり、録画することができます。
TV チューナは本製品に取り付けられているものを使用してください。
別売りの TV チューナは本製品では使用できません。
- DVD マルチドライブ（別売り）
DVD マルチドライブをもう 1 台使用することができます。
- 60GB ハードディスクユニット（別売り）
ハードディスク容量を増設できます。
- ブリッジメディアスロット 2（別売り）
スマートメディア、メモリースティック、コンパクトフラッシュを使用することができます。

▶ 参照 TV チューナの詳細について「Media Center を使うための準備」

▶ 参照 別売りのマルチスタイルベイ機器の詳細について
『マルチスタイルベイ機器に付属の説明書』

いずれの機器も使用しない場合は、同梱のウェイトセーバをマルチスタイルベイに取り付けてください。

⚠ 注意

- マルチスタイルベイにはマルチスタイルベイ機器またはウェイトセーバのいずれかを取り付けてお使いください。
マルチスタイルベイの内部に異物やほこりが入ると、パソコン本体の火災・感電・故障の原因となります。また、内部に触れると感電のおそれがあります。
- マルチスタイルベイ機器には長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。
マルチスタイルベイ機器を取りはずす際にマルチスタイルベイ機器が熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからマルチスタイルベイ機器を取りはずしてください。

2) マルチスタイルベイ機器の差し替え

お願い

- 取りはずすときは、マルチスタイルベイ  LED が消灯していることを確認してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

 参照 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

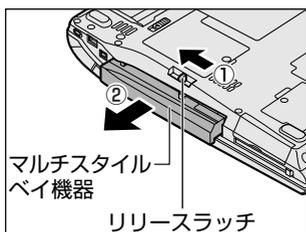
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 マルチスタイルベイ用のネジがロック解除の位置（奥側）になっていることを確認する

ロックの位置（手前側）になっている場合は、ロック解除の位置に付け替えてください。

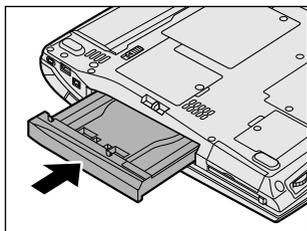
 参照 マルチスタイルベイ機器のロック
「本項 マルチスタイルベイ機器のロック」

5 マルチスタイルベイ・リリースラッチをスライドし①、マルチスタイルベイ機器を引き出す②



マルチスタイルベイ・リリースラッチをスライドさせた状態で、機器をしっかりつかんで水平に引き出してください。

6 マルチスタイルベイに取り付ける機器を裏返し、しっかり差し込む



「カチッ」と音がして、マルチスタイルベイ・リリースラッチがかかるまで差し込んでください。

7 必要であればマルチスタイルベイ機器をロックする

メモ

通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン（）からマルチスタイルベイ機器の使用を停止し、取りはずすこともできます。

マルチスタイルベイ機器のロック

マルチスタイルベイ機器は、ネジでロックすることができます。購入時、ネジはロック解除の位置（奥側）にとめられています。必要に応じてネジをロックの位置（手前側）に付け替えてください。

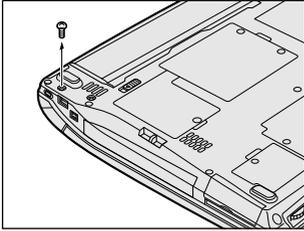
警告

- 取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

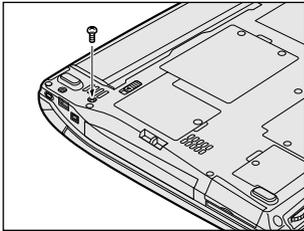
お願い

- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバーを使用してください。
- 取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。

- 1 パソコン本体を裏返し、ネジをマルチスタイルベイのロック解除の位置（奥側）からはずす



- 2 手順1ではずしたネジをマルチスタイルベイのロック位置（手前側）にとめる



3 フロッピーディスクドライブを接続する

本製品では、同梱のUSB 接続タイプのフロッピーディスクドライブを使用できます。フロッピーディスクドライブを取り付けることにより、フロッピーディスクを使用して、データを保存したり、他のパソコンとデータをやり取りすることができます。

お願い フロッピーディスクドライブの使用にあたって

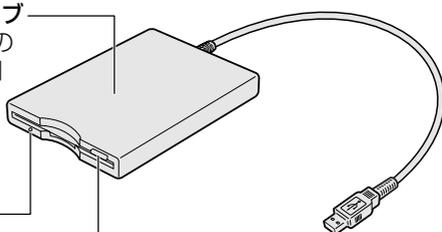
- パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（FDDのLEDが点灯しているとき）に電源を切ったり、USBケーブルを抜いたりイジェクトボタンを押したりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。
- フロッピーディスクドライブは、必ず水平に置いて使用してください。また、フロッピーディスクドライブの上に物を置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。
データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。
- フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。また、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出してください。

1) フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブについて説明します。同梱のフロッピーディスクドライブには、専用のドライバは必要ありません。本製品に取り付ければ使用できます。フロッピーディスクドライブの取り付け／取りはずしについては、「本章 5 USB 対応機器を接続する」を確認してください。

フロッピーディスクドライブ
3.5型の2HD、2DD形式のフロッピーディスクが使用できます。

FDD LED
点灯中は、フロッピーディスクにアクセスしていることを示します。



イジェクトボタン
フロッピーディスクを取り出すときに、このボタンを使用します。

パソコンをフロッピーディスクから起動する場合

購入時の設定では、ハードディスクドライブからシステムを起動します。
フロッピーディスクから起動したい場合、次の方法で変更できます。

【常にパソコンをフロッピーディスクから起動する場合】

- ① [コントロールパネル] を開き、 プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ②  東芝HWセットアップ] をクリックする
- ③ [OSの起動] タブで [OSの起動] を [FDD] が最初になるように設定する
- ④ [OK] ボタンをクリックする

【一時的にパソコンをフロッピーディスクから起動する場合】

- ① (F12) キーを押しながら、電源スイッチを押す
[起動ドライブ選択] 画面が表示されます。
- ② (←) または (→) キーで、フロッピーディスクのアイコン  を選択し、(Enter) キーを押す

2) フロッピーディスク

フロッピーディスクには、文書や表などのデータを保存することができます。

1 使用できるフロッピーディスク

本製品に同梱のフロッピーディスクドライブで使用できるフロッピーディスクには3種類あり、それぞれの機能は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量	読み出し / 書き込み	フォーマット
2DDタイプ	720KB	可	不可
2HDタイプ	1.2MB	可	不可
2HDタイプ	1.44MB	可	可

 フォーマットについて「本節 ③ フロッピーディスクを使う前に」

ソニー（株）製の3.5型フロッピーディスク（2DD / 2HD）を使用することを推奨します。

他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかつたり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

2 フロッピーディスクの内容を確認する

1 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

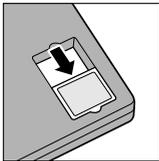
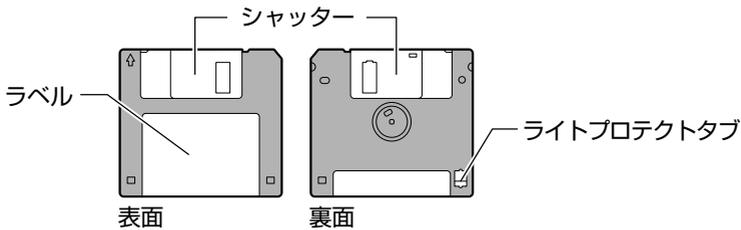
2 [ 3.5 インチ FD (A:)] をダブルクリックする

[3.5 インチ FD (A:)] 画面が開き、セットしたフロッピーディスクの内容が表示されます。

3) フロッピーディスクを使う前に

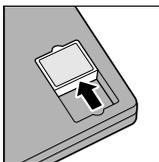
1 ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを動かすことにより、誤ってデータを消さないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクは、データの書き込みはできず、読み取りしかできません。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りも可能です。

2 フォーマットとは

新品のフロッピーディスクは、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの起動するのに必要な基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。

お願い

- フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

フォーマットできるのは、2HDタイプ（1.44MB）のフロッピーディスクのみです。2HDタイプ（1.44MB）のフロッピーディスクであることを確認してからフォーマットしてください。

次のフロッピーディスクは、フォーマットしてから使用してください。

- フォーマットされていないもの
- Windows 以外のシステムでフォーマットされたもの

フォーマットには、「クイックフォーマット」と「MS-DOSの起動ディスクを作成する」というオプションがあります。必要に応じて設定してください。

オプションを何も設定しないでフォーマットを開始すると、通常のフォーマットが行われます。

すべてのファイルが消去され、基本情報が書き込まれます。ディスクの損傷があるかどうかもチェックされます。

【クイックフォーマット】

以前にWindowsでフォーマットしたことがあるフロッピーディスクに実行できます。クイックフォーマットを行うと、すべてのファイルが消去されますが、基本情報の書き込みなどは行われません。フロッピーディスクが壊れているおそれのある場合は、クイックフォーマットは行わないでください。

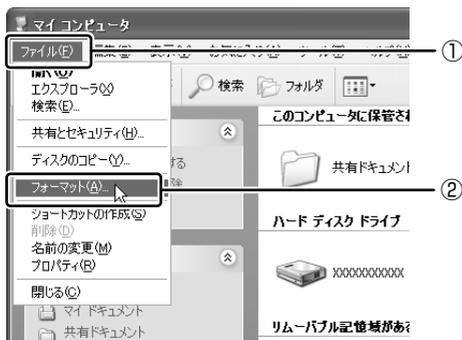
【MS-DOSの起動ディスクを作成する】

フォーマットまたはクイックフォーマットを行った後、MS-DOSの起動ディスクとして必要な情報をフロッピーディスクに書き込みます。作成を行うと、ファイルや基本情報などのすべての情報が消去されます。

3 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。

- 1 フロッピーディスクドライブに、フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。
- 3 [ 3.5 インチ FD (A:)] をクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] が選択され、アイコンの色が反転します。
- 4 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [フォーマット] をクリックする②
アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



[フォーマット 3.5 インチ FD (A:)] 画面が表示されます。

- 5 必要に応じて [フォーマットオプション] を設定し、[開始] ボタンをクリックする
クイックフォーマットを行う場合は、[クイックフォーマット] をチェックしてから、[開始] ボタンをクリックしてください。
メッセージが表示されます。
- 6 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする
フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。初めてフォーマットするフロッピーディスクの場合、多少時間がかかります。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から実行します。

フォーマットを終了する場合は、[フォーマット 3.5 インチ FD (A:)] 画面で [閉じる] ボタン () をクリックしてください。

フロッピーディスクドライブの手入れ

市販のクリーニングディスクを使って、1ヶ月に1回を目安にクリーニングしてください。

フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。

フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。
汚れると使用できなくなります。
- スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 直射日光に当たったり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に置かないでください。
- 使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環境	使用時	保管時
温度	5～35℃	4～53℃

- ラベルは正しい位置に貼ってください。
貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。

4 PC カードを接続する

目的に合わせた^{ピシー}PCカードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PCカードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- ^{スカー}SCSI カード
- PC カードタイプのハードディスク
- 携帯電話用データ通信カード など

1 PC カードを使う前に

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

使用しているPCカードがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

本製品は、PC Card Standard 準拠のTYPE II対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

お願い

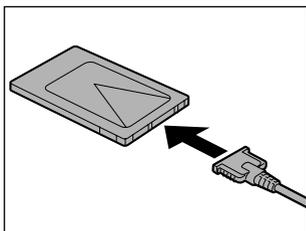
- ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2 PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

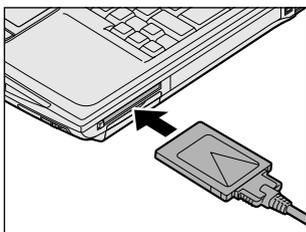
1 取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける



SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要
なときに行います。

2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで
押ししてください。きちんと奥まで差し込ま
れていない場合、PCカードを使用できな
い、またはPCカードが壊れる場合があり
ます。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているかシステムの
デバイスマネージャなどで確認してください。

2 取りはずし

お願い

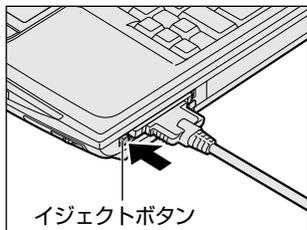
取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用してい
ないことを確認してください。

1 PCカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をク
リックする

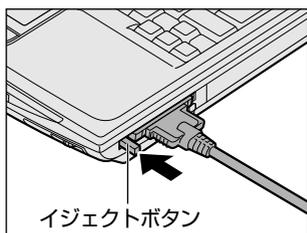
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 イジェクトボタンを押す



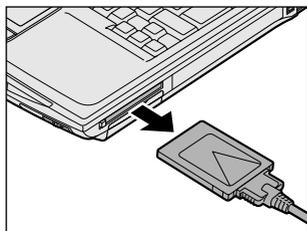
イジェクトボタンが出てきます。

3 もう1度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くなっていないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

5 USB 対応機器を接続する

ユーエスピー

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

- 同梱のフロッピーディスクドライブ
- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

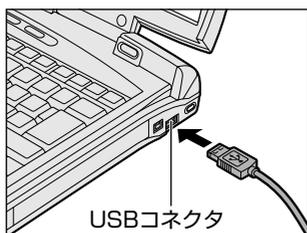
本製品の USB コネクタには USB2.0 対応機器と USB1.1 対応機器を取り付けることができます。

お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直さずか、パソコンを再起動してください。

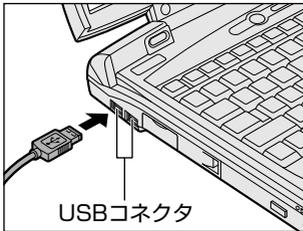
1 取り付け

1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む【右側面】



プラグの向きを確認して差し込んでください。

【左側面】



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む**
この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器)] を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

6 テレビを接続する

本製品に用意されているビデオ出力端子とテレビをケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

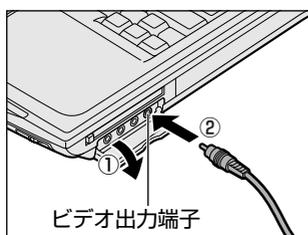
接続には、同梱のビデオケーブルを使用してください。同梱のビデオケーブル以外を使用すると、正しく表示されない場合があります。

本製品のビデオ出力端子は、LINE OUT 端子を兼ねています。

▶ 参照 LINE OUT 端子について 「本章 10-③ オーディオ機器」

1 取り付け

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、ビデオケーブルのプラグ（ミニジャックタイプ）をパソコン本体のビデオ出力端子に差し込む②



- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む
ビデオケーブルの音声端子（赤：音声右、白：音声左）、映像端子（黄）をテレビの入力端子側で対応している端子にそれぞれ接続してください。

2 テレビに表示する

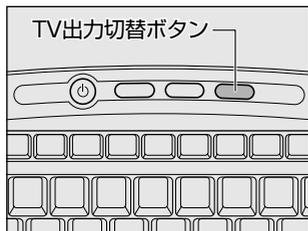
テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えしないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えしないでください。
 - ・データの読み込みや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間

【方法1—TV出力切替ボタンを使う】

TV出力切替ボタンを押すと、表示装置がテレビに切り替わります。



もう1度TV出力切替ボタンを押すと、内部液晶ディスプレイに表示が切り替わります。

【方法2—画面のプロパティで設定する】

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする
- 4 [GeForce FX Go5600] タブで次のいずれかに設定する



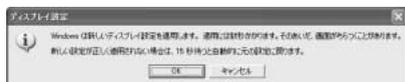
【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

● [システム設定の変更] 画面



● [ディスプレイ設定] 画面



● [ディスプレイ設定の確認] 画面



【設定方法】

● 内部液晶ディスプレイだけに表示

- ① [nView モード] で [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [デジタル ディスプレイ] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

● 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示

- ① [nView モード] で [クローン] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [ディスプレイ] で [nView ディスプレイ 2 : アナログディスプレイ] を選択する
- ③ [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [TV] を選択する
- ④ [適用] ボタンをクリックする
- ⑤ [ディスプレイ] で [nView ディスプレイ 2 : TV NTSC-M] を選択する
選択項目の「TV NTSC-M」の部分は、前回設定した内容によって表示が異なります。

- ⑥ [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [詳細] を選択する
- ⑦ テレビの形式を選択する
国内のテレビの場合は [NTSC-J] です。
- ⑧ [OK] ボタンをクリックする
- ⑨ [(マルチモニタ) と...] 画面で [OK] ボタンをクリックする

● **テレビだけに表示**

- ① [nView] モードで [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [TV] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

5 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

【方法3— (Fn) + (F5) キーを使う】

(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn) キーを離すと表示装置が切り替わります。

● **表示装置をLCD (内部液晶ディスプレイ) に戻す方法**

現在の表示装置がLCD (内部液晶ディスプレイ) 以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、(Fn) + (F5) キーを3秒以上押し続けてください。

表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指を離してから、(Fn) + (F5) キーを3秒以上押し続けてください。



- LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD / CRT 内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
- CRT 外部ディスプレイだけに表示
外部ディスプレイを接続している／していないに関わらず、外部ディスプレイだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

- LCD / TV 内部液晶ディスプレイとテレビに同時表示
- TV テレビだけに表示
テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

▶ **参照** 外部ディスプレイについて「本章 7 外部ディスプレイを接続する」

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは [Windows の ログオフ] 画面で [ログオフ] を選択して切り替えてください。[ユーザーの切り替え] で切り替えた場合は、(Fn) + (F5) キーで表示装置を切り替えられません。

▶ **参照** ユーザアカウントの切り替え
『基本をマスター 4 章 2-② ユーザアカウントを切り替える』

3 動画をテレビまたは外部ディスプレイに表示する

表示装置を内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示、または内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に設定している場合、動画をテレビや外部ディスプレイに表示させるには、設定が必要な場合があります。設定が必要かどうかは、動画の再生に使用するアプリケーションによって異なります。

アプリケーション	動画をテレビまたは外部ディスプレイに表示するには
Media Center (テレビ番組、DVD、 その他の動画の再生)	設定は不要です。 設定している／していないにかかわらず、動画は内部液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイの両方にウィンドウ表示されます。
Windows Media Player (DVD の再生)	
InterVideo WinDVD (DVD の再生)	設定が必要です。 設定している：動画を内部液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイに表示できます。
Windows Media Player (その他の動画の再生)	設定していない：動画は内部液晶ディスプレイのみにウィンドウ表示されます。

▶ **参照** DVD の再生について「2 章 5 DVD-Video を観る」

設定が必要な場合は、次の手順で設定を行ってください。

- 1 **【コントロールパネル】**を開き、**【デスクトップの表示とテーマ】**をクリックする
- 2 **【画面】**をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 **【設定】** タブで **【詳細設定】** ボタンをクリックする
- 4 **【GeForce FX Go5600】** タブで **【GeForce FX Go5600】** ボタンをクリックする



- 5 表示されるメニューから **【オーバーレイコントロール】** をクリックする

6 [フルスクリーンデバイス] で [プライマリディスプレイ] または [セカンダリディスプレイ] を選択する

[プライマリディスプレイ] または [セカンダリディスプレイ] を選択すると、テレビまたは外部ディスプレイに動画を表示できます。

[プライマリディスプレイ] を選択すると、内部液晶ディスプレイに動画がフルスクリーン表示されます。テレビまたは外部ディスプレイにはウィンドウ表示されます。

[セカンダリディスプレイ] を選択すると、テレビまたは外部ディスプレイに動画がフルスクリーン表示されます。内部液晶ディスプレイにはウィンドウ表示されます。

[無効] を選択すると、テレビまたは外部ディスプレイに動画は表示されません。



7 [OK] ボタンをクリックする

8 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

4 取りはずし

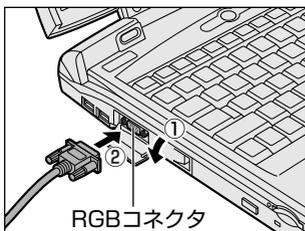
- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオケーブルを抜く

7 外部ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイに表示させることができます。パソコンの電源を切ってから接続してください。

1 接続

- 1 左側面のコネクタカバーを開き①、外部ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む②



外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを抜きます。

2 表示装置を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

省電力機能により外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります。故障ではありません。

【切り替え方法】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の「方法 2」や「方法 3」を参考にしてください。「方法 2」を参考にする場合は、[GeForce FX Go5600] タブの [デバイス設定] で「アナログ ディスプレイ」を選択してください。

参照 ▶ 表示装置の切り替え「本章 6-2 テレビに表示する」

また、内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に設定した場合、動画を外部ディスプレイに表示するには設定が必要な場合があります。

参照 ▶ 外部ディスプレイに動画を表示する
「本章 6-3 動画をテレビまたは外部ディスプレイに表示する」

3 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

 参照 ▶ ビデオモードについて「付録 1-3 サポートしているビデオモード」

8 i.LINK (IEEE 1394) 対応機器を接続する

アイリンク アイリブルイーチャタキーコン
i.LINK (IEEE 1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE 1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応プリンタ など

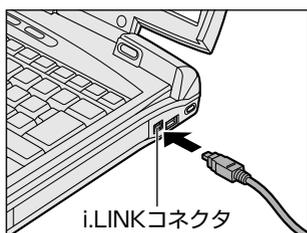
i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取り付けなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

1 ケーブルのプラグをパソコン本体のi.LINK コネクタに差し込む



プラグの向きを確認して差し込んでください。

2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

*デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、《サイバーサポート》を確認してください。

*機種によっては通信できない場合があります。

- 1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

9 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する

次のような機器（光デジタル対応機器とよびます）を、光デジタルオーディオ出力端子に接続して使用できます。

- MD プレーヤ
- MD コンポ
- 光入力スピーカ
- DAT プレーヤ
- 光入力付きアンブ など

本製品の光デジタルオーディオ出力端子は、ヘッドホン出力端子を兼ねています。

 参照 ヘッドホン出力端子への接続について 「本章 10-② ヘッドホン」

お願い 操作にあたって

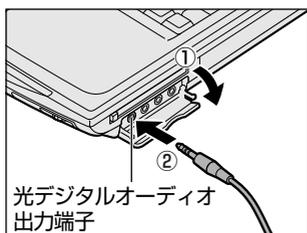
- すべての光デジタル対応機器の動作確認は行っておりません。
したがって、すべての光デジタル対応機器の動作は保証いたしかねます。
- 光デジタル対応機器を接続するためには市販のケーブルが必要です。
パソコン本体の端子は光ミニプラグ、光デジタル対応機器の端子は光ミニプラグまたは光角形プラグです。
ご使用の機器にあったケーブルをご購入ください。
- 光デジタルオーディオ出力端子から出力される音声は、サンプリング周波数が48kHzに固定されています。そのため、このサンプリング周波数に対応していない光デジタル対応機器では動作しません。
- 光デジタルオーディオ出力端子からの音声をコピーする場合、次の内容をよくお読みください。
 - ・お客様が光デジタルオーディオ出力端子を使用して他人の著作物を録音、複製などを行う場合は、個人的に使用する目的でのみ行うことができます。また著作物によっては、一切の録音、複製などができないものがあります。これらに反して録音、複製などを行うことは、著作権法に違反する場合がありますので、光デジタルオーディオ出力端子を使用して録音、複製などを行う場合には、著作権法を遵守のうえ、適切にご使用ください。
 - ・お客様がソフトウェアの標準設定を変更して光デジタルオーディオ出力端子をご使用された場合、著作権者により「複製自由」とされた著作物であっても、「1 回限りの複製」しかできない場合があります。
- 複製が禁止されている著作物は、再生のみ可能です。録音／複製はできません。
- Windows を起動せずにオーディオ／アプリケーションボタンで音楽 CD を操作しているときは、パソコン本体の電源が入っていません。
その場合は、光デジタルオーディオ出力端子から光データは出力されません。

- 「InterVideo WinDVD」で「コピー禁止」のDVDを再生した場合、著作権保護機能（SCMSに準拠）を持つプレーヤでCDや音楽ファイルを再生した場合、録音できない場合があります。

SCMS（シリアル・コピー・マネージメント・システム）とは、デジタル音源からのコピーを一世代のみに制限する技術です。例えば、音楽CDからMDに録音することはできますが、録音したMDからさらに他のMDに録音することはできません。

1 取り付け

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、デジタルオーディオケーブルのプラグを光デジタルオーディオ出力端子に差し込む②



- 2 デジタルオーディオケーブルのもう一方のプラグを光デジタル対応機器に差し込む

2 取りはずし

- 1 パソコン本体と光デジタル対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 光デジタル対応機器への録音

光デジタルオーディオ出力端子から、光デジタル対応機器（MDコンポなど）への録音方法について説明します。

- 1 光デジタル対応機器の電源を入れる
- 2 光デジタル対応機器を録音待機状態にする
詳細は、『光デジタル対応機器に付属の説明書』を確認してください。

3 パソコンで録音したい音楽などを再生する

次の場合に録音ができます。

- 「Windows Media Player」など Windows に用意されているプレーヤなどで Wave ファイル、MIDI ファイル、ムービーファイル (AVI/MPG)、音楽 CD などを再生する場合
- 「InterVideo WinDVD」で「コピー可」の DVD を再生する場合

光デジタル対応機器にシンクロ録音機能がある場合、録音が自動的に開始されます。

シンクロ録音機能がない場合は、光デジタル対応機器側で録音を開始し、パソコン側で音楽などの再生を開始してください。

シンクロ録音機能を使用する場合は、[コントロールパネル] → [関連項目] の [コントロールパネルのその他のオプション] → [ヤマハ AC-XG] をクリックし、[デジタル出力] タブで [オン (デジタルソースのみ)] をチェックしてください。

シンクロ録音機能とは、光デジタル対応機器がパソコン上で音楽が再生されたことを自動的に認識し、録音を開始する機能です。

10 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1) マイクロホン

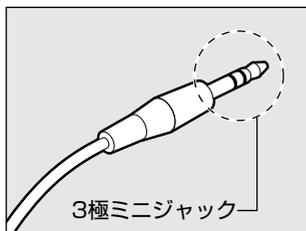
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。本製品では、モノラル録音のみできます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

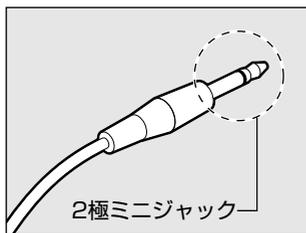
参照 → サウンド機能について「1章 8 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



プラグは3.5mm φ 3 極ミニジャックタイプが使用できます。



3.5mm φ 2 極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

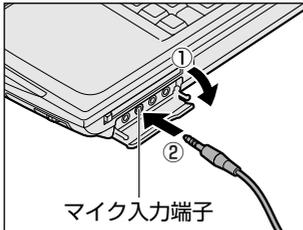
音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

本製品には、音声認識ソフト「LaLaVoice」が用意されています。

参照 → 「LaLaVoice」について《サイバーサポート》

2 接続

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む②



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2) ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

参照 サウンド機能について「1章 8 サウンド機能」

ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

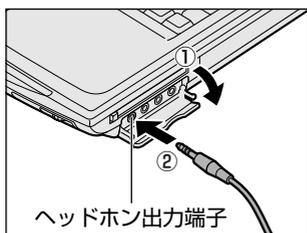
- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

本製品のヘッドホン出力端子は、光デジタルオーディオ出力端子を兼ねています。

参照 光デジタルオーディオ出力端子について
「本章 9 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する」

1 接続

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む②



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

3 オーディオ機器

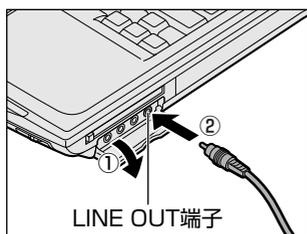
LINE OUT 端子と LINE IN 端子には、オーディオ機器を接続できます。
本製品の LINE OUT 端子は、ビデオ出力端子を兼ねています。

参照 ▶ ビデオ出力端子について 「本章 6 テレビを接続する」

1 LINE OUT 端子への接続

接続には、同梱のビデオケーブルをオーディオケーブルとして使用してください。
同梱のビデオケーブル以外を使った場合、正常に信号が出力されません。

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、ビデオケーブルのプラグをパソコン本体の LINE OUT 端子に差し込む②



取りはずすときは、LINE OUT 端子からビデオケーブルのプラグを抜きます。

- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器の LINE IN 端子に差し込む

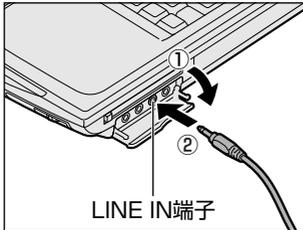
ビデオケーブルの音声端子（赤：音声右、白：音声左）をオーディオ機器の LINE OUT 端子側で対応している端子にそれぞれ接続してください。
ビデオケーブルの映像端子（黄）は使用しません。

2 LINE IN端子への接続

市販のオーディオケーブルを使用してください。

オーディオケーブルのプラグは、直径 3.5mm ϕ ステレオミニジャックタイプを使用してください。

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、ケーブルのプラグをパソコン本体のLINE IN端子に差し込む②



- 2 ケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器のLINE OUT端子に差し込む

11 メモリを増設する

本製品には2つの増設メモリスロット（スロット0とスロット1）があり、取り付けることのできるメモリ容量は、1つのスロットにつき512MBまでです。最大1GB（2スロットの合計）まで増設することができます。

2スロットともあらかじめ256MBのメモリを装着済みです。メモリを拡張するためには、装着されているメモリを取りはずし、512MBのメモリを装着してください。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。
- 取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

注意

- ステップル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後や、LANのウェイクアップ機能を使用しているときはやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分だけではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはさず際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

【 エラーメッセージについて 】

仕様に合わない増設メモリを取り付けると、モードパネルにメッセージが表示されます。また、パソコンは起動しません。

エラーメッセージ

モードパネルに次のように表示されます。左側がスロット0のエラーメッセージ、右側がスロット1のエラーメッセージです。

MEM0 Error

MEM1 Error

1 取りはずし／取り付け

あらかじめ取り付けられているメモリを取りはずし、増設メモリを取り付ける方法を説明します。

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

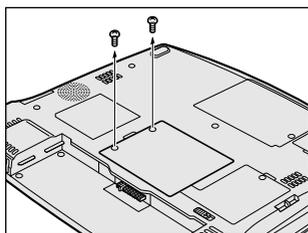
参照 → 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

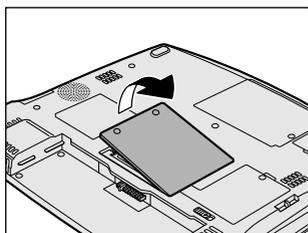
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照 → バッテリーパックの取りはずし「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」

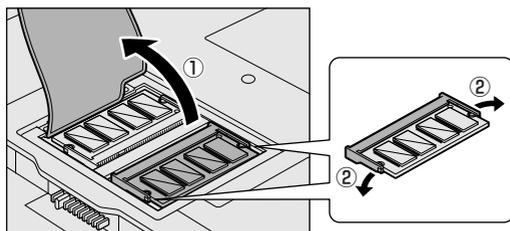
4 増設メモリカバーのネジ2本をはずす



5 増設メモリカバーをはずす



6 インシュレータ（ビニールのカバー）をめぐって①、フックを解除する②

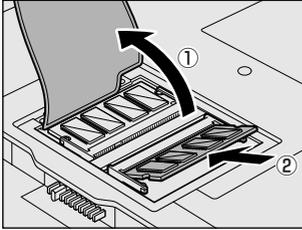


熱くないことを確認してから行ってください。

7 メモリをパソコン本体から取りはずす

斜めに持ち上がったメモリを引き抜きます。

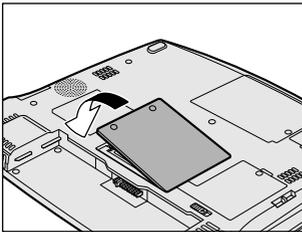
8 インシュレータ（ビニールのカバー）をめぐって①、増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに差し込む②



増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

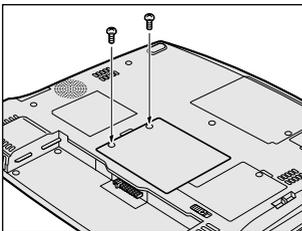
9 コネクタ部を支点として、メモリを下に押す

10 増設メモリカバーをはめる



増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

11 手順4ではずしたネジ2本でとめる



12 バッテリーパックを取り付ける

参照 ➡ バッテリーパックの取り付け [5章 1-③ バッテリーパックを交換する]

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 ➡ メモリ容量の確認について [本節 2 メモリ容量の確認]

2 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ③ [メモリ] の数値を確認する



「東芝 PC 診断ツール」について

『困ったときは 1 章 3-① パソコンの情報を見る／状態を診断する』

5章

バッテリー駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリー使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

-
- 1 バッテリーについて 202
 - 2 省電力の設定をする 210
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 216

1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。本製品を初めて使用するときは、バッテリーを充電してから使用してください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

危険

- バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー（TOSHIBA バッテリーパック：PABAS039）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。

警告

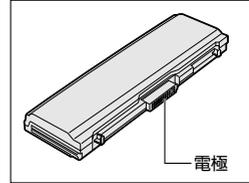
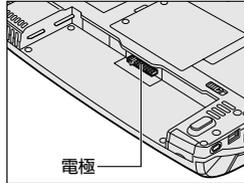
- 別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

注意

- バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリーパックを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、1度全バッテリーを充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

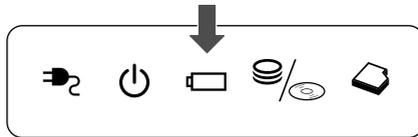


1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。



Battery LEDは次の状態を示しています。

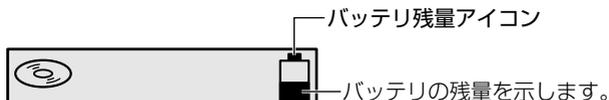
緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none"> ・ バッテリーが接続されていない ・ ACアダプタが接続されていない ・ バッテリー異常

バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。

参照 → バッテリーの充電について「本節 ② バッテリーを充電する」

2 モードパネルで確認する

モードパネルに表示されたバッテリー残量アイコンで、バッテリーの状態を確認できます。



バッテリー充電量の状態にあわせて、バッテリー残量アイコンは5段階に表示が変わります。

バッテリー残量アイコンが  のときは、フル充電状態です。

バッテリー残量アイコンが  のときは、すぐに充電が必要な状態です。

バッテリー残量アイコンの残量表示は、概算によるものです。パソコンの使用状況によっては、実際の残量と異なることがあります。

3 通知領域の【省電力】アイコンで確認する

通知領域の【省電力】アイコン () の上にポイントを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。



参照 → 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヶ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery LED や【省電力】アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

参照 → 再充電の方法について「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

4 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する（バッテリーの減少を示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
東芝省電力ユーティリティの [アラーム] タブで設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、AC アダプタを接続し電源を入れているとき（電源 ON 時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【充電完了までの時間】

状態	時計用バッテリー
電源 ON（Power  LED が点灯）	10 時間以上
電源 OFF（Power  LED が消灯）	ほとんど充電しない

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2) バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは 10～30℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN への LED が緑色に点灯して Battery への LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFF にかかわらず充電されます。

2 Battery への LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery への LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN への LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

パソコン本体を長時間で使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【 充電完了までの時間 】

状態	充電時間
電源 ON	約 6.2 時間以上
電源 OFF	約 3.0 時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

【使用できる時間】

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

測定法	動作時間
JEITA 測定法 1.0	約 2.9 時間

【使っていないときの充電保持時間】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。

次の保持時間は、フル充電した状態で電源を切った場合の目安にしてください。

パソコン本体の状態	保持時間
電源 OFF または休止状態	約 18 日間

2 バッテリーを長持ちさせるには

- AC アダプタをコンセントに接続したままでパソコンを 8 時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにも AC アダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヶ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヶ月に 1 度は、AC アダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体から AC アダプタをはずし、パソコンの電源を入れる

電源が入らない場合は手順 4 へ進んでください。

3 5 分程度バッテリー駆動を行う

この間、Battery  LED が点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐに AC アダプタを接続し、手順 4 へ進みます。

4 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN ➡ LED が緑色に点灯して Battery ❏ LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery ❏ LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery ❏ LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN ➡ LED が消灯している場合は、通電していません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリーを節約する】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする ➡ 「本章 3-② 休止状態」
- パネルスイッチ機能を休止状態に設定しておき、入力しないときはディスプレイを閉じておく ➡ 「本章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力モードに設定する ➡ 「本章 2 省電力の設定をする」

3) バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。

バッテリーパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

お願い

キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

1 取りはずし／取り付け

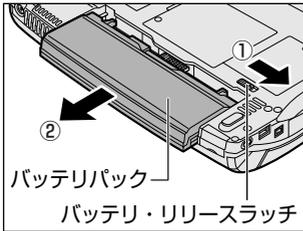
1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

➡ 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす

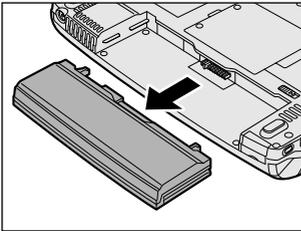
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリーパックを引く②

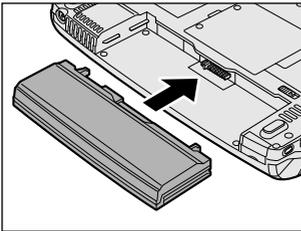


ゆっくり引いてください。

5 バッテリーパックを取り出す

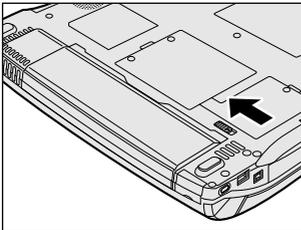


6 バッテリーパックを静かに差し込む



新しいあるいは充電したバッテリーパックを注意して差し込んでください。

7 バッテリーパックを固定する



バッテリー・リリースラッチが自動的にスライドして、カチッという音がします。

2 省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

1 東芝省電力ユーティリティ

省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。
ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

1 東芝省電力ユーティリティの起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [東芝省電力] をクリックする
[東芝省電力のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。



【電源に接続】【バッテリー使用中】

表示されている設定可能な省電力モードの一覧から、設定したい省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリー使用中] はACアダプタ接続/バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

フルパワー	最高性能で動作する、消費電力が一番大きいモードです。購入時の初期状態では、[電源に接続]（ACアダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。
ロングライフ	消費電力を優先して省電力制御を行います。
ノーマル	性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。購入時の初期状態では、[バッテリーを使用中]（バッテリー駆動で使用するとき）がこのモードに設定されています。
ハイパワー	性能を優先して省電力制御を行います。
DVD再生	性能と消費電力を両立してDVDの再生などに適した省電力制御を行います。
プレゼンテーション	性能と消費電力を両立してプレゼンテーション用ソフトなどの使用に適した省電力制御を行います。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

すべての省電力モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項4 省電力モードの詳細設定」を確認してください。

【省電力モードの作成】

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[~のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

【省電力モードの削除】

- ① 削除する省電力モードをクリックする
- ② [削除] ボタンをクリックする
[元に戻す] ボタンで直前に行った削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている6つの省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする () と現在の省電力モードを示す省電力アイコン () が通知領域に表示されます。

省電力アイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

【タスクバーに CPU 周波数の状態を表示する】

[タスクバーに Intel SpeedStep(R) Technology の状態を表示する] をチェックする () と現在の CPU 周波数の状態を示すアイコン () が通知領域に表示されます。

CPU 周波数アイコンをクリックすると、CPU 周波数を変更することができます。

3 【休止状態】タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。

使用する場合は、[休止状態をサポートする] をチェックしてください。

購入時は、休止状態を使用するように設定されています。



参照 → 休止状態について「本項 4- 【動作】タブ」

4 省電力モードの詳細設定

1 [2]の【電源設定】タブで利用したい省電力モードを選択し、【詳細】ボタンをクリックする

選択した省電力モードのプロパティ画面が表示されます。



【全般】 タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

【省電力】 タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、内部液晶ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

【動作】 タブ

ここでは、電源スイッチを押したとき、パソコンのディスプレイを閉じたとき、リモコンの電源ボタンを押したときの動作を設定します。

リモコンの電源ボタンを押したときの動作（[スリープボタンを押したとき]）は、リモコン受光ユニットを接続している場合に設定できます。

お願い

- 次のような場合はスタンバイが無効になり、保存されていないデータは消失します。
 - ・ 誤った使いかたをしたとき
 - ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・ バッテリーが消耗したとき
 - ・ 故障、修理、バッテリー交換のとき
 - ・ バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・ 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき
- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。HDD/CD-ROMのLEDが点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、保存されていないデータは消失します。

メモ

購入時は、省電力モードごとにあらかじめ動作が設定されています。
設定の変更は、省電力モードごとに行ってください。
動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

【何もしない】

何も動作しないように設定します。

【入力を求める】

[コンピュータの電源を切る] 画面または [Windows のシャットダウン] 画面が表示されます。

終了時の動作を選択してから、パソコンの電源を切ることができます。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、中断したときの状態をすばやく再現することができますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切るとデータは消失するので、スタンバイ実行時は、AC アダプタを取り付けて使用することを推奨します。

【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には動きません。

休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れるので、休止状態を有効にしておくことを推奨します。

【電源オフ】

Windows を終了して電源を切ります。

[スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める] をチェックする（）と、Windows のパスワードを設定している場合には、復帰するときに Windows パスワードの入力が必要になります。

【アラーム】タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。

【アラーム】タブは【電源設定】タブで【バッテリーを使用中】に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

5 複数ユーザで使用する場合

「東芝省電力ユーティリティ」は、コンピュータの管理者アカウントのみが使用できます。設定内容は各ユーザごとに保存されます。

 複数のユーザで使用する場合
『基本をマスター 4 章 2 複数のユーザで使用する』

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 【東芝省電力ユーティリティ】を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイ中や休止状態では、バッテリー、増設メモリ、マルチスタイルベイ機器および周辺機器の取り付け／取りはずしは行わないでください。
保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。
- スタンバイまたは休止状態を実行する場合は、DVD-RAM メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。書き込み途中のデータがある状態でスタンバイまたは休止状態を実行した場合、データが正しく書き込まれないことがあります。DVD-RAM メディアを取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

1) スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうと保存されていないデータは消失するので、AC アダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

【方法1ー [スタート] メニューから実行する】

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②

ドメイン参加している場合、[終了オプション] は [シャットダウン] と表示されます。



- 2 [スタンバイ] をクリックする



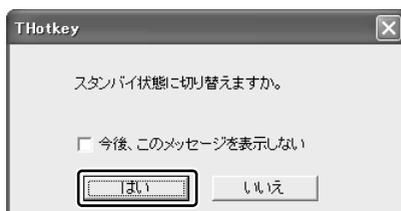
ドメイン参加している場合は、[Windows のシャットダウン] 画面で ▾ ボタンをクリックし、[スタンバイ] を選択して [OK] ボタンをクリックしてください。

メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

【方法2ー (Fn) + (F3) キーを使う】

- 1 (Fn) + (F3) キーを押す
- 2 [はい] ボタンをクリックする



[今後、このメッセージを表示しない] をチェック (☑) して [はい] ボタンをクリックすると、次回からこの画面は表示されません。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。

購入時の設定では、バッテリーが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

【方法1— [スタート] メニューから実行する】

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
 - ② [東芝省電力] をクリックする
 - ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②

ドメイン参加している場合、[終了オプション] は [シャットダウン] と表示されます。



3 (Shift) キーを押したまま [休止状態] をクリックする

(Shift) キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



ドメイン参加している場合は、[Windows のシャットダウン] 画面で ボタンをクリックし、[休止状態] を選択して [OK] ボタンをクリックしてください。

【方法 2— (Fn) + (F4) キーを使う】

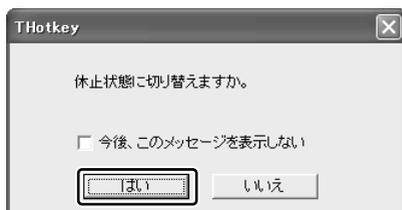
1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする

休止状態が有効になります。

2 (Fn) + (F4) キーを押す

3 [はい] ボタンをクリックする



[今後、このメッセージを表示しない] をチェック () して [はい] ボタンをクリックすると、次回からこの画面は表示されません。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

休止状態を選択するには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されていますが、解除した場合は「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押す

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
[何もしない] に設定すると、特に変化はありません。
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

設定した状態へ移行します。

手順 1 の④で [入力を求める] を選択したときは、[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じることによって [スタンバイ] [休止状態] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] のいずれかを選択する
[何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 ディスプレイを閉じる

設定した状態へ移行します。

[スタンバイ] [休止状態] に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

6章

アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

-
- 1 アプリケーションを追加（インストール）する 224
 - 2 アプリケーションを削除（アンインストール）する 225

1 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。

お願い

- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

アプリケーションのインストールは、コンピュータの管理者アカウントで行います。ここでは [プログラムの追加と削除] からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で [プログラムの追加と削除] を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合もあります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたはCD-ROMなどをセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 [プログラムの追加] ボタン () をクリックする
- 4 [CDまたはフロッピー] ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

2 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーションDVD-ROMから、再インストールして使用することができます。

➡ 参照 再インストールについて

『困ったときは 4章 3 アプリケーションを再インストールする』

アプリケーションを削除する方法を説明します。

アプリケーションの削除は、コンピュータの管理者アカウントで行います。

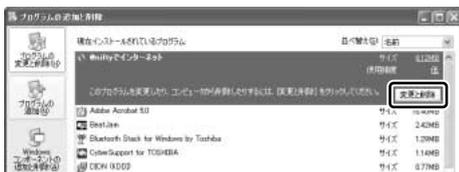
アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除] または [変更と削除] ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。

7章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 228
 - 2 東芝HWセットアップを使う 229
 - 3 パスワードセキュリティ 233

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティを使用します。

Windows 上のユーティリティには、「東芝省電力ユーティリティ」、「東芝 HW セットアップ」、「東芝コントロール」などがあります。

 「東芝省電力ユーティリティ」について「5 章 2 省電力の設定をする」

 「東芝コントロール」について
「1 章 3-④ 東芝コントロールで設定する」

本章では、「東芝 HW セットアップ」について説明します。

2 東芝 HW セットアップを使う

「東芝 HW セットアップ」を使って、ハードウェアの設定を変更できます。パスワード、OS の起動、LAN 機能などのさまざまな項目について設定ができます。複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

1 東芝 HW セットアップの起動と使用

「東芝 HW セットアップ」の操作について、説明します。

1 起動方法

- 1 【コントロールパネル】を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝 HW セットアップ] をクリックする

2 使用方法

■ 【全般】 タブ ■

BIOS セットアップのバージョンと日付などを表示します。



【標準設定】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」の【パスワード】タブ以外のタブの項目が購入時の設定状態に戻ります。

【バージョン情報】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」のバージョン情報を表示します。

■ [パスワード] タブ ■

パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの登録や削除を行います。

➡ 参照 パスワードについて「本章 3 パスワードセキュリティ」



■ [CPU] タブ ■

CPU の操作について設定します。



【 CPU 周波数の設定 】

CPU 周波数を、「ダイナミック切替モード」、「常時高速モード」、「常時標準モード」のいずれかから選択できます。

■ [OS の起動] タブ ■

パソコンの起動について設定します。



【OSの起動】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。

[CD-ROM] は内蔵のDVD マルチドライブをさします。

通常は [HDD → FDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

【HDDの起動】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

通常は [Built in HDD → 2nd HDD] に設定してください。

[2nd HDD] はマルチスタイルベイに取り付けた60GBハードディスクユニット(別売り)をさします。市販の外付型ハードディスクドライブからの起動はサポートしていません。

【ネットワークブートプロトコル】

ネットワークを使ってリモートブートする際のプロトコルを選択します。

■ [キーボード] タブ ■

スタンバイ状態からの復帰方法について設定します。



【キーボードによるスタンバイ復帰】

この機能を有効にすると、スタンバイ時にどれかキーを押して復帰させることができます。

■ [LAN] タブ ■

LAN 機能について設定します。



【 LANのウェイクアップ 】

LANのウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。

LANのウェイクアップ機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。

【 内蔵LAN 】

内蔵LANを使用するかどうかを設定します。

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 [東芝HWセットアップ] を起動後、画面右上の **?** をクリックする
ポインタが **?** に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 パスワードセキュリティ

本製品ではパスワードを登録できます。パスワードには大きく分けて次の2種類があります。

- Windows のログオンパスワード
Windows にログオンするとき
インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーン
セーバを解除するとき

▶ 参照 ▶ インスタントセキュリティ機能
「1章 4-③- (Fn)キーを使った特殊機能キー」

- ユーザパスワード、スーパーバイザパスワード
電源を入れたとき、スタンバイ状態、休止状態から復帰するとき
通常はユーザパスワードを登録してください。

▶ 参照 ▶ ユーザパスワード「本節 ① ユーザパスワード」

スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、「東芝 HW セットアップ」の設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。

この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。

▶ 参照 ▶ スーパーバイザパスワード「本節 ③ スーパーバイザパスワード」

ここでは、ユーザパスワード／スーパーバイザパスワードの登録方法とキーフロッピーディスク*1の作成方法について説明します。

* 1 ユーザパスワードを忘れてしまった場合に使用します。

メモ

パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

1 ユーザパスワード

1 登録

ユーザパスワードの登録は、「東芝HWセットアップ」を使用します。

- 1 「東芝HWセットアップ」を起動する
- 2 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする
- 3 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードは10文字以内で入力できます。パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「*****（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット（半角）	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部（半角）	- ! @ < > ; : , . （スペース）
使用できない文字	・ 全角文字（2バイト文字） ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ（全角／半角）、ひらがな、 日本語入力システムが供給する記号 など ・ 記号の一部（半角） 【例】 （バーチカルライン）、_（アンダーバー）、 ¥（エン） など	

- 4 [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
- 5 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

【キーフロッピーディスクの作成】

キーフロッピーディスクとは、パスワードを忘れた場合に使用するフロッピーディスクのことです。キーフロッピーディスクを使用すると、登録したパスワードの解除ができます。

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DDまたは2HD（1.44MB）フロッピーディスクが必要です。あらかじめ用意してください。

キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよく確認してから、使用してください。

次のように操作して、キーフロッピーディスクを作成します。

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

 参照 → 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 フロッピーディスクドライブを接続し、書き込み可能のフロッピーディスクをセットする

3 電源を入れる

モードパネルに「Password =」と表示されます。

4 パスワードを入力する

5 (Tab)キーを押す

モードパネルに次のメッセージが交互に表示されます。

Insert FD

Ready (Y/N)

6 (Y)キーを押す

モードパネルに次のメッセージが交互に表示されます。

Remove FD

press key

7 フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを抜いてから、何かキーを押す

Windows が起動します。

2 削除

- 1 「東芝HWセットアップ」を起動する
- 2 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする
- 3 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードが削除されます。
- 4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする
手順3でパスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

3 変更

ユーザパスワードを削除してから、登録を行ってください。

2 ユーザパスワードの入力

ユーザパスワードが登録されている場合、電源を入れると「Password=」と表示されます。

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

- 1 登録したとおりにパスワードを入力し、**(Enter)**キーを押す
Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LED は、ユーザパスワードを登録したときと同じ状態にしてください。
パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
電源を入れ直してください。

ユーザパスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したユーザパスワードの解除ができます。

- 1 「Password =」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、**(Enter)**キーを押す
パスワードが解除され、システムが起動します。

キーフロッピーディスクを作成していなかったときにユーザパスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。ユーザパスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

3) スーパーバイザパスワード

「スーパーバイザパスワードユーティリティ」で、スーパーバイザパスワードの設定や設定の変更ができます。

メモ

パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。

起動方法

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥SVPW32.exe」と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする
詳しくは、「README.HTM」を参照してください。

「README.HTM」の起動方法

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥README.HTM」と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする

付録

本製品のハードウェア仕様や技術基準適合などについて記しています。

-
- 1 本製品の仕様 240
 - 2 技術基準適合について 248
 - 3 無線 LAN について 260
 - 4 Bluetooth について 268

1 本製品の仕様

1 製品仕様

機種		DynaBook G9シリーズ
プロセッサ	CPU	東芝PC診断ツールを参照
メモリ	ROM	512KB (フラッシュROM)、ACPI 1.0b
	RAM	標準 : 512MB 最大 : 1GB *1
	ビデオRAM	標準グラフィックス用装備 64MB
表示機能	表示装置	15.0型TFT方式カラー液晶ディスプレイ
	グラフィック表示	横1400 x 縦1050 1画面
入力装置	キーボード	OADG109Aキータイプ準拠 87キー (文字キー、制御キーの合計)
	ポインティングデバイス	タッチパッド内蔵 (ジョグホイール付き)
補助記憶装置	SDカードスロット	1個装備
	2.5型ハードディスクドライブ	1台内蔵
	DVDマルチドライブ	1台内蔵 CD-ROM 読み出し : 最大24倍速 CD-R 書き込み : 最大16倍速 CD-RW (マルチスピード) 書き換え : 最大4倍速 High-Speed対応CD-RW 書き換え : 最大8倍速 DVD-ROM 読み出し : 最大8倍速 DVD-R 書き込み : 最大2倍速 DVD-RW 書き換え : 等倍速 DVD-RAM 書き換え : 2倍速 8cm、12cmのディスク対応、マルチセッション
	3.5型フロッピーディスクドライブ	外付けUSB接続 2DDまたは2HDフロッピーディスクを使用 *2 1.44MB、1.2MB (2HD) / 720KB (2DD)
マルチスタイルベイ *3		1個装備
インタフェース	RGB	1個装備
	USB	3個装備 USB2.0準拠 *4
	i.LINK (IEEE1394)	1個装備 (S400・4ピン)
	PCカード	1個装備 PC Card Standard準拠 (TYPE II x 1) CardBus対応

インタフェース	サウンド	ライン出力 (ビデオ出力共用) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) *5 ライン入力 ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) マイク入力 (モノラル) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) 光デジタルオーディオ出力 (S/PDIF) ／ヘッドホン出力 (ステレオ) 共用 ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) 内蔵スピーカ (ステレオ) 装備 内蔵マイク装備
	ビデオ出力	ビデオ出力 (ライン出力共用) 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) *5
通信機能	LAN	1個装備 100BASE-TX/10BASE-T
	モデム	1個装備 データ: 最大56kbps (V.90対応、ボイスレス、 世界61地域対応) FAX : 最大14.4kbps
	無線LAN	1個装備 IEEE802.11a (最大54Mbpsまで対応) および IEEE802.11b (最大11Mbpsまで対応) 準拠
	Bluetooth	1個装備 Bluetooth Specification Ver.1.1 準拠
	赤外線	1ポート装備 IrDA1.1 準拠
カレンダー機能		日付、時計機能を標準装備 充電型電池によるバックアップ
電源	ACアダプタ	AC100V~240V (50Hz、または60Hz) ACアダプタ
	バッテリー	バッテリーパック Li-Ion 10.8V/6,300mAh
最大消費電力		75W
使用環境条件		温度: 5~35℃ 湿度: 20~80%Rh
外形寸法 (突起部除く)		334 (幅) x 305.8 (奥行) x 38.2 (最薄部) / 55.2 (高さ) mm
質量		約3.8kg (TVチューナ取り付け時)

- * 1 2スロットとも、あらかじめメモリを装着済みです。1GBに拡張するためには、装着されているメモリを取りはずし、512MBのメモリを2枚装着してください。
- * 2 フォーマットできるのは、2HD (1.44MB) のフロッピーディスクのみです。
- * 3 購入時はTVチューナが取り付けられています。
- * 4 従来のUSB1.1規格と完全な互換性を持つとともに、USB1.1と比べて40倍 (理論値) の高速データ転送の可能なHighSpeedモードをサポートします。
ただし、すべてのUSB1.1 / 2.0対応機器の動作を保証するものではありません。
- * 5 同梱のビデオケーブルを使用してください。

【東芝PC診断ツール】

基本仕様の一部は「東芝PC診断ツール」で確認することができます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC診断ツール] をクリックする
- 2 [基本情報の表示] ボタンをクリックする

メモ

表示される内容は、「東芝PC診断ツール」を起動した時点での設定内容です。設定を変更した場合は、「東芝PC診断ツール」を起動し直すと変更後の設定内容が表示されます。ただし [CPU] の項目には、搭載されているCPUの最大クロック数(固定値)が表示され、これはユーティリティなどによる設定値には影響されません。

【TVチューナの仕様】

映像	映像入力フォーマット	525line/60Hz (NTSC) ~720 x 480@30fps
	圧縮方法	MPEG2
	出力ビットレート	2/4/6Mbps
音声	圧縮方法	MPEG-Audio Layer2
	サンプリングレート	48kHz
	出力ビットレート	224kbit/sec.
受信チャンネル	VHF/CATV	1~3、4~12/C13~C22、C23~C44
	UHF/CATV	13~62/C45~C63
ビデオ・インタフェース		NTSC
外部 インタフェース	アンテナ部	同軸 75ΩF型 (VHF/UHF兼用)
	外部ビデオ入力	同梱のビデオケーブル使用
外形寸法 (突起部除く)		130(幅) x 138.7(奥行) x 15.7(高さ)mm
質量		220g
使用環境条件	温度	5~35℃
	湿度	20~80%RH

【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、日本国内（AC100V）専用*です。その他の国・地域で使用する場合は、当該国・地域の法令・安全規格に適合した電源コードを現地で購入のうえ、お使いください。

*日本の安全規格である、電気用品安全法に適合しています。

【ACアダプタの仕様】

本製品に同梱されているACアダプタは、海外でも使用できます。

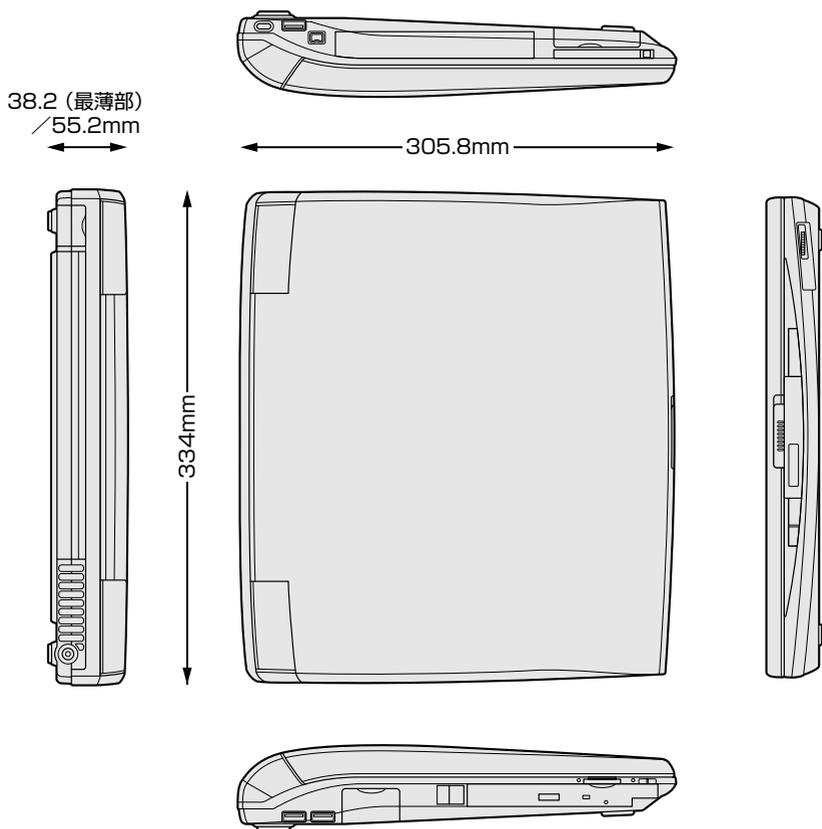
ACアダプタの仕様は次のとおりです。

入力：AC100V～240V、1.2A～0.6A、50/60Hz

出力：15V、5A

2 外形寸法図

* 数値は突起部を含みません。



3 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照▶ 表示可能色数の詳細について「1章 6-①-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0,1	VGA テキスト	40 x 25字	8 x 8	16/256K	70
2,3		80 x 25字	8 x 8	16/256K	
0*,1*		40 x 25字	8 x 14	16/256K	
2*,3*		80 x 25字	8 x 14	16/256K	
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16	16/256K	
2+,3+		80 x 25字	8(9) x 16	16/256K	
4,5	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	4/256K	70
6		640 x 200ドット	8 x 8	2/256K	
7	VGA テキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ	70
7+		80 x 25字	8(9) x 16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	16/256K	60
E		640 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
F		640 x 350ドット	8 x 14	モノクロ	
10		640 x 350ドット	8 x 14	16/256K	
11		640 x 480ドット	8 x 16	2/256K	
12		640 x 480ドット	8 x 16	16/256K	
13		320 x 200ドット	8 x 8	256/256K	

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)	
-	SVGA グラフィックス	800x600ドット	-	256/256K	60/75/85 /100	
-		1024x768ドット	-			
-		1280x1024ドット	-			
-		1400x1050ドット	-			
-		1600x1200ドット*1	-			
-		1920x1440ドット*1	-			60/75/85
-		2048x1536ドット*1	-			60/75
-		800x600ドット	-	64K/64K	60/75/85 /100	
-		1024x768ドット	-			
-		1280x1024ドット	-			
-		1400x1050ドット	-			
-		1600x1200ドット*1	-			
-		1920x1440ドット*1	-			60/75/85
-		2048x1536ドット*1	-			60/75
-		800x600ドット	-	16M/16M	60/75/85 /100	
-		1024x768ドット	-			
-		1280x1024ドット	-			
-		1400x1050ドット	-			
-		1600x1200ドット*1	-			
-		1920x1440ドット*1	-			60/75
-		2048x1536ドット*1	-			60/75

* 1) 内部液晶ディスプレイに表示する場合は、実際の画面（1400 × 1050）内に、仮想スクリーン表示します。

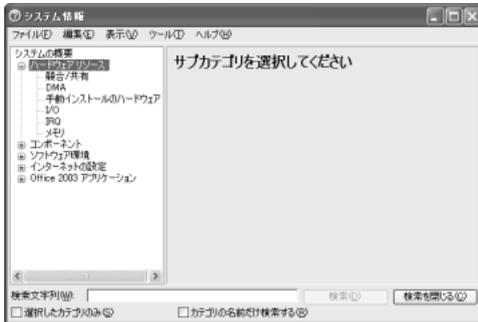
注) 一部の画面モードはマルチモニタでは使用できません。

4 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/Oポートマップ、IRQ使用リソース、DMA使用リソースは次の方法で確認できます。

使用している環境（ハードウェア/ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする



メモリマップ : [メモリ]
 I/Oポートマップ : [I/O]
 IRQ使用リソース : [IRQ]
 DMA使用リソース : [DMA]

2 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

▶ 参照 『困ったときは 3 章

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい』

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



▶ 参照 省電力設定について 「5 章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : DynaBook G9 series

Model number : PS522

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, USB connector, i.LINK (IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



●対応地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、Bangladesh、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003 年 10 月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは 2 回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を 2 回以下または再発信間隔を 1 分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は 2 回以内（但し、最初の発信から 3 分以内）」に従っています。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. It has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353A-L4AINT

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
- c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
 - Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 - Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 - Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal. Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

Panasonic DVD-RAM ドライブ UJ-811B (DVD マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。

本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。

レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

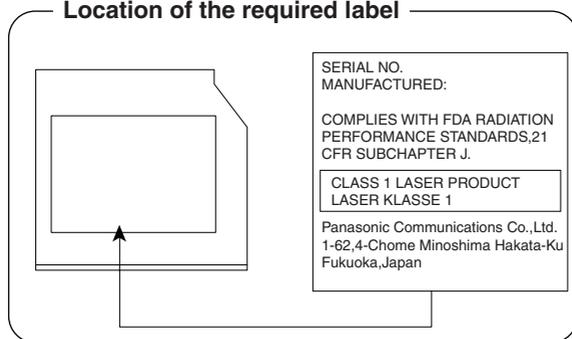
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG. WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÄR DEKSEL ÄPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESIN.

Location of the required label



3 無線 LAN について

1 無線特性

無線 LAN の無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない 5GHz 帯および 2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線周波数帯	IEEE802.11a	5GHz (5150-5250 MHz)
	IEEE802.11b	2.4GHz (2400-2497 MHz)
変調方式	直行周波数分割多重方式 (IEEE802.11a) 直接拡散方式 (IEEE802.11b)	
	IEEE802.11a	OFDM-BPSK、OFDM-QPSK OFDM-16QAM、OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	DSSS-CCK、DSSS-DQPSK、DSSS-DBPSK

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

2 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 5GHz 帯および 2.4GHz 帯のチャンネルは、国内で適用される無線規制によって異なる場合があります (表「無線 IEEE802.11 チャンネルセット」参照)。

各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

【 無線 IEEE802.11 チャンネルセット 】

IEEE802.11a (5GHz の場合)

周波数帯域	5150-5250 MHz
チャンネルID	
34	5170
38	5190
42	5210
46	5230

IEEE802.11b (2.4GHz の場合)

周波数帯域	2400-2497 MHz
チャンネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 *1
11	2462
12	2467
13	2472
14	2484

* 1 : 購入時に設定されているチャンネルです。

無線 LAN のチャンネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャンネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャンネルを切り替えます。ステーションは、チャンネル 1 から 14 までを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャンネルもこの範囲にする必要があります。
- "ピア・ツー・ピア" モードで無線 LAN 接続する場合は、チャンネル 10 が使用されます。

3 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

電波法により、5GHz帯無線LANの屋外での使用は禁止されています。

【1. ステッカー】

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーをPC本体に貼付ください。

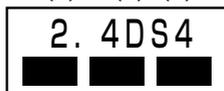
この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【2. 現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。

(1) (2) (3)



(4)

- (1) 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- (2) DS : 変調方式がDS-SS方式であることを示す。
- (3) 4 : 想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
- (4) ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【3. 東芝PCダイヤル】

受付時間 / 9:00～19:00（年中無休）

ナビダイヤル / 0570-00-3100

4 機器認証表示について

本製品には、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：PA3233U-1MPC (1)

株式会社ディーエスピーリサーチ

認証番号：03NYDA0018,

03WYBA0008,

03GZDA0017

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

東芝 Wireless LAN Mini PCI Card / Atheros AR5001X Mini PCI Wireless Network Adapter 製品は、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) / Orthogonal Frequency Division Multiplexing (OFDM) 無線技術を使用するあらゆる無線 LAN 製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision A/B)（無線 LAN 標準規格(版数 A/B)）
- Wi-Fi Alliance の定義する Wireless Fidelity (Wi-Fi) 認証

〈ご注意〉

- Bluetooth™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

【健康への影響】

Wireless LAN 製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

東芝 Wireless LAN Mini PCI Card / Atheros AR5001X Mini PCI Wireless Network Adapter 製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Wireless LAN の使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【規制に関する情報】

東芝 Wireless LAN Mini PCI Card / Atheros AR5001X Mini PCI Wireless Network Adapter のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。本装置は、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

This device has been designed to operate with an antenna having a maximum gain of 4.8dB. Antenna having a higher gain is strictly prohibited per regulations of Industry Canada. The required antenna impedance is 50 ohms.

To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (EIRP) is not more than that required for successful communication.

To prevent radio interference to the licensed service, this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.

Pour empêcher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l'objet d'une licence, il doit être utilisé à l'intérieur et devrait être placé loin des fenêtres afin de fournir un écran de blindage maximal. Si le matériel (ou son antenne d'émission) est installé à l'extérieur, il doit faire l'objet d'une licence.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

IC:248H-DPA3233W

● Europe - EU Declaration of Conformity

This device complies with the essential requirements of the R&TTE Directive 1999/5/EC with essential test suites as per standards:

- EN 60950 Safety of Information Technology equipment
- EN 300 328 and Draft EN 301 893 Technical requirements for radio equipment
- EN 301 489 General EMC requirements for radio equipment.

België/
Belgique: For outdoor usage only channel 10 (2457 MHz) and 11 (2462MHz) is allowed. For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. An IBPT/BIPT license is required for public usage outside building. For registration and license please contact IBPT/BIPT.

Gebruik buiten gebouw alleen op kanalen 10 (2457 MHz) en 11 (2462 MHz). Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke grond over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor publiek gebruik buiten gebouwen is licentie van BIPT/IBPT verplicht. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.

L'utilisation en extérieur est autorisée sur le canal 10 (2457 MHz) et 11 (2462 MHz).

Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de l'IBPT est requise. Pour une utilisation publique à l'extérieur de bâtiments, une licence de l'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter l'IBPT.

Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow
	Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 10 and 11 (2457 MHz and 2462 MHz respectively) may be used in France. License required for every installation, indoor and outdoor installations. Please contact ART for procedure to follow.
	Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 10 à 11 (2457 et 2462 MHz respectivement) doivent être utilisés en France. Toute utilisation, qu'elle soit intérieure ou extérieure, est soumise à autorisation. Vous pouvez contacter l'Autorité de Régulation des Télécommunications (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure à suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed
	E' necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. L'uso per installazione in esterni non e' permessa.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow
	Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure

● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This device complies with Part 15 of FCC Rules. Operation of the devices in a Wireless LAN System is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference.
- This device must accept any interference that may cause undesired operation.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card/Atheros AR5001X Mini PCI Wireless Network Adapter, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.

The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

● Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card/Atheros AR5001X Mini PCI Wireless Network Adapter will be installed with one of two types of antennas. The both of antenna types, when installed are located at the upper edge of the LCD screen.

For both antennas, the radiated output power of the TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card/Atheros AR5001X Mini PCI Wireless Network Adapter is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card/Atheros AR5001X Mini PCI Wireless Network Adapter shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. In normal operating configuration, the LCD in the upright position, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm. The antenna(s) used for this transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter. Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website www.hc-sc.gc.ca/rpb.

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6UPA3233WL, CJ6UPA3232BT.

● Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement. The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

4 Bluetooth について

1 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver. 1.1
	無線周波数帯	2.4GHz (2402~2480MHz)
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK
	最大通信速度	約720kbps (非対称型通信時) 約430kbps (対称型通信時)
	出力 *1	最大+4dBm (Power Class2)
	受信感度 *1	-70dBm
	通信距離	見通し10m *2
電源電圧	3.3V	
消費電流	最大200mA	

* 1 アンテナの効率は含まれません。

* 2 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

2 無線特性

Bluetooth モジュールの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各地域で適用される無線規制については、「本節5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 Bluetooth™東芝製モジュールを日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

【ステッカー】

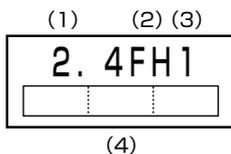
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーをPC本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- (2) FH : 変調方式がFH-SS方式であることを示す。
- (3) 1 : 想定される与干渉距離が10m以下であることを示す。
- (4)  : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

【東芝PCダイヤル】

受付時間 / 9:00～19:00（年中無休）
ナビダイヤル / 0570-00-3100

4 機器認証表示について

本製品は、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：EYTF2CS

財団法人 テレコムエンジニアリングセンター 認証番号 01NYDA1305

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

Bluetooth™ 東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum (FHSS) 無線技術を使用するあらゆる Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group 策定の Bluetooth Specification Ver.1.1
- Bluetooth Special Interest Group の定義する Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーの Logo 認証

お願い

本製品はすべての Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。

ご使用にあたっては、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

- (1) 本製品は Bluetooth™ Version 1.1 仕様に準拠しております。
Bluetooth™ Version 1.0B 仕様の Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
- (2) 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。
- (3) Bluetooth™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

【健康への影響】

Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品は他の無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Bluetooth™ 東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーの使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた装置を使用する場合
- 他の装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

Regulatory statements

General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

IC:248H-DPA3232B

Caution

FCC Interference Statement

This device complies with part 15 of the FCC rules.

Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note that any changes or modifications to this equipment not expressly approved by the manufacturer may void the authorization to operate this equipment.

Caution

Exposure to Radio Frequency Radiation

The radiated output power of the Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits.

Nevertheless, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.

In order to comply with FCC radio-frequency radiation exposure guidelines for an uncontrolled environment, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA has to be operated while maintaining a minimum body to antenna which are located on top of LCD distance of 20 cm.

Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, it is advised to use the Bluetooth™ Card from TOSHIBA in such a manner that human contact during normal operation is minimized.

NOTE : Changes or modifications made to this equipment not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6PA3171WL, CJ6UPA3232BT

Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.

The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

総合さくいん

- (記号) .NET Passport 『基本をマスター』 120
-  キー 『応用ガイド』 40
-  キーを使ったショートカットキー 『応用ガイド』 45
- (A) AC アダプタの仕様 『応用ガイド』 27
- Alt キー 『応用ガイド』 40, 41
- Arrow Mode LED 『応用ガイド』 41, 42
- (B) BackSpace キー 『応用ガイド』 41
- Battery LED 『応用ガイド』 29, 203
- BCC 『基本をマスター』 82
- BeatJam 『応用ガイド』 80, 88
- Bluetooth Manager 『応用ガイド』 140
- Bluetooth SIG 『応用ガイド』 136
- Bluetooth Stack for Windows by Toshiba 『応用ガイド』 138
- Bluetooth 機能を使う 『応用ガイド』 135
- Bluetooth 設定 『応用ガイド』 141
- Bluetooth について 『応用ガイド』 268
- Bluetooth プロファイル 『応用ガイド』 137, 143
- (C) Caps Lock LED 『応用ガイド』 40, 42
- Caps Lock 英数キー 『応用ガイド』 40
- CC 『基本をマスター』 82
- CD/DVD 再生アイコン 『応用ガイド』 30
- CD のセット 『基本をマスター』 16
- CD の取り扱い 『応用ガイド』 71
- CD の取り出し 『基本をマスター』 17
- ConfigFree 『応用ガイド』 131
- Ctrl キー 『応用ガイド』 40, 41
- CyberSupport for TOSHIBA 『困ったときは』 14
- (D) DC IN LED 『応用ガイド』 29
- Del キー 『応用ガイド』 41
- DMA 使用リソース 『応用ガイド』 247
- Drag'n Drop CD + DVD 『応用ガイド』 95
- 『困ったときは』 37
- DVD-Video を観る 『応用ガイド』 101
- DVD のセット 『基本をマスター』 16

	DVD の取り扱い	『応用ガイド』 71
	DVD の取り出し	『基本をマスター』 17
	dynabook.com (サポート情報)	『困ったときは』 20
(E)	Enter キー	『応用ガイド』 41
	Esc キー	『応用ガイド』 40
(F)	Fn キー	『応用ガイド』 40
	Fn キーを使った特殊機能キー	『応用ガイド』 43
(H)	HDD/CD-ROM LED	『応用ガイド』 29
	Home Style+	『基本をマスター』 105
	HTML 形式	『基本をマスター』 79
(I)	i.LINK コネクタ	『応用ガイド』 26
	i.LINK 対応機器の取り付け	『応用ガイド』 188
	i.LINK 対応機器の取りはずし	『応用ガイド』 188
	i.LINK 対応機器を接続する	『応用ガイド』 187
	i.LINK によるネットワーク接続	『応用ガイド』 188
	I/O ポートマップ	『応用ガイド』 247
	IEEE1394 コネクタ	『応用ガイド』 26
	IEEE1394 対応機器の取り付け	『応用ガイド』 188
	IEEE1394 対応機器の取りはずし	『応用ガイド』 188
	IEEE1394 対応機器を接続する	『応用ガイド』 187
	IME パッド	『基本をマスター』 34
	Ins キー	『応用ガイド』 41
	Internet Explorer	『基本をマスター』 58
	Internet Explorer 画面	『基本をマスター』 59
	Internet Explorer の起動	『基本をマスター』 58
	Internet Explorer の終了	『基本をマスター』 60
	InterVideo WinDVD	『応用ガイド』 101
	IRQ 使用リソース	『応用ガイド』 247
(L)	LAN ケーブルの接続	『応用ガイド』 118
	LAN コネクタ	『応用ガイド』 26
	LAN コネクタに関するインジケータ	『応用ガイド』 119
	LAN へ接続する	『応用ガイド』 118
	LINE IN 端子	『応用ガイド』 26
	LINE IN 端子への接続	『応用ガイド』 195

	LINE OUT 端子	『応用ガイド』 26
	LINE OUT 端子への接続	『応用ガイド』 194
(M)	Media Center	『応用ガイド』 16
	Microsoft IME スタンダードのプロパティ	『基本をマスター』 26
(N)	Norton AntiVirus	『困ったときは』 33
	Norton Internet Security 2002	『困ったときは』 32
	Numeric Mode LED	『応用ガイド』 41, 42
(O)	Outlook 2003	『基本をマスター』 98
	Outlook 2003 画面	『基本をマスター』 99
	Outlook 2003 の起動	『基本をマスター』 98
	Outlook 2003 の終了	『基本をマスター』 104
	Outlook 2003 のバックアップ	『困ったときは』 47
	Outlook Express	『基本をマスター』 74
	Outlook Express 画面	『基本をマスター』 75
	Outlook Express の起動	『基本をマスター』 74
	Outlook Express の終了	『基本をマスター』 76
	Outlook Express のバックアップ	『困ったときは』 44
(P)	Pause キー	『応用ガイド』 41
	PC カードスロット	『応用ガイド』 26
	PC カードの取り付け	『応用ガイド』 174
	PC カードの取りはずし	『応用ガイド』 174
	PC カードを接続する	『応用ガイド』 173
	Power LED	『応用ガイド』 29
	PrtSc キー	『応用ガイド』 41
(R)	RGB コネクタ	『応用ガイド』 24
(S)	SD Card LED	『応用ガイド』 72
	SDMI	『応用ガイド』 72
	SD カードスロット	『応用ガイド』 24
	SD メモリカード	『応用ガイド』 72
	SD メモリカードのセット	『応用ガイド』 73
	SD メモリカードの取り扱い	『応用ガイド』 77
	SD メモリカードの取り出し	『応用ガイド』 73

	Shift キー	『応用ガイド』 40, 41
	Space キー	『応用ガイド』 40
(T)	Tab キー	『応用ガイド』 40
	TV 出力切替ボタン	『応用ガイド』 25
	TV チューナ	『応用ガイド』 16
(U)	USB コネクタ	『応用ガイド』 24, 26
	USB 対応機器の取り付け	『応用ガイド』 176
	USB 対応機器の取りはずし	『応用ガイド』 177
	USB 対応機器を接続する	『応用ガイド』 176
(W)	Windows Media Player	『応用ガイド』 80, 91
	Windows のネットワーク設定	『応用ガイド』 119
	WinDVD Creator 2 Platinum	『応用ガイド』 111
(ア)	宛先	『基本をマスター』 82
	アドレス	『基本をマスター』 61
	アドレス帳のバックアップ (Outlook Express)	『困ったときは』 45
	アドレス帳を使う (Outlook Express)	『基本をマスター』 94
	アプリケーション DVD-ROM	『困ったときは』 71, 77
	アプリケーションキー	『応用ガイド』 41
	アプリケーション起動アイコン	『応用ガイド』 30
	アプリケーションを起動する	『基本をマスター』 36
	アプリケーションを削除する	『応用ガイド』 225
	アプリケーションを終了する	『基本をマスター』 36
	アプリケーションを追加する	『応用ガイド』 224
	アロー状態	『応用ガイド』 42
	アンインストール	『応用ガイド』 225
(イ)	イジェクトホール	『基本をマスター』 18
	イジェクトボタン	『基本をマスター』 18
	インスタントセキュリティ機能	『応用ガイド』 43
	インストール	『応用ガイド』 224
	インターネット接続を終了する	『基本をマスター』 56
	インターネットに接続する	『基本をマスター』 55
	インターネットボタン	『応用ガイド』 25
	インターネットへの接続について	『基本をマスター』 46
	インフラストラクチャネットワーク	『応用ガイド』 124

(ウ)	ウィンドウ	『基本をマスター』 19
	ウィンドウズキー	『応用ガイド』 40
	ウィンドウの色を変える	『応用ガイド』 56
	ウィンドウの大きさを変える	『基本をマスター』 20
	ウィンドウを移動する	『基本をマスター』 21
	ウィンドウを閉じる	『基本をマスター』 21
	ウィンドウを開く	『基本をマスター』 20
(エ)	英数字を入力する	『基本をマスター』 30
	映像データの編集について	『応用ガイド』 112
	映像データをDVDに書き込む	『応用ガイド』 113
	映像データをパソコンに取り込む	『応用ガイド』 111
	液晶ディスプレイの取り扱い	『応用ガイド』 57
(オ)	オーディオ／アプリケーションボタン	『応用ガイド』 25, 33, 84, 85, 87, 103
	オーディオ／アプリケーションボタンロック機能	『応用ガイド』 34
	オーディオ／アプリケーションボタンロック機能アイコン	『応用ガイド』 30
	オーディオデジタル再生アイコン	『応用ガイド』 30
	オートスクロール	『応用ガイド』 51
	オーバーレイキー	『応用ガイド』 41
	大文字ロック状態	『応用ガイド』 42
	[お気に入り] からホームページを表示する	『基本をマスター』 65
	[お気に入り] に登録する	『基本をマスター』 63
	[お気に入り] のバックアップ	『困ったときは』 43
	[お気に入り] を整理する	『基本をマスター』 66
	オプションの設定 (Outlook 2003)	『基本をマスター』 101
	オプションの設定 (Outlook Express)	『基本をマスター』 77
	オリジナルDVDを作る	『応用ガイド』 111
	オリジナルMDを作る	『応用ガイド』 100
	オリジナル音楽CDを作る	『応用ガイド』 95
	音楽CDを聴く	『応用ガイド』 80
	音楽ファイルを聴く	『応用ガイド』 87
(カ)	海外でインターネットに接続する	『応用ガイド』 155
	外形寸法図	『応用ガイド』 244
	回線切換器	『応用ガイド』 155

- 解像度を変更する 『応用ガイド』 56
- 外部ディスプレイを接続する 『応用ガイド』 185
- 書き込み可能状態 (SD メモリカード) 『応用ガイド』 74
- 書き込み可能状態 (フロッピーディスク) 『応用ガイド』 169
- 書き込み禁止状態 (SD メモリカード) 『応用ガイド』 74
- 書き込み禁止状態 (フロッピーディスク) 『応用ガイド』 169
- カタカナ／ひらがなキー 『応用ガイド』 41
- カタカナを入力する 『基本をマスター』 28
- 型番 『応用ガイド』 27
- かな入力 『基本をマスター』 25
- 壁紙を変える 『応用ガイド』 54
- 漢字を入力する 『基本をマスター』 27
- (キ)** キーシフトインジケータ 『応用ガイド』 42
- キーフロッピーディスクの作成 『応用ガイド』 235
- キーボード 『応用ガイド』 24
- キーボード図 『応用ガイド』 40
- キーボードの取り扱い 『応用ガイド』 46
- 記号を入力する 『基本をマスター』 29
- 休止状態 『応用ガイド』 214, 218
- (ク)** クリック (タッチパッド) 『基本をマスター』 9
- 『応用ガイド』 48
- クリック (マウス) 『基本をマスター』 13
- (コ)** コントロールパネル 『困ったときは』 22
- ごみ箱 『基本をマスター』 42
- (サ)** 再インストール 『困ったときは』 77
- 再起動 『困ったときは』 25
- 最小化 『基本をマスター』 22
- [最小化] ボタン 『基本をマスター』 19
- 再セットアップ 『困ったときは』 70
- 最大化 『基本をマスター』 22
- [最大化] ボタン 『基本をマスター』 19
- サイバーサポート 『困ったときは』 14
- サウンド機能 『応用ガイド』 59
- (シ)** システムインジケータ 『応用ガイド』 25, 29

	システム環境の変更	『応用ガイド』 228
	知っておきたいマナー	『基本をマスター』 106
	周辺機器について	『応用ガイド』 160
	受信したメールを見る (Outlook 2003)	『基本をマスター』 103
	受信したメールを見る (Outlook Express)	『基本をマスター』 87
	使用できる CD	『応用ガイド』 64
	使用できる DVD	『応用ガイド』 65
	使用できるフロッピーディスク	『応用ガイド』 168
	使用できるメディアと対応するアプリケーション	『応用ガイド』 63
	省電力モード	『応用ガイド』 210
	ジョグホイール	『応用ガイド』 25
	署名を入れる (Outlook Express)	『基本をマスター』 83
	新着メールチェック機能	『応用ガイド』 146
(ス)	スーパーバイザパスワード	『応用ガイド』 233
	数字ロック状態	『応用ガイド』 42
	スクリーンセーバを使う	『応用ガイド』 54
	スクロール (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	スクロール (マウス)	『基本をマスター』 14
	スクロールバー	『基本をマスター』 19
	スタンバイ	『応用ガイド』 214, 216
	スピーカ	『応用ガイド』 24, 59
(セ)	製造番号	『応用ガイド』 27
	製品仕様	『応用ガイド』 240
	赤外線ポート	『応用ガイド』 24
	セキュリティロック	『応用ガイド』 78
	セキュリティロック・スロット	『応用ガイド』 26
(ソ)	操作メニュー	『基本をマスター』 19
	増設メモリスロット	『応用ガイド』 27
	増設メモリの取りはずし／取り付け	『応用ガイド』 198
(タ)	タイトルバー	『基本をマスター』 19
	タッチパッド	『基本をマスター』 8
		『応用ガイド』 25, 47
	タッピング	『応用ガイド』 48
	ダブルクリック (タッチパッド)	『基本をマスター』 9
		『応用ガイド』 48

	ダブルクリック (マウス)	『基本をマスター』 13
(ツ)	ツールバー	『基本をマスター』 19
	通知領域	『基本をマスター』 22
	通風孔	『応用ガイド』 26
(テ)	ディザリング	『応用ガイド』 52
	ディスクトレイ LED	『基本をマスター』 18
	ディスプレイ	『応用ガイド』 24, 52
	ディスプレイ開閉ラッチ	『応用ガイド』 24
	テキスト形式	『基本をマスター』 79
	デジカメ Walker	『応用ガイド』 108
	デジタルカメラの写真を編集／整理する	『応用ガイド』 108
	デジタルビデオカメラの映像を取り込む	『応用ガイド』 111
	デスクトップのテーマを変える	『応用ガイド』 53
	テレビに表示する	『応用ガイド』 178
	テレビ番組を見る	『応用ガイド』 16
	テレビを接続する	『応用ガイド』 178
	電源コードの仕様	『応用ガイド』 27
	電源コードの取り扱い	『応用ガイド』 28
	電源コネクタ	『応用ガイド』 26
	電源スイッチ	『応用ガイド』 25
	添付ファイルを開く (Outlook Express)	『基本をマスター』 88
	電話回線を接続する	『基本をマスター』 48
(ト)	東芝 HW セットアップ	『応用ガイド』 229
	東芝 PC 診断ツール	『困ったときは』 27
	東芝 SD メモリカードフォーマット	『応用ガイド』 75
	東芝コントロール	『応用ガイド』 35
	東芝省電力キューティリティ	『応用ガイド』 210
	特殊機能キー	『応用ガイド』 46
	時計用バッテリー	『応用ガイド』 205
	[閉じる] ボタン	『基本をマスター』 19
	ドライバをインストールする	『応用ガイド』 161
	ドライブ	『応用ガイド』 24, 62
	ドラッグアンドドロップ (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	『応用ガイド』 48
	ドラッグアンドドロップ (マウス)	『基本をマスター』 14

(ナ)	内蔵マイク	『応用ガイド』 24
	内蔵モデム	『応用ガイド』 155
	内蔵モデム用地域選択ユーティリティ	『応用ガイド』 155
	ナチュラルインプット	『基本をマスター』 25
(ニ)	日本語入力システム MS-IME を起動する	『基本をマスター』 25
	入力に関する制御キー	『基本をマスター』 32
(ハ)	ハードウェアリソース	『応用ガイド』 247
	ハードディスクドライブ	『応用ガイド』 58
	パスワードの削除	『基本をマスター』 112
	パスワードの設定	『基本をマスター』 110
	パスワードの入力	『基本をマスター』 111
	パスワードの変更	『基本をマスター』 112
	パスワードを忘れたときのために	『基本をマスター』 113
	パソコンの設定	『基本をマスター』 53
	パソコン本体の取り扱い	『応用ガイド』 28
	バックアップ	『困ったときは』 37
	バックライト用蛍光管	『応用ガイド』 57
	バッテリー駆動で使用できる時間	『応用ガイド』 207
	バッテリー残量アイコン	『応用ガイド』 30
	バッテリー充電完了までの時間	『応用ガイド』 206
	バッテリー充電量を確認する	『応用ガイド』 203
	バッテリーの充電方法	『応用ガイド』 206
	バッテリーの充電保持時間	『応用ガイド』 207
	バッテリーパック	『応用ガイド』 27, 202
	バッテリーパックの交換方法	『応用ガイド』 208
	バッテリー・リリースラッチ	『応用ガイド』 27
	バッテリーを長持ちさせるには	『応用ガイド』 207
	パネルスイッチ機能	『応用ガイド』 221
	半/全キー	『応用ガイド』 40
(ヒ)	ピア・ツー・ピアワークグループ	『応用ガイド』 123
	光デジタルオーディオ出力端子	『応用ガイド』 26
	光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する	『応用ガイド』 189
	光デジタル対応機器の取り付け	『応用ガイド』 190
	光デジタル対応機器の取りはずし	『応用ガイド』 190
	光デジタル対応機器への録音	『応用ガイド』 190

	ピクセル	『応用ガイド』 52
	左ボタン (タッチパッド)	『基本をマスター』 8
	『応用ガイド』 25
	左ボタン (マウス)	『基本をマスター』 11
	ビデオケーブル	『応用ガイド』 19, 178, 194
	ビデオ出力端子	『応用ガイド』 26
	ビデオモード	『応用ガイド』 245
	表示可能色数	『応用ガイド』 52
	ひらがなを入力する	『基本をマスター』 27
(フ)	ファイル	『基本をマスター』 37
	ファイルシステム	『応用ガイド』 68
	ファイルの圧縮方法	『基本をマスター』 107
	ファイルの解凍方法	『基本をマスター』 107
	ファイルのコピー	『基本をマスター』 40
	ファイルの作成	『基本をマスター』 38
	ファイルの名前を変更する	『基本をマスター』 40
	ファイルを削除する	『基本をマスター』 42
	ファンクションキー	『応用ガイド』 40
	フォーマット (DVD-RAM)	『応用ガイド』 67
	フォーマット (SD メモリカード)	『応用ガイド』 75
	フォーマット (フロッピーディスク)	『応用ガイド』 170
	フォルダ	『基本をマスター』 37
	フォルダのコピー	『基本をマスター』 40
	フォルダの作成	『基本をマスター』 38
	フォルダの名前を変更する	『基本をマスター』 40
	フォルダを削除する	『基本をマスター』 42
	複数のユーザで使用する	『基本をマスター』 114
	プラグアンドプレイ	『応用ガイド』 161
	ブロードバンドについて	『基本をマスター』 47
	フロッピーディスクドライブ	『応用ガイド』 167
	フロッピーディスクドライブの手入れ	『応用ガイド』 172
	フロッピーディスクの取り扱い	『応用ガイド』 172
	プロバイダと契約する	『基本をマスター』 51
	文書を保存する	『基本をマスター』 30
(ヘ)	ヘッドホン	『応用ガイド』 193
	ヘッドホン出力端子	『応用ガイド』 26

	ヘルプの起動（日本語入力システム MS-IME）	『基本をマスター』 35
	ヘルプの起動方法（Outlook 2003）	『基本をマスター』 105
	変換キー	『応用ガイド』 41
	変換し直す	『基本をマスター』 34
	変換の区切りを変える	『基本をマスター』 33
(ホ)	ホームページの画像を壁紙に設定する	『基本をマスター』 69
	ホームページの画像を保存する	『基本をマスター』 69
	ホームページの検索	『基本をマスター』 62
	ホームページの表示	『基本をマスター』 61
	ホームページを保存する	『基本をマスター』 68
	ホイール（タッチパッド）	『基本をマスター』 10
	ホイール（マウス）	『基本をマスター』 11
	ポインタ	『基本をマスター』 8
	ポインタを動かす（タッチパッド）	『基本をマスター』 9
	ポインタを動かす（マウス）	『基本をマスター』 13
	ボリュームコントロール	『応用ガイド』 59
	ボリュームダイヤル	『応用ガイド』 24, 59
(マ)	マイク入力端子	『応用ガイド』 26
	マイクrohホン	『応用ガイド』 192
	マウス	『基本をマスター』 11
	マルチスタイルベイ	『応用ガイド』 26
	マルチスタイルベイ LED	『応用ガイド』 29
	マルチスタイルベイ機器を差し替える	『応用ガイド』 163
	マルチスタイルベイ・リリースラッチ	『応用ガイド』 27
	マルチスタイルベイロック	『応用ガイド』 27
	マルチスタイルベイロック解除	『応用ガイド』 27
(ミ)	右クリック（タッチパッド）	『基本をマスター』 10
	右クリック（マウス）	『基本をマスター』 13
	右ボタン（タッチパッド）	『基本をマスター』 8
		『応用ガイド』 25
	右ボタン（マウス）	『基本をマスター』 11
(ム)	無線 LAN	『応用ガイド』 120
	無線 LAN について	『応用ガイド』 260
	無変換キー	『応用ガイド』 40

(メ)	メールにファイルを添付する (Outlook Express) .. 『基本をマスター』 84
	メールボタン 『応用ガイド』 25
	メールを検索する (Outlook Express) 『基本をマスター』 97
	メールを削除する (Outlook Express) 『基本をマスター』 92
	メールを作成する (Outlook 2003) 『基本をマスター』 102
	メールを作成する (Outlook Express) 『基本をマスター』 81
	メールを受信する (Outlook 2003) 『基本をマスター』 103
	メールを受信する (Outlook Express) 『基本をマスター』 87
	メールを整理する (Outlook Express) 『基本をマスター』 93
	メールを送信する (Outlook 2003) 『基本をマスター』 103
	メールを送信する (Outlook Express) 『基本をマスター』 85
	メールを転送する (Outlook 2003) 『基本をマスター』 104
	メールを転送する (Outlook Express) 『基本をマスター』 91
	メールを返信する (Outlook 2003) 『基本をマスター』 104
	メールを返信する (Outlook Express) 『基本をマスター』 90
	メニューバー 『基本をマスター』 19
	メモ帳 『基本をマスター』 24
	メモリマップ 『応用ガイド』 247
	メモリ容量の確認 『応用ガイド』 200
	メモリを増設する 『応用ガイド』 196
(モ)	モード切替ボタン 『応用ガイド』 25
	モードパネル 『応用ガイド』 25, 30
	文字キー 『基本をマスター』 23
	文字化け 『基本をマスター』 79
	モジュラージャック 『応用ガイド』 26
	文字を削除する 『基本をマスター』 33
	[元に戻す (縮小)] ボタン 『基本をマスター』 19
(ヤ)	矢印キー 『応用ガイド』 41
(ユ)	ユーザアカウントの設定を変更する 『基本をマスター』 117
	ユーザアカウントを切り替える 『基本をマスター』 115
	ユーザアカウントを追加する 『基本をマスター』 114
	ユーザパスワード 『応用ガイド』 233
	ユーザパスワードの削除 『応用ガイド』 236
	ユーザパスワードの登録 『応用ガイド』 234
	ユーザパスワードの変更 『応用ガイド』 236

	ユーザパスワードを忘れてしまった場合	『応用ガイド』 236
(ヨ)	読みかたがわからない文字を入力する	『基本をマスター』 34
(ラ)	ライトプロテクトタブ (SD メモリカード)	『応用ガイド』 74
	ライトプロテクトタブ (フロッピーディスク)	『応用ガイド』 169
(リ)	リカバリ DVD-ROM	『困ったときは』 71
	リモコン	『応用ガイド』 20
	リモコン受光ユニット	『応用ガイド』 20
	リリース情報	『応用ガイド』 10
	履歴	『基本をマスター』 71
(ロ)	ローマ字入力	『基本をマスター』 25
	ローマ字入力一覧表	『基本をマスター』 122
	録音レベルの調整	『応用ガイド』 60
(ワ)	ワイヤレスコミュニケーション LED	『応用ガイド』 129, 139
	ワイヤレスコミュニケーションスイッチ	『応用ガイド』 24
	ワンタッチボタン	『応用ガイド』 32